

はじめに

青森県総合社会教育センターは、社会教育の充実振興を図るため、平成元年より社会教育に関する調査研究事業を行っております。特に平成10年からは、現代的課題を継続して調査研究して参りました。

本報告書は、現代的課題である「地域の連帯」をテーマに、人と地域のつながりについて実施した県民の意識調査の結果をまとめたものであります。調査結果からは、多くの人が、地域の連帯感が薄れてきたと感じているものの、地域活動には参加意欲があるという結果が得られるなど、地域の実態を知るためのデータを収集することができました。

この報告書が、各学習提供機関における社会教育・生涯学習事業の基礎資料としてお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、御協力を頂きました県民の皆様、並びに関係機関の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成16年3月

青森県総合社会教育センター

所長 豊澤 武輝

目 次

はじめに	p. 1
第 1 章 調査の概要	
1 実施計画-----	p. 3
2 調査の方法及び回収結果-----	p. 4
3 調査結果の概要-----	p. 5
4 まとめ-----	p. 10
5 “向こう三軒両隣”の復活を（委員会より）--	p. 12
第 2 章 単純集計-----	p. 13
第 3 章 クロス集計結果の分析-----	p. 35
参考資料 調査用紙-----	p. 86

【単純集計 表記上の注意点】

- 1 グラフや数値表の（n）は、その設問に対する有効回答数である。
- 2 グラフや数値表の（SA）は単数回答のデータ。（MA）は複数回答のデータを表す。
- 3 グラフにおける百分率は、少数第一位以下を四捨五入したため、単数回答であっても合計が100%にならない場合がある。

第 1 章 調査の概要

1 実施計画

(1) 名称 現代的課題の学習に関する調査研究

－地域の連帯についての学習に関する調査－
(調査名)「人と地域のつながりに関する調査」

(2) 調査の必要性と目的

今日、青森県においても、交通網や情報通信手段の著しい発達・普及によって生活圏や経済圏が拡大し、急激な社会経済環境の変化に伴い、人々の生活様式や価値観は多様化の一途を辿っている。そのような中で、地域での心のふれあいや連帯感が希薄化し、共同体としての機能が低下している様子が見られるようになってきた。

それぞれの地域にあっては、自治会活動、消防団活動、文化活動、生涯学習活動などを通じて、地域社会における連帯意識や役割意識の醸成に努めているものの、高齢化や核家族化の進行により、地域活動における担い手が不足し、活動に支障をきたしているケースも見受けられ、地域福祉などをはじめとする様々な分野で地域の連帯がなければ解決の難しい課題が増えている状況である。

また、阪神・淡路大震災や、県内で発生した数々の災害からも、非常時における住民組織の連携が重要であると多くの教訓を得ており、防災の観点からも、日常時の地域の連帯のあり方について反省を迫られているといえる。

さらに、物質的生活において豊かになった反面、子どもに限らず大人にも見られるモラルの低下や、利己的行為の増加などが地域の社会的連帯を衰退させ、親をはじめとする地域の大人の教育的主導性を弱める事態を引き起こしていると考えられる。

今後、このような社会的課題に対応し、市民の自治による豊かな地域社会を築いていくためには、住民や各種団体と行政がどのように協働していけばよいのか。住民主体のコミュニティづくりを推進していくためには何が重要となるのか研究する必要がある。

平成4年度生涯学習審議会の答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」の中では、現代的課題とは、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、人々が学習する必要のある課題とされており、その一つの例として「地域の連帯」が上げられている。

また昨年度、当センターが市町村教育委員会を対象に実施した、「モデル学習事業開発に関するニーズ調査」において、現代的課題に関する学習の事業開発として取り上げてほしいテーマに、「地域開発」、「伝統文化継承」、「生活環境」、「地域の連帯を含む『まちづくり』」を選んだ担当者が最も多く、34市町村が希望している。

以上のことをふまえて、地域の連帯に関する調査を行い、県民の意識の実態や必要課題を明らかにし、各学習提供機関が先進的な学習事業を企画したり、学習プログラムを開発する際の基礎資料として提供することを目的として行ったものである。

(3) 調査内容の構成

○回答者の属性

○近所づきあいの程度

- ・近所づきあいについて
- ・最も親しい隣人について

○地域の連帯感

- ・住民同士のつながりをどう感じているか。その原因について
- ・連帯を高める方法について

○地域活動に対する関心 (個人的なかかわりから)

- ・どのような地域活動に参加しているか
- ・これから参加したい地域活動は何か
- ・地域とのかかわりについて
- ・活動に参加している団体について

○町内会

- ・町会費について
- ・町内会活動について参加の希望
- ・町内会活動の必要性について
- ・町内会がこれから取り組むべき課題

2 調査の方法及び回収結果

(1) 調査方法 郵送調査法

(2) 調査対象 一般県民対象 (20歳以上の男女)
標本数 3,000人

(3) 標本抽出法 2段階無作為抽出法
圏域を設定し、市町村を抽出(1段)

人口比に応じて配分した人数を選挙人名簿から無作為抽出(2段)

(4) 回収結果及び回収率

郵送数	3,000
回収数	991
回収率	33.0%
有効回答数	986
有効回答率	32.9%

3 調査結果の概要

(単純集計・クロス集計分析の結果から)

○回答者の属性

(単純集計p.13～19)

県内の20歳以上の男女3,000人に調査票を郵送し、991人から回答を得た。回収率は33.0%であった。

性別は男性44.6%、女性53.9%で、平成15年6月1日現在の青森県の推計人口における男女比とほぼ一致している。

年代別では、20代10.6%、30代18.2%、40代26.0%、50代25.6%、60代以上13.5%で、20代と60代以上の回収数がやや不足している。

居住地別では、三市（青森、弘前、八戸）49.3%、五市（五所川原、黒石、十和田、三沢、むつ）16.9%、町村部（東・西・南・北・中津軽郡、上北郡、下北郡、三戸郡）32.4%であり、これは調査時の人口構成（48.6%、16.4%、34.9%）にほぼ一致し、回収標本に偏りはないといえる。

○近所づきあいの程度

1 今後人間関係を深めたい相手について

(Q16 単純集計p.20)

◎身近な人とのつきあいを深めたい。

今後人間関係を深めたい相手については、家族や、地域や近所の人、家族以外の親族という回答が多く、身近な人とのつきあいを深めたいという傾向がみられた。

2 近所づきあいの程度について

(Q17 単純集計p.21 クロス集計p.37)

◎近隣の人々との人間関係の程度を決定する要因は、一般的にイメージされるものである。

本調査では、県民の近隣交際活動の実態を知るために、日常的に何人くらいとどのような関係を取り交わしているか、その要因は何か、という近隣関係の量と質を測定する近隣交際量⁽¹⁾を算出した。

その結果、近隣との交際の特徴は、農村部に21年以上、4世代以上に渡って居住している50歳以上の人の交際量が多く、逆に、都市部に住み居住年数が短く年齢の若い人は交際量が少ないということが分かった。

職業を持つ人については自宅の近隣で働く場合が多い農業等の自営業の交際量が多く、車等で長時間通勤する給与所得者の交際量は少ないといえる。このように、近隣の人々との人間関係の程度を決定する要因は、一般的にイメージされるものと同様であった。

注(1) 小田利勝(2003)の「都市高齢者の近隣交際量の分析」では神戸市に住む65歳以上の高齢者を対象に8項目の交際内容(あいさつ、立ち話、お祝い、家に行き来、おすそわけ、遊びや旅行、相談、金銭貸借)について、それぞれの人数の合計を近隣交際指数として算出しており、本調査でも同様の項目について算出した。

3 近所づきあいの深さについて

(Q18 単純集計p.22 クロス集計p.44)

◎近所づきあいの人数が多い人は特定の近所の人とのつきあいも深い。

本調査では近所づきあいの程度を測るために、近所で最も親しくしている人を一人限定してもらい、その人とのつきあいの現状を聞いて深淺を考察した。その結果、近所づきあいの人数が多い人は特定の近所の人とのつきあいも深い傾向にあることが分かった。

また、農業・山間地域や自営業の「近所づきあい」が深くなっているのは、農業経営者は一般的に先祖代々農地を引き継いでいくことで居住年数が長くなることや、近隣の家も農業が多いことが理由と考えられる。

◎住み始めた世代が新しくなるにつれ、近所づきあいが浅いが、自分の代から住み始めた人は近所づきあいが深い。

居住開始世代については、住み始めた世代が新しくなるにつれ、近所づきあいが浅くなる傾向にある。一方、自分の代から住み始めた、比較的居住年数が短い人は、近所づきあいが「深い」と判断できた。これは新興住宅地がつくられて住民が新たに居住し始めた場合に、町内会・自治会の設立や活動に必然的な関わりが求められたり、近所に友人を求めようという意識が働き、居住年数の経過とともに特定の人との近所づきあいが深まっていったと考えられる。

さらに「地域活動の参加経験」「地域社会への態度」との関連については、それぞれ地域活動の経験が多い人とコミュニティ意識が高い人(p.7参照)が近所づきあいが深くなっている。

○地域の連帯感

4 地域活動の経験

(Q19 単純集計p.23 クロス集計p.50)

◎最も多く参加したことのある活動は「地域の美化活動」。

福祉ボランティア、防災訓練、美化活動など自分の住む地域のための活動について参加状況を聞いたところ、最も多く参加したことのある活動が「地域の美化活動」で、次いで「資源回収と環境に関する活動」が多くみられた。また、属性別では、6歳以下の子どもがいない人、居住年数が長い人、農業・山間地域で自営業をしている人の地域活動への参加割合が高くなっている。

5 住民同士のつながりについて

(Q20 単純集計p.24 クロス集計p.55)

◎約半数の人が住民同士のつながりが「弱くなった」と感じている。

住民同士のつながりの変化をどのように感じているかについて聞いたところ、約半数の人が住民同士のつながりが「弱くなった」と感じており、内訳では曾祖父母の代以前から居住する自営業の男性の割合が多い。また「変わらない」と感じるのは若い世代が多く、「わからない」と回答したのは、自分の代から居住した人や女性、親戚が県外に居住している人が多かった。

◎つながりが弱くなったと感じている人は地域活動への参加意欲が高く、住民同士のつながりを取り戻したいという意識が強い。

次に住民同士のつながりの変化の感じ方と、近隣交際指数、近所づきあいの深さ、地域活動の経験、地域活動への参加意欲、地域社会への態度との関連をみた。そのうち関連があったのは地域活動への参加意欲のみで、住民同士のつながりが弱くなったと感じている人は地域活動への参加意欲が高く、住民同士のつながりを取り戻したいという意識が強いと考えられる。

6 住民同士のつながりを強めるために必要なこと (Q21 単純集計p.26)

◎住民同士のつながりを強めるために「あいさつ」が必要であるが7割。

住民同士のつながりを強めるために「あいさつ」が必要であるという回答が70.4%あり、次いで「子どもが遊べる空間の整備」61.8%、「社会環境の浄化」49.3%となっている。あいさつは、心の通う家庭づくりや地域など、人間的なつながりをつくる大切なものであり、人と人のコミュニケーションの原点として、各地で声かけ運動が行われているように、多くの人が必要を感じているようである。

○地域活動への関心

7 参加してみたい地域活動 (Q22 単純集計p.27 クロス集計p.57)

◎「環境保護活動」に参加したいと考えている人が最も多い。

今後参加してみたい活動を聞いたところ、「環境保護活動」に参加したいと考えている人が「是非参加したい」「できれば参加したい」を合わせて61.1%で最も多く、次いで「福祉活動」が51.8%、「スポーツ振興」が46.9%となっている。

また、年齢別では、地域活動への参加意欲が高いのは「40歳代」で56.8%、以下「30歳代」が38.5%、「20歳代」が32.9%となっている。

「6歳以下の子どもの有無」では「いない」の52.0%が地域活動への参加意欲が高く、「いる」は36.3%と低かった。以上の結果から、地域活動には6歳以下の子どもがいない40歳代が多く関わっているといえる。

8 地域社会への態度 (Q23 単純集計p.28 クロス集計p.61)

◎近所づきあいが少なかった給与所得者や都市に居住する人や未婚者が、地域社会に関心がないというわけではない。

県民の「コミュニティ意識」(p.61参照)をとらえることを目的として、住民の地域社会への態度⁽²⁾を測定した。

その結果、コミュニティ意識の高まりは、年齢の上昇や居住年数の長さ、また子どもの養育の終了といった時間的経過による要因が大きく、地域と関わる時間が長いほど地域への愛着が深まるとともに、地域が抱える問題も見えてくることがわかった。つまり、近隣交際量や近所づきあいの深さで関連のあった地域差や職業、結婚の有無等の要因はコミュ

ニティ意識にはあまり関連がない。換言すれば、近所づきあいが少なかった給与所得者や都市に居住する人や未婚者が、地域社会の問題や自治に関心がないというわけではないという結果となった。さらに、かなりコミュニティ意識が高い群は、近所づきあいも多く地域活動の経験や参加意欲もあることが分かった。

一方で、年齢が20～30代で未婚者、四年制大学を卒業し、都市部の賃貸住宅に住み、居住年数5年以下の人が、コミュニティ意識は高いが、地域活動への参加が少ないという結果が出た。

注（2）田中國夫他(1978)「地域社会への態度の類型化について」で開発された住民の地域社会への態度を測定する方法。

9 町内会・自治会の活動への参加の程度 (Q24 単純集計p.29 クロス集計p.68)

◎町内会・自治会へは、個人所有の一戸建てに家族で住み、居住年数が長く年代の高い人が参加している。

現在加入（参加）している団体の有無や活動の程度について聞いたところ、町内会・マンション等の自治会への参加が最も多かった。

町内会・自治会へは、個人所有の一戸建てに家族で住み、居住年数が長く年代の高い人が参加しているといえる。都市部ほど賃貸住宅が多いため、加入や活動への参加は少なくなっている。また、賃貸マンション・アパートは居住年数が短く、単身の若年層の居住が多いため、町内会・自治会の必要性をあまり感じないのではないかとみられる。居住開始世代については、ここでも「近所づきあい」の深さでみられたように「曾祖父母の代以前」から「親の代」へと、住み始めた世代が新しくなるにつれて参加が少なくなる傾向にあるが、「自分の代」から住み始めた人は親等による以前からの参加がないため、自ら参加する必要性を感じることから一転して高くなっていると考えられる。

○町内会について

10 町内会費について (Q25 単純集計p.30)

◎町内会費を「払っている」が84.2%。

町内会費を「払っている」が84.2%であり、「払っていない」は11.8%であった。払っていない理由は「その他」43.0%が最も多く、ついで「マンションの管理人まかせ」と「町内会の存在を知らない」がともに15.4%であった。「その他」の記述内容としては、親が入っているので自分は支払っていないという答えが多くみられた。他に、「活動に不満がある」3.4%、「つきあいが煩わしい」5.4%、「行事に参加したくない」6.0%、「役員になりたくない」4.7%、「会費を払いたくない」6.7%と、町内会への否定的な見方により会費を払っていない人も若干存在した。

11 今後の町内会活動への参加意欲 (Q26 単純集計p.31 クロス集計p.73)

◎加入（参加）していない人の4割近くは参加したいという希望を持っている。

今後の町内会活動への参加意欲については、周辺環境や居住地域の違いに関わらず、年齢や居住年数等の時間的経過によって高くなっていくものと考えられる。また、現在町内会の活動に参加している人の多くは、今後も参加したいと希望していることがわかる。また、加入（参加）していない人の36.3%は参加したいという希望を持っていた。しかし、町内会費を納入している人のうち約3割が町内会に「加入していない」と回答していることから、世帯としては加入しているものの、個人としては加入しているという意識がないか、会費を納入していても町内会に加入しているという意識まで至っていないものと考えられる。

12 町内会の必要性 Q27 単純集計p.32 クロス集計p.81)

◎町内会について78.6%の人が必要性を感じている。

町内会の必要性についても、町内会活動への参加意欲と同様に、全体の78.6%の人が必要性を感じている。

それぞれの属性内で多少の差異はみられたものの、圧倒的な割合で町内会の必要性を認めている。

4 まとめ

地域の連帯感が希薄化し、共同体としての機能が低下しているのではないかと推測からアンケート調査を実施し、県内の20歳以上の男女991人から回収したデータを集計・分析した。

まず、今後人間関係やつきあいを深めたい相手として、家族や、近所の人、親族など、身近な人とのつきあいを深めたいという傾向がみられた。

近所づきあいについては、高齢で4世代以上に渡って農村部に居住している人の交際量が多く、逆に、若い人で居住年数が短く都市部に住む人は交際量が少なくなっている。このように、近隣の人々との人間関係の程度を決定する要因は、一般的にイメージされるものと同様であった。

さらに、近所づきあいの交際量が多い人は特定の近所の人とのつきあいも深い傾向があった。また、住み始めた世代が新しくなるにつれ、近所づきあいが浅くなる傾向がみられた。しかし、自分の代から住み始めた比較的居住年数が短い人は近所づきあいが「深い」ということがわかった。

これまで参加したことがある地域活動について聞いたところ、最も多く参加したことがあるのは「地域の美化活動」で、次いで「資源回収と環境に関する活動」であった。属性別では、6歳以下の子どもがいない人、居住年数が長い人、農業・山間地域で自営業をしている人の参加する割合が高くなっている。

住民同士のつながりの変化をどのように感じているか聞いたところ、約半数の人が「弱くなった」と感じていた。また、「わからない」との回答も多く、自分の代から居住した人や女性、親戚が県外に居住している人が多くみられた。住民同士のつながりが弱くなったと感じている人は、地域活動への参加意欲が高く、住民同士のつながりを取り戻したいという意識も強いことがわかった。住民同士のつながりを強めるために「あいさつ」が必要であるという回答が7割あり、多くの人が必要を感じているものと思われる。

これから参加してみたい地域活動を聞いたところ、「環境保護活動」が最も多く、地域活動に参加する意欲が高いのは、6歳以下の子どもがいない40歳代の人で多くなっている。

県民のコミュニティ意識をとらえることを目的として、住民の地域社会への態度を測定したところ、コミュニティ意識が高くなるのは、居住年数の長さや年齢の上昇、また子どもの養育の終了といった時間的経過による要因が大きいことがわかった。また、コミュニティ意識と関連する他の要因が見当たらないことから、近所づきあいが少ない人も、地域社会に対する関心が低くないことがわかった。

さらに、かなりコミュニティ意識が高い人たちは、近所づきあいも多く地域活動の経験や参加意欲もあった。一方で、20～30代で未婚者、四年制大学を卒業し、都市部の賃貸住宅に住み、居住年数5年以下の人が、コミュニティ意識は高いが、地域活動への参加が少ないという結果であった。

既存の団体である町内会・自治会へ参加している人の特徴として、都市部、個人所有の一戸建てに居住、家族同居、居住年数が長い、比較的高齢が上げら

れる。居住開始世代については、住み始めた世代が新しくなるにつれて参加が少なくなる傾向にあるが、「自分の代」から住み始めた人は、一転して活動への参加が高くなっている。町内会費については84%の人が払っていたが、町内会活動への参加率は、「いつも参加」「ときどき活動に参加」「たまにしか参加しない」をあわせても、41.7%で半数を下回っていた。一方、町内会の必要性について聞いたところ、全体の78.6%の人が必要性を感じており、さらに、参加していない人の36.3%は参加したいという希望を持っていた。比較的若くて家を持っていない人は、町内会の必要性について「わからない」が多くなっていた。これらのことから、町内会が有する機能や役割が重要であることを一人一人の住民により深く理解してもらうことで、さらに多くの人が町内会などの地域活動に参加してくれる可能性があると考えられる。

地域の連帯意識を高めるための担い手は、まさしく地域住民自身である。しかし、現在、地域活動の中心となっているのは主に高齢者世代である。今後は地域とのかかわりが疎遠になりがちな生産者世代である中高年が、職業や趣味などの経験を通じて培ってきた知識や技能を生かして地域の活動に参加することで、地域の中に自分の居場所を見つけるとともに、その活動を一層充実・発展させていくことが期待される。

また、地域の課題に対する認識を深め、地域住民が共通理解の下に地域活動への参加意欲を高めていくためには、まず町内会等の団体が自主的に学習会を企画するなど、地域住民が自発的に学習活動を推進する雰囲気づくりが重要であると考えられる。

“向こう三軒両隣”の復活を (委員会より)

戦前・戦中のわが国にあっては大家族・中家族が中心だった。その中にあっては個人の自由はしばしば抑圧され、とりあけヨメの苦労は並大抵ではなかった。戦後はその反動と、折からの人権思想が相まって、核家族が主流をなすようになる。とはいえ、それでも戦後まもなくは、中家族が幅を利かせていたのである。

ところが、家族一人当たりの豊かさの追求と人権思想の浸透は少子化現象を招き、子供の数が1人というケースも稀ではなくなっていく。このことは家族関係や人間関係にさまざまな副作用をもたらすが、そのひとつとして“向こう三軒両隣”を奪っていったことがあげられよう。

かつて、向こう三軒両隣を成り立たせていたひとつの要因として、子沢山があったことは否めない。子供の本性の最大のもの好奇心と遊び心である。それらは近隣の子供の達の仲間意識を醸成させ、子供どうしの交流を育てていく。いきおい、親たちもそれに無関心であるというわけにはいかなくなる。放っておいても向こう三軒両隣は成り立っていったのである。しかし、少子化現象とプライバシーを重んじる意識は、向こう三軒両隣をしだいに影の薄いものとしていく。

そして、経済的な豊かさを手に入れるようになって幾星霜。地域を住みよいものにしていくためには、さらには地域の人々の人間的うるおいを保っていくためには、そこに住む人たちの連携と交流が欠かせないという意識が芽生えるようになる。というよりは、戦後におけるさまざまな紆余曲折を経て、社会的な存在としての人間の原点に立ち還ろうという、新たな視点での意識が興ってきたと言って過言ではあるまい。

そういう社会的な背景のもとに行われたわけだが、委員の皆様からは「人と地域のつながり」に関する、実情に則した多面的な情報や意見が寄せられている。そのことがこの調査研究をいかに実りあるものに導いたか、座長として感謝の念に耐えないが、それと共に特筆しておきたいのは、これら委員の皆様からのさまざまな情報や意見を消化し、このような充実した調査報告書を作成したワーキングメンバーの力量である。ここにあらためて敬意の念を表したい。

もとより、調査報告書はあくまでも調査報告書にすぎない。この成果をふまえて、どのような地域が生まれるかについては、青森県総合社会教育センターの指導力と、地域に住む人々の自覚と尽力に俟つしかない。今後の実りのある成果を期待して止まない。

平成16年3月

委員会座長 福 士 隆 三

属性

Q1 あなたの^{せいべつ}性別を教えてください。(あてはまる番号を○で囲んでください)

Q1 性別…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	男性	440	44.6
2	女性	531	53.9
	無回答	15	1.5
	全体	986	100.0

Q2 あなたの^{ねんれい}年齢をお知らせください。

Q2 年齢…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	20歳～29歳	105	10.6
2	30歳～39歳	179	18.2
3	40歳～49歳	257	26.0
4	50歳～59歳	252	25.6
5	60歳～69歳	133	13.5
6	70歳以上	38	3.9
	無回答	22	2.2
	全体	986	100.0

Q3 あなたの^{しよくぎょう}職業は、大きく分けて、次のどれにあたりますか。

Q3 職業…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	給与所得者	424	43.0
2	専業主婦(夫)	140	14.2
3	自営業	123	12.5
4	アルバイトなど	118	12.0
5	仕事をしていない	87	8.8
6	その他	37	3.8
7	家族従事者	29	2.9
8	学生	8	0.8
	無回答	20	2.0
	全体	986	100.0

属性

Q3-1 通勤・通学をしている方にお聞きします。あなたのご自宅から職場や学校まで、どれくらいの時間がかかりますか。

SQ3-1 通勤時間…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	歩いて15分	96	9.7
2	車等で15分以内	228	23.1
3	車等で15分～30分程度	173	17.5
4	車等で30分～1時間程度	63	6.4
5	それ以上	21	2.1
6	自宅が勤務場所である	48	4.9
	無回答	357	36.3
	全体	986	100.0

Q3-2 仕事をしている方にお聞きします。あなたはご自身の仕事のつごうで、引っ越したことがありましたか。

SQ3-2 引っ越し…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	引っ越したことがある	155	15.7
2	引っ越したことがない	551	55.9
	無回答	280	28.4
	全体	986	100.0

Q4 あなたは^{けっこん}結婚していますか。

Q4 結婚…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	未婚	147	14.9
2	既婚	741	75.2
3	配偶者離死別	76	7.7
	無回答	22	2.2
	全体	986	100.0

属性

Q5 あなたの家族構成（同居している人）を教えてください。

Q5 家族構成…(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	2世代（親と子）	510	51.8
2	3世代（親と子と孫）	176	17.8
3	夫婦のみ	161	16.3
4	その他	66	6.7
5	ひとり暮らし	54	5.5
	無回答	19	1.9
	全体	986	100.0

Q6 あなたにはお子さんがいますか。

Q6 子の有無…(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	755	76.6
2	いいえ	215	21.8
	無回答	16	1.6
	全体	986	100.0

Q7 お子さんの^{ねんれい}年齢は何歳ですか。

SQ7-1 子どもの就学期別人数…(MA)

	年代	第一子	第二子	第三子	第四子	第五子
1	就学期前	68	62	37	6	3
2	小学生期	106	97	50	7	2
3	中学生期	39	53	16	4	1
4	高校生期～19歳	98	80	31	3	2
5	20歳以上	435	338	109	18	4
	無回答	25	25	25	25	25
	非該当(子どもがいない)	215	331	718	923	949
	全体	986	986	986	986	986

属 性

Q8 あなたの^{しゅっしょうち}出生地（生まれた場所）はどちらですか。

Q8 出生地…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	青森市	99	10.0
2	弘前市	95	9.6
3	八戸市	123	12.9
4	五所川原市	33	3.3
5	黒石市	31	3.1
6	十和田市	22	2.2
7	三沢市	14	1.4
8	むつ市	23	2.3
9	東津軽郡	26	2.6
10	西津軽郡	64	6.5
11	中津軽郡	20	2.0
12	南津軽郡	79	8.0
13	北津軽郡	45	4.6
14	上北郡	90	9.1
15	下北郡	28	2.8
16	三戸郡	70	7.1
17	県外	104	10.5
18	海外	2	0.2
	無回答	18	1.8
	全体	986	100.0

Q9 あなたの^{げんざい}現在どちらにお住まいですか。

Q9 現住地…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	青森市	170	17.2
2	弘前市	129	13.1
3	八戸市	186	19.0
4	五所川原市	34	3.4
5	黒石市	25	2.5
6	十和田市	43	4.4
7	三沢市	34	3.4
8	むつ市	32	3.2
9	東津軽郡	14	1.4
10	西津軽郡	38	3.9
11	中津軽郡	7	0.7
12	南津軽郡	72	7.3
13	北津軽郡	37	3.8
14	上北郡	63	6.4
15	下北郡	22	2.2
16	三戸郡	59	6.0
	無回答	21	2.1
	全体	986	100.0

属性

Q10 あなたのご自宅の周りを見回してください。あなたのご自宅の周辺は、どのような環境ですか。

Q10 周辺環境…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	住宅地域	628	63.8
2	農業地域	231	23.4
3	商業地域	50	5.1
4	漁業地域	25	2.5
5	山間地域	22	2.2
6	無回答	20	2.0
7	工業地域	7	0.7
	その他	3	0.3
	全体	986	100.0

Q11 県外に住んでいたことがある方におうかがいします。通算で何年くらい県外に住んでいましたか。

Q11 県外在住年数…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1～5年	219	22.2
2	6～10年	95	9.6
3	11～15年	26	2.6
4	16～20年	26	2.6
5	21年以上	61	6.2
	無回答・非該当	559	56.8
	全体	986	100.0

Q12 あなたのご親戚の方（同居していない親兄弟を含む）で、一番近くに住んでいる方はどちらにお住まいですか。

Q12 親戚の居住地…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	同じ市町村内にいる	695	70.5
2	県内にいる	208	21.1
3	県外にいる	65	6.6
4	その他	1	0.1
	無回答	17	1.7
	全体	986	100.0

属性

Q13 あなたのお住まいについて教えてください。

Q13 住居形態…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	一戸建て持ち家	787	79.8
2	賃貸マンション	115	11.7
3	一戸建て借家	55	5.6
4	分譲マンション	3	0.3
5	その他	10	1.0
	無回答	16	1.6
	全体	986	100.0

Q14 あなたが現在お住まいの市町村に、家族や先祖が^{きよじゅう}居住を開始したのは、どの世代からですか。

Q14 居住開始世代…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	自分の代	243	24.7
2	親の代	190	19.3
3	祖父母の代	154	15.6
4	祖々父母の代	85	8.6
5	祖々父母の代以前	200	20.3
6	知らない	85	8.6
	無回答	29	2.9
	全体	986	100.0

Q15 あなたは^{げんざいち}現在地にお住まいになって^{つうさん}通算何年になりますか。

Q15 居住年数…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1年未満	21	2.1
2	1～5年	120	12.2
3	6～10年	117	11.9
4	11～15年	105	10.6
5	16～20年	100	10.1
6	21～30年	215	22.0
7	31～40年	148	15.0
8	41～50年	83	8.4
9	51～60年	33	3.3
10	61年以上	28	2.8
	無回答	16	1.6
	全体	986	100.0

属 性

Q29 あなたの最終学歴さいしゅうがくれき（最後に出た学校）は、次のうちどれにあたりますか。（学生の方は、現在通っている学校についてお答えください。）

Q29 最終学歴…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	小中学校	162	16.4
2	高等学校	487	49.5
3	短大各種学校	176	17.8
4	四年制大学	124	12.6
5	その他	3	0.3
	無回答	34	3.4
	全体	986	100.0

Q30 結婚している方にうかがいます。あなた方ご夫婦は共働ともばたらきですか。

Q30 共働きの有無…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	はい	416	42.2
2	いいえ	330	33.5
	無回答	240	24.3
	全体	986	100.0

Q31 差し支えなければお答えください。あなたの世帯せいだいの一年間の収入の合計額ぜいこみ（税込み）はどれくらいですか。次の中から選んでください。（資産売却による収入は除きます）。

Q31 合計年収…(S A)

No.	カテゴリー名	n	%
1	200万円未満	87	8.8
2	200万円～400万円	276	28.0
3	400万円～600万円	179	18.2
4	600万円～800万円	125	12.7
5	800万円～1000万円	77	7.8
6	1000万円～1500万円	35	3.5
7	1500万円以上	16	1.6
8	わからない	65	6.6
	無回答	126	12.8
	全体	986	100.0

近所付き合いの程度

Q16 あなたが、今後人間関係にんげんかんけいやつきあいを深めていきたいと思うのは次のどなたですか。(〇はいくつでも)

・ Q16 ご近所づきあいについて。

「家族」という回答が74.6%で最も多く、次いで「地域や近所の人」が57.6%で、次いで「家族以外の親族」が51.2%と、身近な人をあげた回答が多い。

Q16 つきあいたい相手…(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	家族	736	74.6
2	家族以外の親族	505	51.2
3	地域や近所の人	568	57.6
4	仕事関係の人	424	43.0
5	学校の友人	334	33.9
6	趣味サークルの友人	295	29.9
7	子どもを通じた友人	242	24.5
8	配偶者を通じた友人	192	19.5
9	その他の個人的友人	239	24.2
10	ネットや携帯の友人	16	1.6
11	市民活動の友人	36	3.7
12	いない	14	1.4
13	その他	8	0.8
	無回答	21	2.1
	全体	986	100.0

近所付き合いの程度

Q17 あなたのご近所づきあいについてお聞きします。次にあげる質問にあてはまるご近所の方の人数をお答えください。なお「ご近所」とは日頃あなたがご近所だと感じている範囲でお考えください。

Q17 近隣交際量について

各項目で最も多かった交際人数は、「あいさつをする人は6～10人」が33.5%、「おすそ分けをする人は1～5人」が64.0%、「立ち話をする人は1～5人」が49.3%、「家に行き来する人は1～5人」が50.6%、「お祝い事をする人は0人」が42.9%、「困ったときに相談する人は1～5人」が48.3%、「物の貸し借りをする人は0人」が47.4%、「買い物・スポーツをする人は0人」が54.3%、「金銭の貸し借りをする人」は0人が83.1%となっている。

Q17 ご近所付き合いの人数… (SA)

No.	カテゴリー名	1 家に行き来		2 おすそ分け		3 あいさつ		4 立ち話		5 お祝い	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	0人	392	39.8%	247	25.1%	81	8.2%	258	26.2%	423	42.9%
2	1人～5人	499	50.6%	631	64.0%	293	29.7%	486	49.3%	390	39.6%
3	6人～10人	57	5.8%	76	7.7%	330	33.5%	168	17.0%	104	10.5%
4	10人～15人	7	0.7%	6	0.6%	49	5.0%	19	1.9%	7	0.7%
5	15人～20人	2	0.2%	1	0.1%	92	9.3%	12	1.2%	13	1.3%
6	21人以上	2	0.2%	1	0.1%	116	11.8%	16	1.6%	16	1.6%
	無回答	27	2.7%	24	2.4%	25	2.5%	27	2.7%	33	3.3%
	全体	986	100.0%	986	100.0%	986	100.0%	986	100.0%	986	100.0%

No.	カテゴリー名	6 買い物・スポーツ		7 貸し借り		8 相談		9 金銭貸借	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	0人	535	54.3%	467	47.4%	443	44.9%	819	83.1%
2	1人～5人	358	36.3%	442	44.8%	476	48.3%	125	12.7%
3	6人～10人	43	4.4%	41	4.2%	32	3.2%	4	0.4%
4	10人～15人	4	0.4%	3	0.3%	2	0.2%	0	0.0%
5	15人～20人	8	0.8%	1	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
6	21人以上	5	0.5%	2	0.2%	3	0.3%	0	0.0%
	無回答	33	3.3%	30	3.0%	29	2.9%	38	3.9%
	全体	986	100.0%	986	100.0%	986	100.0%	986	100.0%

近所付き合いの程度

Q18 あなたのご近所とのおつきあいについてお聞きします。あなたがもっと親しくしている人を一人決めてください。その人とのおつきあいの状況についてお聞きします。

・Q18 最も親しい隣人について

最も親しくしている人の「家族構成を知っている」は85.2%と最も高く、次いで「その人の世帯主の職業を知っている」は82.9%、「一緒に外出する」「おすそ分けをする」は80.4%であった。また、「隣人の悩みを知っている」は33.3%と最も少なかった。

Q18 最も親しい人のつきあいの状況… (SA)

	はい		いいえ		無回答	
	n	%	n	%	n	%
家族構成	840	85.2	76	7.7	70	7.1
出身地	767	77.8	143	14.5	76	7.7
職業	817	82.9	94	9.5	75	7.6
最終学歴	560	56.8	340	34.5	86	8.7
結婚経緯	507	51.4	392	39.8	87	8.8
隣人悩み	328	33.3	571	57.9	87	8.8
一緒外出	340	34.5	553	56.1	93	9.4
おすそわけ	793	80.4	118	12.0	75	7.6
行き来	678	68.8	224	22.7	84	8.5
自分悩み	475	48.2	422	42.8	89	9.0
家族ぐるみ	525	53.2	368	37.3	93	9.4
頼み事	369	37.4	520	52.7	97	9.8

地域の連帯感

Q19 あなたは、自分の住む地域のために次のような活動を行ったことがありますか。

・ Q19 地域活動の経験について。

自分の住む地域のために行った活動として最も多いのが、「地域の美化活動」62.5%で、次いで「資源回収」49.0%、「除雪作業」34.6%となっている。最も少ないのは「交通マナーの向上活動」11.8%となっている。

Q19 行ったことのある地域活動… (SA)

	ある		ない		無回答		全体
	n	%	n	%	n	%	n
地域の美化活動	586	62.5	351	37.5	49	5.23	937
資源回収	456	49.0	475	51.0	55	5.91	931
除雪作業	318	34.6	602	65.4	66	7.17	920
避難訓練	232	25.5	678	74.5	76	8.35	910
交通安全指導	230	25.5	673	74.5	83	9.19	903
資源再利用活動	165	18.3	739	81.7	82	9.07	904
ボランティア	147	16.2	763	83.8	76	8.35	910
子育て協力	134	14.7	775	85.3	77	8.47	909
防火防犯	130	14.4	772	85.6	84	9.31	902
交通マナー向上活動	107	11.8	796	88.2	83	9.19	903

地域の連帯感

Q20 あなたがお住まいの地域は、あなたが子どもの頃と比べて、住民同士のつながりはどうなったと思いますか。

・ Q20 住民同士のつながりについて

子どもの頃と比べて住民同士の、「つながりが弱くなったと感じる」が44.5%で、「変わらない」が19.0%、「わからない」は31.3%となっている。

Q20 住民同士のつながり… (SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	弱くなった	438	44.5
2	変わらない	187	19.0
3	強くなった	11	1.1
4	わからない	309	31.3
5	その他	8	0.8
	無回答	33	3.3
	全体	986	100.0

Q20-1 「Q20」でつながりは弱くなったと感じている方へ。次にあげる項目は、地域の人と人のつながりが弱くなった原因だと思いませんか。

・ Q20-1 つながりが弱くなった原因について

つながりが弱くなった原因として「近所に子どもが少ない」が71.2%で最も多く、次いで、「様々な情報が充実し地域とかかわらずとも生活できる」が68.9%、さらに、「共同で作業する必要がなくなった」と、「個人の意見や利益を優先させるような考え方が広がった」がともに67.8%となっている。

Q20-1 住民同士のつながりが弱くなった原因… (SA)

		そう思う		そう思わない		無回答		全体
		n	%	n	%	n	%	
1	子どもが少ない	312	71.2	98	22.4	28	6.4	438
2	情報が充実	302	68.9	100	22.8	36	8.2	438
3	共同作業がない	297	67.8	110	25.1	31	7.1	438
4	個人主義	297	67.8	105	24.0	36	8.2	438
5	父親の不参加	259	59.1	135	30.8	44	10.0	438
6	愛着がない	258	58.9	144	32.9	36	8.2	438
7	まとめ役不在	249	56.8	152	34.7	37	8.4	438
8	友人とのつきあいが多	238	54.3	165	37.7	35	8.0	438
9	職場のつきあいが多	224	51.1	174	39.7	40	9.1	438
10	場所がない	216	49.3	179	40.9	43	9.8	438
11	仕事場が遠い	189	43.2	213	48.6	36	8.2	438
12	趣味のつきあいが多	173	39.5	225	51.4	40	9.1	438
13	引っ越し	135	30.8	254	58.0	49	11.2	438
14	その他	42	9.6	379	86.5	17	3.9	438

地域の連帯感

Q20-2 「Q20」でつながりは強くなったと感じている理由はなんですか。(〇はいくつでも)

・ Q20-2 つながりが強くなった理由について

つながりが強くなったと感じている人は、11人で、全体の1.1%であった。「話し合いの場が増加」「まとめ役がよい」「地域活動への参加者が多くなった」という、回答があり、改善策のヒントになるのではないかと。

SQ20-2 つながりが強くなった原因…(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	話し合いの場が増加	5	1.7
2	まとめ役が良い	5	1.3
3	地域活動への参加が多い	5	0.8
4	地域活動の回数が多い	4	0.7
5	わからない	1	1.3
	全体	20	100.0

地域の連帯感

Q21 あなたのお住まいの地域では、住民同士のつながりを強めるために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

・Q21 住民同士のつながりを強めるために特に必要なことについて
 住民同士のつながりを強めるために特に必要なこととして、「あいさつをすることがとても必要」が70.4%で最も多く、次いで「子どもが遊べる空間の整備」が61.8%、「社会環境の浄化」が49.3%となっている。

Q21 つながりを強めるために必要なこと…(S A)

		1		2		3		4		5		6	
		あいさつ		行事の活性化		話し合える場所が充実		地域団体の活性化		趣味グループの活性化		相談できる人がいる	
No.	カテゴリ名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	とても必要	694	70.4	258	26.2	199	20.2	203	20.6	201	20.4	284	28.8
2	少しは必要	153	15.5	454	46.0	402	40.8	361	36.7	371	37.7	360	36.5
3	あまり必要でない	4	0.4	84	8.5	162	16.4	174	17.6	171	17.3	117	11.9
4	必要ではない	4	0.4	16	1.6	27	2.7	24	2.4	24	2.4	32	3.2
5	わからない	11	1.1	40	4.1	48	4.9	70	7.1	66	6.7	45	4.6
	無回答	120	12.2	134	13.6	148	15.0	154	15.6	153	15.5	148	15.0
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

		7		8		9		10		11		12	
		子どもの遊び場の整備		学習の機会の充実		学校活動への参加		学校開放		社会環境の浄化		子どもの知識や技術を習得の機会	
No.	カテゴリ名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	とても必要	609	61.8	231	23.4	244	24.7	274	27.8	487	49.3	457	46.4
2	少しは必要	179	18.2	397	40.3	400	40.6	386	39.2	259	26.3	295	29.9
3	あまり必要でない	30	3.0	120	12.2	114	11.6	102	10.3	42	4.3	46	4.7
4	必要ではない	6	0.6	25	2.5	23	2.3	17	1.7	14	1.4	9	0.9
5	わからない	21	2.1	66	6.7	52	5.3	50	5.1	37	3.8	30	3.0
	無回答	141	14.3	147	14.9	153	15.5	157	15.9	147	14.9	149	15.1
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

地域の連帯感

Q22 次にあげるものについて参加してみたいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

・Q22 これから参加したい地域活動について

これから参加したい地域活動については、「環境保護」が「是非参加したい」「できれば参加したい」を合わせると60.1%で最も多く、次いで「福祉活動」が51.8%、「スポーツ振興」が46.9%となっている。

Q22 参加したい地域活動…(S A)

No.	カテゴリー名	1		2		3		4	
		環境保護		福祉活動		人権活動		青少年育成活動	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	ぜひ参加したい	136	13.8	110	11.2	59	6.0	104	10.5
2	できれば参加したい	467	47.3	400	40.6	222	22.5	344	35.0
3	あまり参加したくない	197	20.0	237	24.0	333	33.7	243	24.6
4	参加したくない	50	5.1	72	7.3	109	11.1	83	8.4
5	わからない	74	7.5	97	9.8	181	18.4	128	13.0
	無回答	62	6.3	70	7.1	82	8.3	84	8.5
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

No.	カテゴリー名	5		6		7		8	
		芸術文化の振興		スポーツ振興		文化財保護		国際交流	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	ぜひ参加したい	133	13.5	140	14.2	102	10.3	78	7.9
2	できれば参加したい	316	32.0	322	32.7	333	33.9	239	24.2
3	あまり参加したくない	261	26.5	234	23.7	246	24.9	280	28.5
4	参加したくない	81	8.2	100	10.1	77	7.8	128	13.0
5	わからない	117	11.9	109	11.1	149	15.1	174	17.6
	無回答	78	7.9	81	8.2	79	8.0	87	8.8
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

地域活動への関心

Q23 あなたは次にあげる意見についてどう思われますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

・ Q23 地域とのかかわりについて

「地域に誇り・愛着がある」が「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」をあわせて44.0%と最も多く、次いで「地域の人と何かしたい」が40.9%、「町内会で発言したくない」40.1%となっている。

Q23 町内会について…(SA)

No.	カテゴリー名	町内会での発言		地元の熱心な人任せ		行政への依存		地域の問題への無関心		既知の人のみ親しくしたい		町内会の世話		所有地		近所の老人の世話		地域活動から満足を得たい		地域への愛着	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	そう思う	133	13.5	98	9.9	95	9.6	39	4.0	122	12.4	144	14.6	167	16.9	112	11.4	160	16.2	194	19.7
2	どちらかといえばそう思う	262	26.6	160	16.2	162	16.4	77	7.8	176	17.8	164	16.6	178	18.1	232	23.5	244	24.7	240	24.3
3	どちらともいえない	257	26.1	248	25.3	253	25.8	312	31.6	272	27.6	346	35.1	401	40.7	398	40.4	329	33.4	305	30.9
4	どちらかといえばそうは思わない	99	10.0	160	16.2	158	16.0	195	19.8	133	13.5	113	11.5	61	6.2	88	8.9	66	6.7	66	6.7
5	そうは思わない	161	16.3	246	24.9	240	24.3	278	28.2	209	21.2	144	14.6	103	10.4	83	8.4	117	11.9	116	11.8
	無回答	74	7.5	74	7.5	78	7.9	85	8.6	74	7.5	75	7.6	76	7.7	73	7.4	70	7.1	65	6.6
	全体	986	100	986	100	986	100	986	100	986	100	986	100	986	100	986	100	986	100	986	100

地域活動への関心

Q24 あなたが活動している団体について教えてください。あなたの現状に一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

・ Q24 活動に参加している団体について。

「町内会」に「いつも活動に参加」「時々活動に参加」をあわせると24.7%と最も多く、次いで「PTA」は15.1%、「ボランティア団体」は8.8%、「子ども会」は8.7%、「地域女性団体」は4.1%、「老人会」へは3.0%が活動に参加している。

Q24 活動している団体…(SA)

No.	カテゴリー名	ボランティア団体		町内会・自治会		地域女性団体		老人会		子ども会		PTA		その他	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	いつも活動に参加	50	5.1	94	9.5	16	1.6	22	2.2	46	4.7	71	7.2	30	3.0
2	時々活動に参加	36	3.7	150	15.2	25	2.5	8	0.8	39	4.0	78	7.9	9	0.9
3	たまにしか参加しない	25	2.5	168	17.0	15	1.5	9	0.9	30	3.0	47	4.8	2	0.2
4	参加したことがない	4	0.4	125	12.7	18	1.8	8	0.8	22	2.2	26	2.6	2	0.2
5	加入していない	722	73.2	323	32.8	732	74.3	773	78.5	668	67.7	591	60.0		
	無回答	149	15.1	126	12.8	180	18.3	166	16.8	181	18.4	173	17.5	943	95.7
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

地域活動への関心

Q25 あなたはお住まいの地域の町内会（自治会）へ町会費（自治会費）を払っていますか。

- ・ Q25 町会費について
「払っている」は84.2%、「払っていない」は11.8%であった。

Q25 町会費支払いの有無…(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	払っている	831	84.2
2	払っていない	116	11.8
	無回答	39	4.0
	全体	986	100.0

Q25-1 町会費を払っていない理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを○で囲んでください。

- ・ Q25-1 町会費を払っていない理由について
「マンションの管理人まかせ」「町内会の存在を知らない」がともに19.8%、次いで「会費を払いたくない」8.6%、「行事に参加したくない」7.8%となっている。

SQ25-1 町会費を払っていない理由…(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	マンションの管理人まかせ	23	19.8
2	町内会の存在を知らない	23	19.8
7	会費を払いたくない	10	8.6
5	行事に参加したくない	9	7.8
4	つきあいが煩わしい	8	6.9
6	役員になりたくない	7	6.0
3	活動に不満がある	5	4.3
8	その他	64	55.2
	全体	116	100.0

町内会について

Q26 あなたは今後、お住まいの地域の町内会の活動に参加したいと思いますか。

・ **Q26 町内会について**

「今後町内会の活動」に「参加したい」が51.0%、「参加したくない」が17.8%、「わからない」27.3%となっている。

Q26 町内会に参加したいか…(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	参加したい	503	51.0
2	参加したくない	176	17.8
3	わからない	269	27.3
	無回答	38	3.9
	全体	986	100.0

Q26-1 町内会の活動に参加したくない理由は何ですか。次の中から当てはまるものをすべてを○で囲んでください。

・ **Q26-1 町内会に参加したくない理由について**

「他に優先したいことがある」が46.6%で最も多く、次いで「年齢差」は37.5%、「魅力が感じられない」は37.5%となっている。

SQ26-1 町内会の活動に参加したくない理由…(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
2	他に優先したいことがある	82	46.6
1	年齢差	66	37.5
5	魅力が感じられない	66	37.5
4	意義が感じられない	54	30.7
3	満足感が得られない	33	18.8
6	他の人がやってくれるから	24	13.6
7	その他	22	12.5
	全体	176	100.0

町内会について

Q27 お住まいの地域に町内会は必要だと思いませんか。^{ひつよう}

- ・ Q27 町内会活動の必要性について
町内会が「必要である」が、78.6%。「必要でない」が4.6%。「わからない」が13.8%となっている。

Q27 町内会の必要性…(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	必要である	775	78.6
2	必要でない	45	4.6
3	わからない	136	13.8
	無回答	30	3.0
	全体	986	100.0

Q27-1 町内会は必要だと思える理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを○で囲んでください。

- ・ Q27-1 町内会活動が必要だと思える理由について
町内会が必要だと思える理由として、「住みやすくするため」が69.7%で最も多く、次に「相互扶助、コミュニケーション」が66.2%、「災害時の協力」が53.5%となっている。

SQ27-1 必要だと思える理由…(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
2	住みやすくするため	540	69.7
3	相互扶助、コミュニケーション	513	66.2
4	災害時の協力	415	53.5
1	町内の課題解決の場	412	53.2
5	その他	13	1.7
	全体	775	100.0

町内会について

Q27-2 町内会は必要でないと思う理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを○で囲んでください。

・ Q27-2 町内会活動が必要でないと思う理由について

町内会が必要でないと思う理由として、「必要性が低い」が73.3%、「町内会の業務は行政が行うべき」が46.7%、「利益がない」20.0%となっている。

SQ27-2 必要でない理由…(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	必要性が低い	33	73.3
2	行政が行うべき	21	46.7
3	利益がない	9	20.0
4	その他	3	6.7
	全体	45	100.0

町内会について

Q28 あなたがお住まいの地域の町内会などの団体にとって、これから特に取り組むべき活動はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

・ Q28 町内会がこれから取り組むべき活動について

町内会などの団体がこれから特に取り組むべき活動は、「防犯」が55.6%と最も多く、次いで「防災・防火」が53.2%、「交通安全運動」が39.9%、「地区の清掃」が39.8%となっている。

Q28 町内会がこれから取り組むべき問題

No.	カテゴリー名	町内会だよりの発行		地区内の各種団体との連絡調整		レクリエーション		文化祭		祭り		慶弔の手助け		防災・防火	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	とても必要	251	25.5	211	21.4	128	13.0	81	8.2	215	21.8	203	20.6	524	53.2
2	少しは必要	351	35.5	380	38.5	435	44.1	308	31.3	411	41.6	357	36.2	284	28.8
3	あまり必要でない	141	14.3	132	13.4	172	17.4	281	28.5	124	12.6	152	15.4	20	2.0
4	必要ない	73	7.4	33	3.3	51	5.2	94	9.5	53	5.4	56	5.7	4	0.4
5	よくわからない	56	5.7	111	11.3	74	7.5	88	8.9	55	5.6	96	9.7	35	3.5
	無回答	114	11.6	119	12.1	126	12.8	134	13.6	128	13.0	122	12.4	119	12.1
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

No.	カテゴリー名	防犯		交通安全運動		集会施設の管理		地区の清掃		募金		要望の取り次ぎ	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	とても必要	548	55.6	394	39.9	276	28.0	392	39.8	105	10.6	231	23.4
2	少しは必要	277	28.1	325	33.0	400	40.6	394	39.8	304	30.9	373	37.9
3	あまり必要でない	17	1.7	77	7.8	77	7.8	40	4.1	232	23.5	114	11.6
4	必要ない	4	0.4	21	2.1	23	2.3	13	1.3	121	12.3	32	3.2
5	よくわからない	27	2.7	45	4.6	78	7.9	36	3.7	89	9.0	99	10.0
	無回答	113	11.5	124	12.6	132	13.4	111	11.3	135	13.7	137	13.9
	全体	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0	986	100.0

クロス集計結果の分析

クロス集計結果の分析にあたっては、無回答・不明を除外した。カテゴリーデータ間において χ^2 検定を行い、Cramer の V 係数により関連の強さを確認するとともに残差分析を実施した。なお χ^2 検定を行う条件を満たすために、適宜カテゴリーを統合している。数量データの Kategorisierung については、パーセンタイルグループに基づいて各群ほぼ同じ数のサンプルを含むようにしている。更にそれらの分析結果の一部についてはロジスティック回帰分析⁽¹⁾を行い、各項目の相対的な強さから要因の検討を行った。統計解析には、SPSS for Windows 12.0J を使用した。各設問への回答との関連を分析するために用いた個人的属性は、「性別」「年齢」「職業」「通勤時間」「引っ越しの有無」「結婚の有無」「家族構成」「6歳以下・7～15歳・16～18歳のそれぞれの子どもの有無」「出生地」「現住地」「周辺環境」「県外居住年数」「親戚の居住地」「住居形態」「居住開始世代」「居住年数」「最終学歴」「共働きの有無」「世帯合計収入」である。

以下の各図表は、 χ^2 検定の結果が有意でかつその Cramer の V 係数が0.1以上であるデータ間について集計したものである。各セル間の差については残差分析の結果から判断しているため、グラフのパーセンテージの割合とは異なることがある。

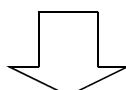
クロス集計の検定結果の見方について

(例)

属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					多い	少ない	
年齢	35.23	4	***	0.195	20歳～29歳	-5.1	5.1
					30歳～39歳	-1.9	1.9
					40歳～49歳	1.1	-1.1
					50歳～59歳	2.2	-2.2
					60歳以上	2.3	-2.3

※50歳～59歳、60歳以上が多い。

20歳～29歳は少ない。



検定結果 (χ^2 検定)	<p>クロス集計表の表側データと表頭データの2方向の要因に関連性があるかを判断する。p値は有意確率を示し、例えば0.01であった場合、判定結果が誤りである確率が1%であることを意味する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>表記</th> <th>***: p<0.001</th> <th>** : p<0.01</th> <th>* : p<0.05</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>有意水準</th> <td>0.1%</td> <td>1%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	表記	***: p<0.001	** : p<0.01	* : p<0.05	有意水準	0.1%	1%	5%
表記	***: p<0.001	** : p<0.01	* : p<0.05						
有意水準	0.1%	1%	5%						
クラメールの 連関係数 (Cramer's V)	<p>クロス集計表の表側データと表頭データの2方向の要因の関連の強さをみる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>V値</th> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>意味</th> <td>← 関連が弱い</td> <td>関連が強い →</td> </tr> </tbody> </table>	V値	0	1	意味	← 関連が弱い	関連が強い →		
V値	0	1							
意味	← 関連が弱い	関連が強い →							
調整済み残差 (残差分析)	<p>クロス集計表においてχ^2検定の結果が有意であった場合に、どのセルが、この有意性に貢献したのかを判定する。絶対値が1.96(2.0)以上で有意となる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調整済み残差</th> <td>1.96 (2.0)</td> <td>2.57(2.6)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th>意味</th> <td>5%水準で有意</td> <td>1%水準で有意</td> </tr> </tbody> </table>	調整済み残差	1.96 (2.0)	2.57(2.6)	意味	5%水準で有意	1%水準で有意		
調整済み残差	1.96 (2.0)	2.57(2.6)							
意味	5%水準で有意	1%水準で有意							

1. 「近隣交際量 (Q17)」と基本的属性の関連

Q17は近所づきあいに関する9項目について、その人数を尋ねたものである。

表1-1は近所づきあいのある人の数と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図1はそれらをクロス集計したグラフである。

Q17の各項目で回答された近所づきあいのある人の数は、先行研究である小田利勝(2003)の「都市高齢者の近隣交際量の分析」と同様に近隣交際指数として算出した⁽²⁾。指数が高いほど交際量が多いということになる。

ここではその数値の合計数に基づき、近隣交際量が「多い」群と「少ない」群にカテゴリー化して各属性との関連をみていく。

χ^2 検定の結果、「周辺環境」「職業」「居住年数」「現住地」「年齢」「結婚の有無」「居住開始世代」「出生地」「住居形態」が0.1%、「通勤時間」「最終学歴」「引っ越しの有無」が1%の水準で独立性は棄却され、それぞれ近隣交際量と関連のある可能性が示された。以下の括弧内の数値は「多い」群の割合である。

残差分析によると、「周辺環境」では「農業・山間地域(65.8%)」の交際量が多く、「住宅地域(42.2%)」は少ない。「商業地域」「工業・その他地域」は有意差がなかった。「職業」では「自営業(69.2%)」の交際量が多く、「給与所得者(40.6%)」は少ない。「専業主婦」「アルバイト・その他」「なし」は有意差がなかった。「居住年数」では「21年以上(58.8%)」の交際量が多く、「5年以下(32.8%)」「6～20年(43.4%)」は交際量は少なかった。「現住地」では「町村部(63.5%)」の交際量が多く、「三市(41.4%)」は少ない。「五市」は有意差がなかった。「年齢」では「60歳以上(58.4%)」「50歳～59歳(56.0%)」の交際量が多く、「20歳～29歳(25.5%)」は少ない。「30歳～39歳」「40歳～49歳」は有意差がなかった。「結婚の有無」では「既婚者(53.2%)」の交際量が多く、「未婚者(28.9%)」の交際量は少ない。「配偶者離死別」は有意差がなかった。「居住開始世代」では「曾祖父母の代以前(63.8%)」「曾父母の代(65.0%)」の交際量が多く、「親の代(44.6%)」「自分の代(45.6%)」は少ない。「祖父母の代」は有意差がなかった。「出生地」では「町村部(57.4%)」の交際量が多く、「三市(39.4%)」は少ない。「五市」「県外」は有意差がなかった。「通勤時間」では「自宅が勤務場所(37.2%)」の交際量が多く、「車・バス・鉄道(以下「車で」という。)で15分～30分程度(61.8%)」は少ない。「歩いて15分」「車で15分以内」「車で30分以上」は有意差がなかった。「最終学歴」では「小中学校(58.1%)」の交際量が多く、「四年制大学(37.5%)」は少ない。「高等学校」「短大各種学校」は有意差がなかった。「住居形態」では「個人所有(51.9%)」「一戸建て(52.6%)」の交際量が多く、「賃貸(35.7%)」「集合住宅(37.3%)」が少なかった。「引っ越し」の経験については「引っ越したことがない(52.7%)」の交際量が多く、「引っ越したことがある(39.5%)」は浅かった。

以上の結果から、農村部に21年以上、4世代以上に渡って居住している50歳以上の人の

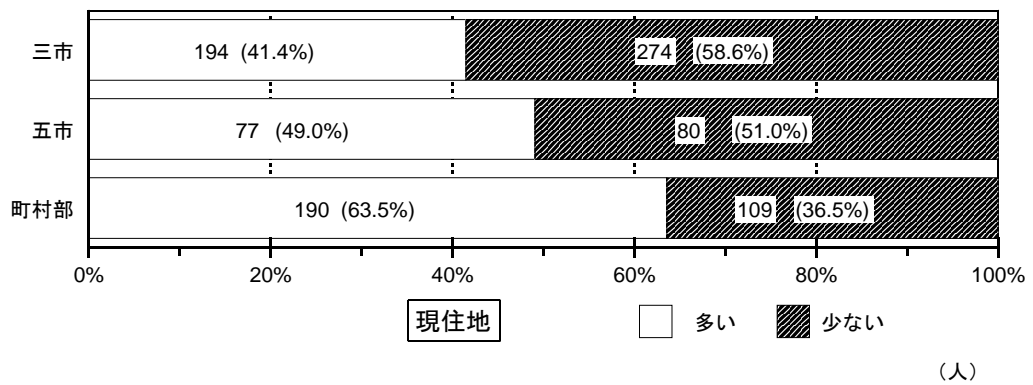
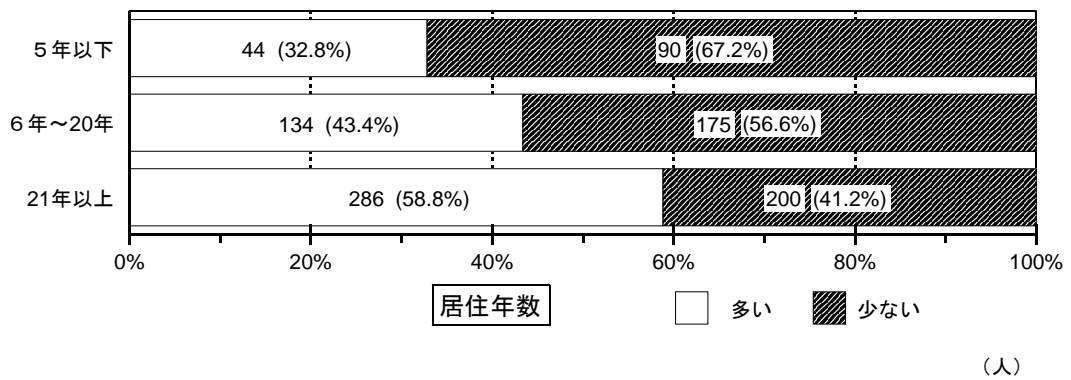
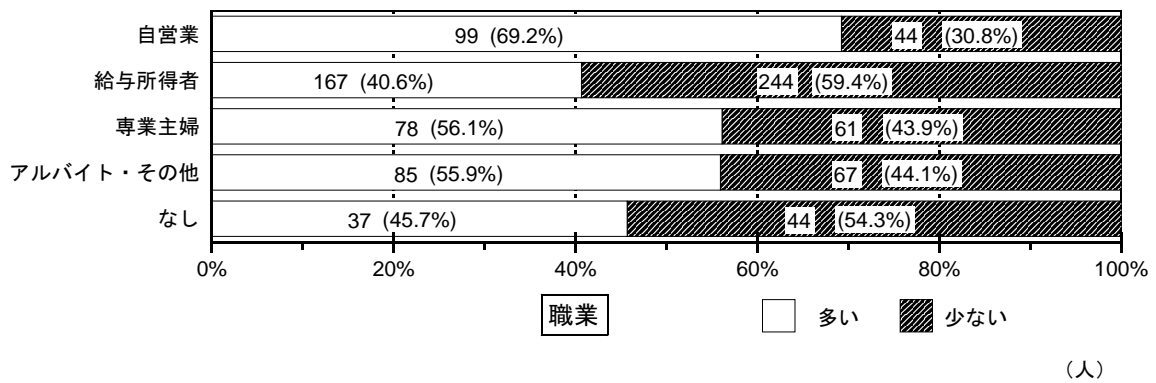
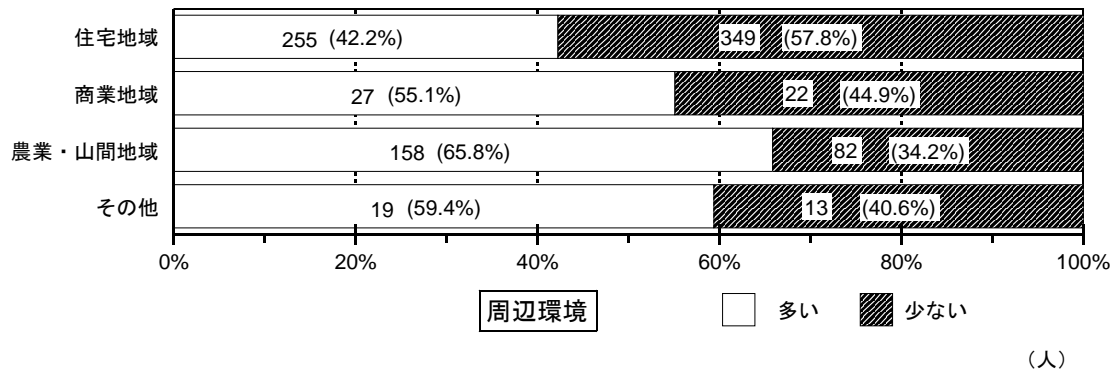
交際量が多く、逆に、都市部に住み居住年数が短く年齢の若い人は交際量が少ないと考えられる。職業を持つ人については自宅の近隣で働く場合が多い農業等の自営業の交際量が多く、車等で通勤する給与所得者の交際量は少ないといえる。このように、近隣の人々との人間関係の程度を決定する要因は、一般的にイメージされるものと同様であった。

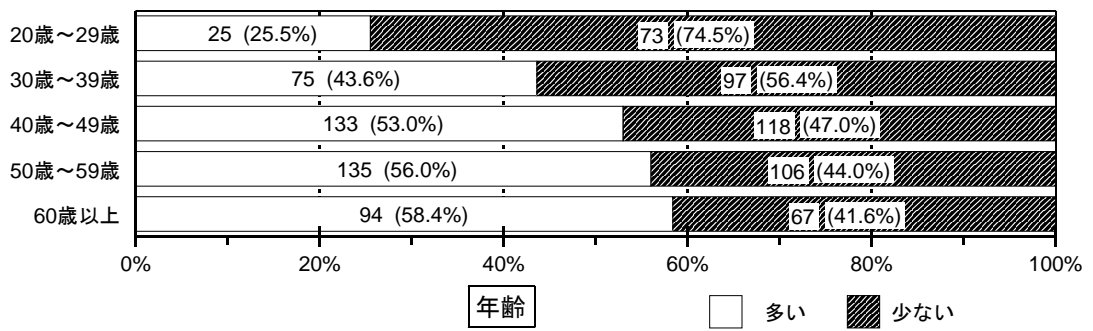
表 1 - 1 近隣交際量と属性の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					多い	少ない	
周辺環境	40.280	3	***	0.209	住宅地域	-6.2	6.2
					商業地域	0.8	-0.8
					農業・山間地域	5.8	-5.8
					工業・その他地域	1.1	-1.1
職業	40.358	4	***	0.209	自営業	4.9	-4.9
					給与所得者	-5.3	5.3
					専業主婦	1.5	-1.5
					アルバイト・その他	1.5	-1.5
居住年数	36.448	2	***	0.198	5年以下	-4.3	4.3
					6年～20年	-2.8	2.8
					21年以上	5.7	-5.7
					現住地	35.672	2
年齢	35.23	4	***	0.195	五市	0.2	-0.2
					町村部	5.7	-5.7
					20歳～29歳	-5.1	5.1
					30歳～39歳	-1.9	1.9
					40歳～49歳	1.1	-1.1
結婚の有無	30.394	2	***	0.181	50歳～59歳	2.2	-2.2
					60歳以上	2.3	-2.3
					未婚	-5.4	5.4
					既婚	3.3	-3.3
居住開始世代	25.976	4	***	0.176	配偶者離死別	1.9	-1.9
					自分の代	-2.1	2.1
					親の代	-2.1	2.1
					祖父母の代	-1.5	1.5
					曾祖父母の代	2.6	-2.6
出生地	23.221	3	***	0.158	曾祖父母の代以前	3.9	-3.9
					三市	-4.4	4.4
					五市	0.7	-0.7
					町村部	4.1	-4.1
通勤時間	14.410	4	**	0.155	県外	-0.7	0.7
					自宅が勤務場所である	2.1	-2.1
					歩いて15分	1.1	-1.1
					車で15分以内	1.7	-1.7
最終学歴	12.769	3	**	0.118	車で15分～30分程度	-2.8	2.8
					車で30分以上	-1.4	1.4
					小中学校	2.2	-2.2
					高等学校	1.1	-1.1
住居形態（個人所有・賃貸）	12.540	1	***	0.117	短大各種学校	-1.0	1.0
					四年制大学	-2.9	2.9
引っ越し	8.215	1	**	0.110	一戸建て	3.5	-3.5
					集合住宅	-3.5	3.5
住居形態（一戸建て・集合住宅）	10.327	1	***	0.106	引っ越したことがある	-2.9	2.9
					引っ越したことがない	2.9	-2.9
					一戸建て	3.2	-3.2
					集合住宅	-3.2	3.2

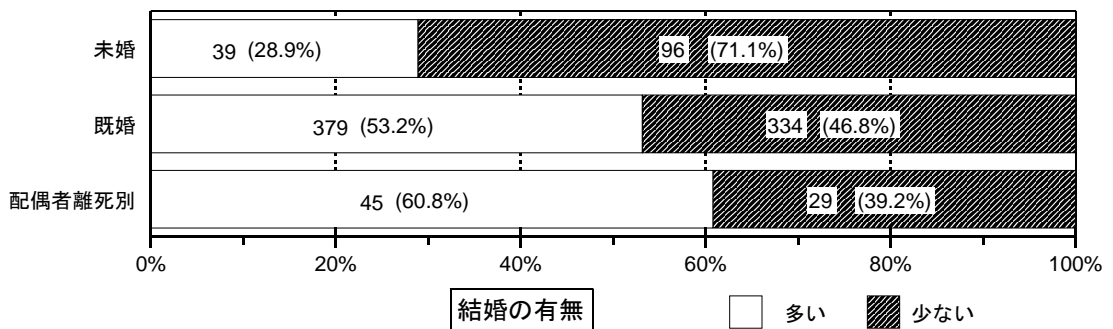
***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

図1 近隣交際量と属性

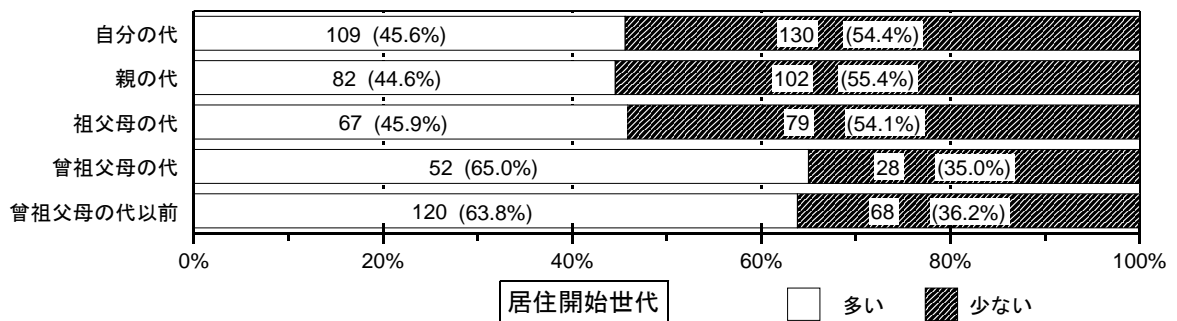




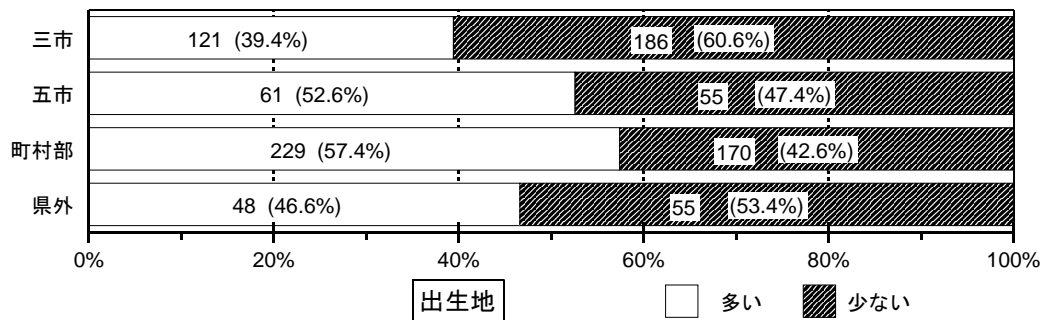
(人)



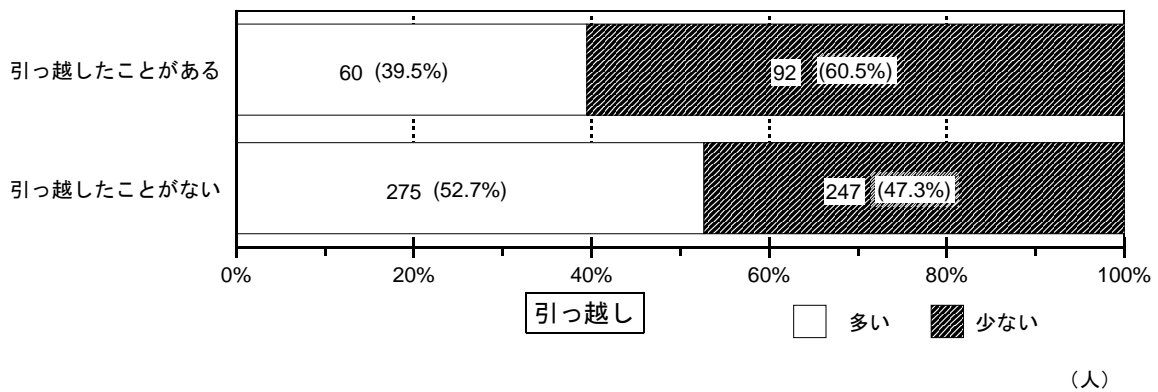
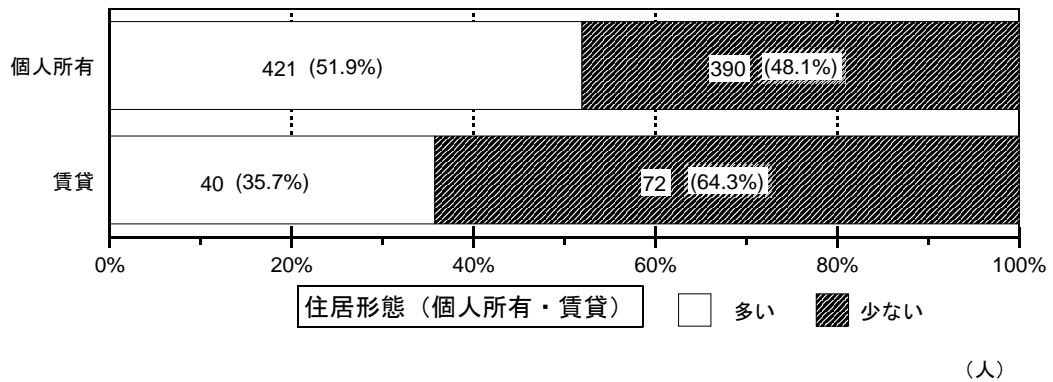
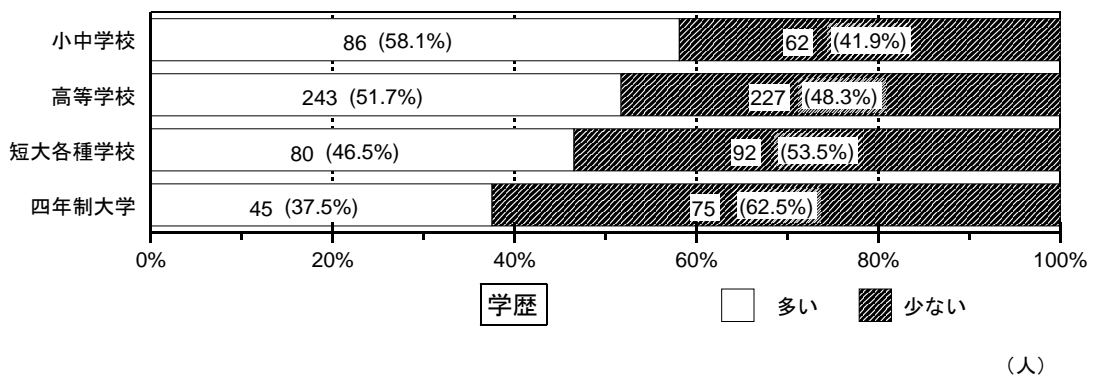
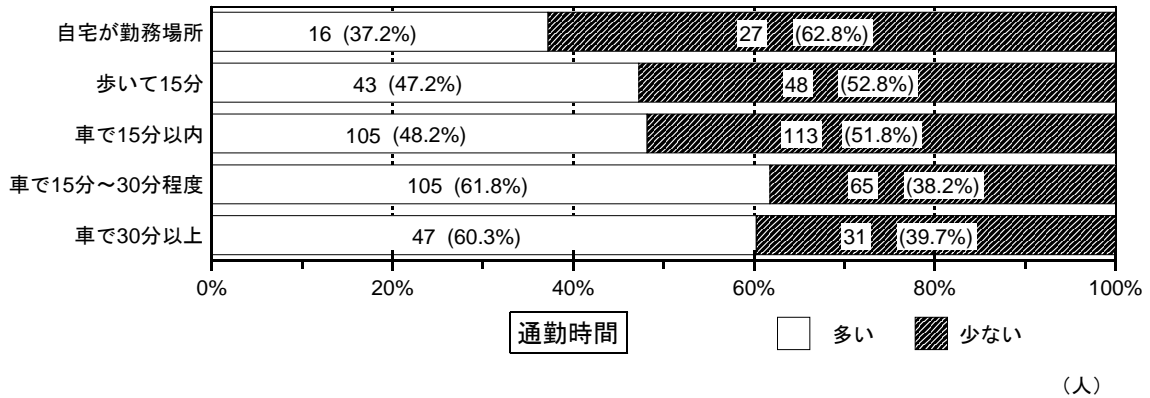
(人)

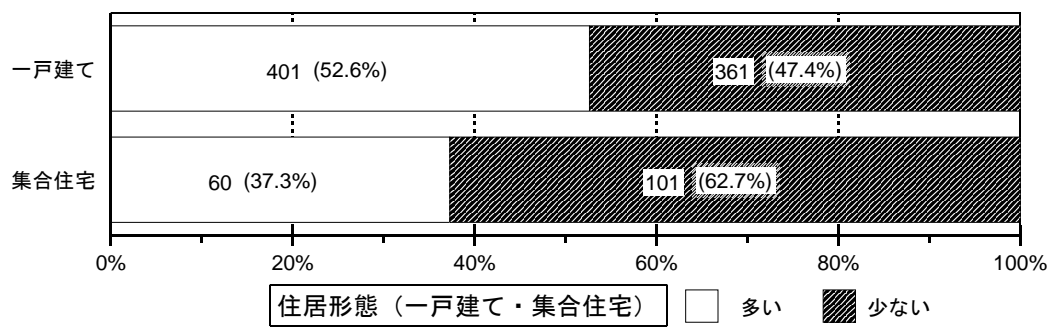


(人)



(人)





(人)

2. 「近所づきあいの深さ (Q18)」と基本的属性の関連

Q18は近所で最も親しくしている人を一人限定した上で、その人の個人的なことについてどの程度認知しているか、またその人との交流がどの程度あるかを、合計12項目について尋ねたものである。

表2-1は近所づきあいの深さと基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図2はそれらをクロス集計したグラフである。

ここではQ18の各項目に「はい」と回答した合計に基づき、「深い」群と「浅い」群にカテゴリー化して各属性との関連をみていく。

χ^2 検定の結果、「職業」「結婚の有無」「居住開始世代」「年齢」「性別」が0.1%、「最終学歴」「周辺環境」「居住年数」「現住地」が1%、「通勤時間」が5%の水準で独立性は棄却され、それぞれ近所づきあいの深さと関連のある可能性が示された。

残差分析によると、「職業」では「自営業(69.9%)」と「専業主婦(60.3%)」の近所づきあいが深く、「給与所得者(36.7%)」は浅い。「アルバイト・その他」「なし」は有意差がなかった。「結婚の有無」では「配偶者離死別(63.1%)」「既婚者(50.8%)」の近所づきあいが深く、「未婚者(31.1%)」は浅かった。「居住開始世代」では「曾祖父母の代以前(60.8%)」の近所づきあいが深く、「親の代(40.4%)」は浅い。「自分の代」「祖父母の代」「曾祖父母の代」は有意差がなかった。「年齢」では「50歳～59歳(56.7%)」の近所づきあいが深く、「20歳～29歳(32.3%)」は浅い。「30歳～39歳」「40歳～49歳」「60歳以上」は有意差がなかった。「通勤時間」では「自宅が勤務場所(60.5%)」の近所づきあいが深く、「車で30分以上(33.3%)」は浅い。「歩いて15分」「車で15分以内」「車で15分～30分程度」は有意差がなかった。「最終学歴」では「高等学校(53.2%)」の近所づきあいが深く、「四年制大学(34.8%)」は浅かった。「小中学校」「短大各種学校」は有意差がなかった。「性別」では「女性(54.6%)」が「男性(41.8%)」より近所づきあいが深かった。

「周辺環境」では「農業・山間地域(56.1%)」の近所づきあいが深く、「住宅地域(43.9%)」は浅い。「商業地域」「工業・その他地域」は有意差がなかった。

「居住年数」では「21年以上(53.1%)」の近所づきあいが深く、「5年以下(37.8%)」は浅い。「6年～20年」は有意差がなかった。

以上の結果から、全体的にはQ17と近い結果であり、「近隣交際指数」と「近所づきあい」間のCramerのV係数も0.465と比較的強い関連を示したことから、近所づきあいのある人数が多い人は特定の近所の人とのつきあいも深い傾向にあるといえる。

農業・山間地域や自営業の「近所づきあい」が深いことから、農業経営者は一般的に数世代に渡って農地を引き継いでいくことから居住年数が長くなることや、近隣の家も農業であることが多いことでつきあいが深くなると考えられる。また、農業集落には農業用道路や用排水路の共同管理等の集落機能が存在するため、協力関係が必要になることも要因となっているだろう。

居住開始世代については「曾祖父母の代以前」「曾祖父母の代」「祖父母の代」「親の代」へと住み始めた世代が新しくなるにつれ、近所づきあいが浅くなる傾向にあるが、「自分の代」から住み始めた人にはそれが当てはまらなかった。そこで居住年数を「6～20年」に限定して残差分析を行うと、近所づきあいが「深い」と判断できるのは「自分の代」のみだった。このことから、例えば新興住宅地が造られて住民が新たに居住し始めた場合に、町内会・自治会の設立や活動に必然的な関わりが求められたり、近所に友人を求めようという意識が働き、居住年数の経過とともに特定の人との近所づきあいが深まっていったと考えられる。

更にこれらの関連がみられた属性⁽³⁾に、「地域活動の経験」と「地域社会への態度」を加えたものを独立変数に、「近所づきあいの深さ」を従属変数として、尤度比による変数減少法でロジスティック回帰分析を行い、再度その影響力の度合いを確認した。なお「年齢」については強制投入している。

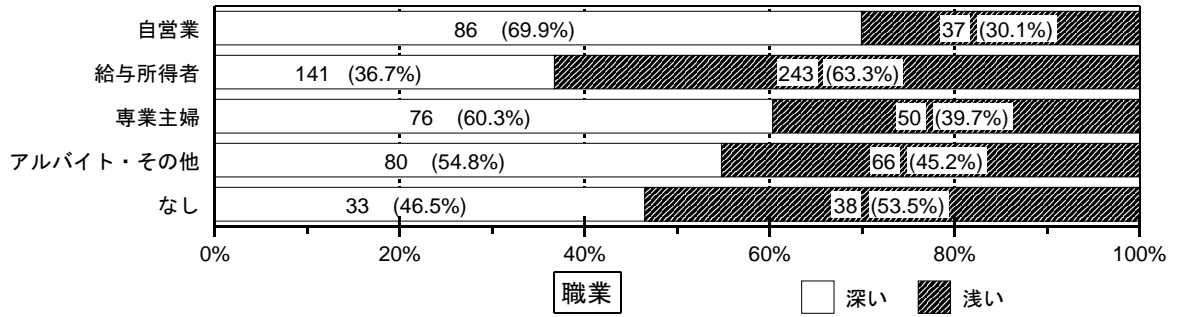
その結果、「年齢」「結婚の有無」「居住開始世代」「職業」「地域活動の参加経験」「地域社会への態度」の6つの要因を用いた予測モデルが得られた。表2-2のオッズ比及びp値をみると、「年齢」については有意とならなかったが、60歳以上の近所づきあいが最も浅くなり、それ以外の個人的属性については残差分析と同様の結果を示した。「地域活動の参加経験」「地域社会への態度」については、それぞれ地域活動の経験が多い方やコミュニティ意識が高い方が近所づきあいが深いタイプであることが示唆された。

表 2-1 近所づきあいの深さと属性の関連

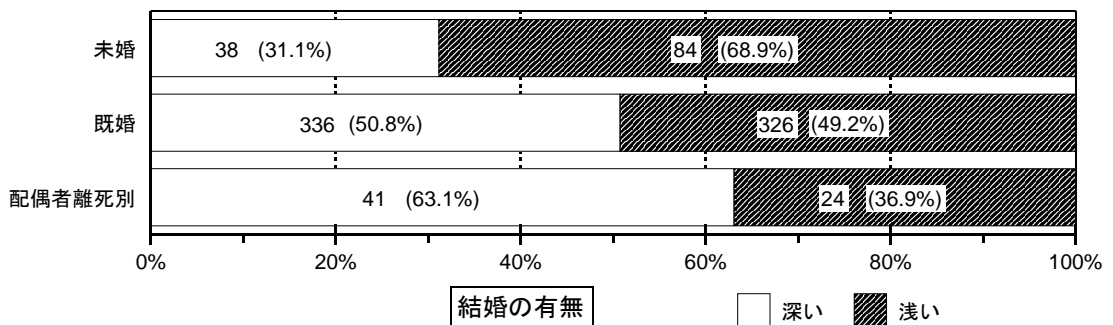
属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					深い	浅い	
職業	53.316	4	***	0.250	自営業	5.0	-5.0
					給与所得者	-6.5	6.5
					専業主婦	2.8	-2.8
					アルバイト・その他	1.6	-1.6
					なし	-0.4	0.4
結婚の有無	21.527	2	***	0.159	未婚	-4.2	4.2
					既婚	2.1	-2.1
					配偶者離死別	2.4	-2.4
居住開始世代	17.653	4	***	0.152	自分の代	0.5	-0.5
					親の代	-2.4	2.4
					祖父母の代	-1.6	1.6
					曾祖父母の代	0.7	-0.7
					曾祖父母の代以前	3.7	-3.7
年齢	16.443	4	***	0.138	20歳～29歳	-3.5	3.5
					30歳～39歳	-0.1	0.1
					40歳～49歳	-0.3	0.3
					50歳～59歳	2.7	-2.7
					60歳以上	0.3	-0.3
通勤時間	10.743	4	*	0.138	自宅が勤務場所である	2.2	-2.2
					歩いて15分	1.0	-1.0
					車で15分以内	0.8	-0.8
					車で15分～30分程度	-1.3	1.3
					車で30分以上	-2.1	2.1
最終学歴	15.227	3	**	0.134	小中学校	0.8	-0.8
					高等学校	2.8	-2.8
					短大各種学校	-1.6	1.6
					四年制大学	-3.2	3.2
性別	13.900	1	***	0.128	男性	-3.7	3.7
					女性	3.7	-3.7
周辺環境	12.692	3	**	0.122	住宅地域	-3.5	3.5
					商業地域	1.7	-1.7
					農業・山間地域	2.8	-2.8
					工業・その他地域	0.4	-0.4
居住年数	10.420	2	**	0.110	5年以下	-2.6	2.0
					6年～20年	-1.0	1.0
					21年以上	2.8	-2.8

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$

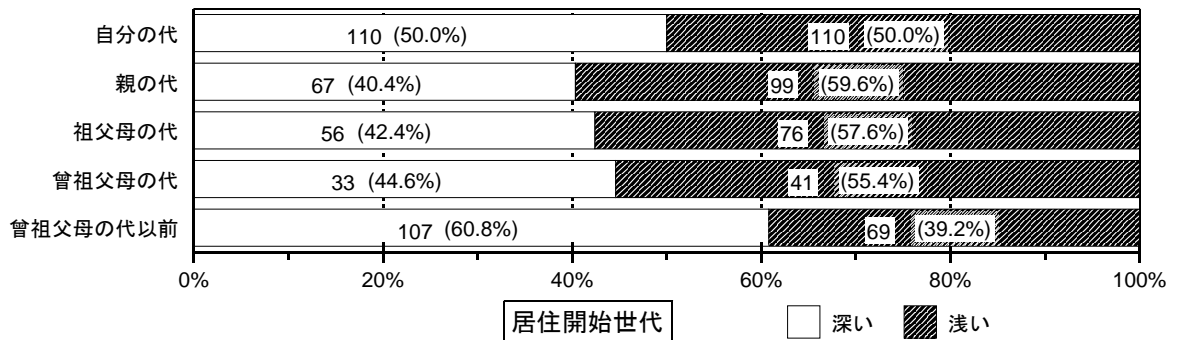
図2 近所づきあいの深さと属性



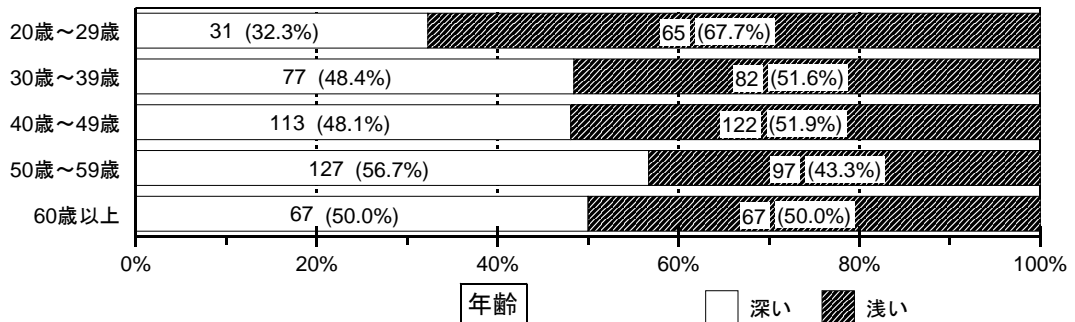
(人)



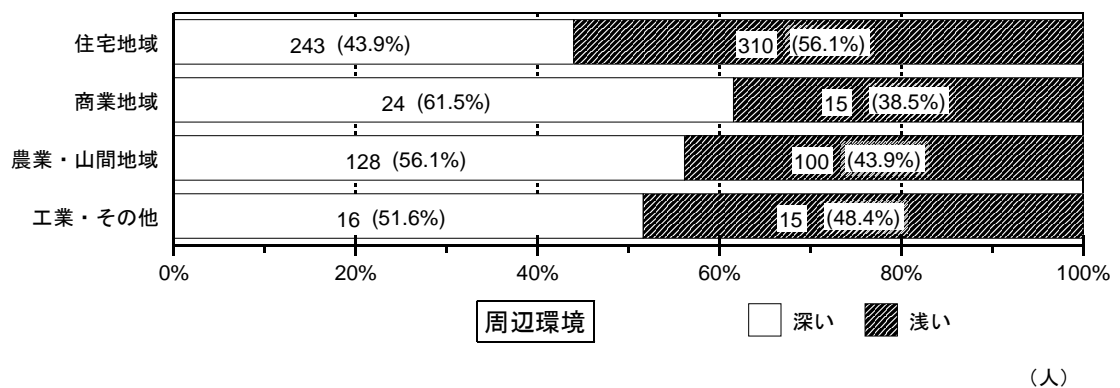
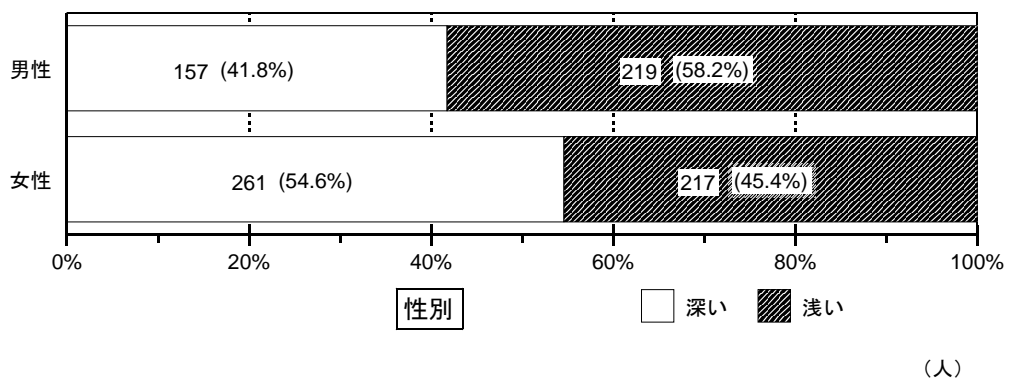
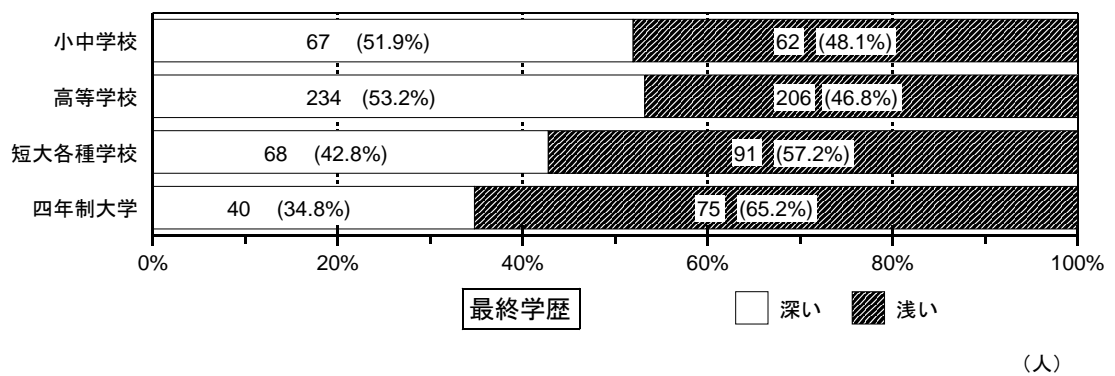
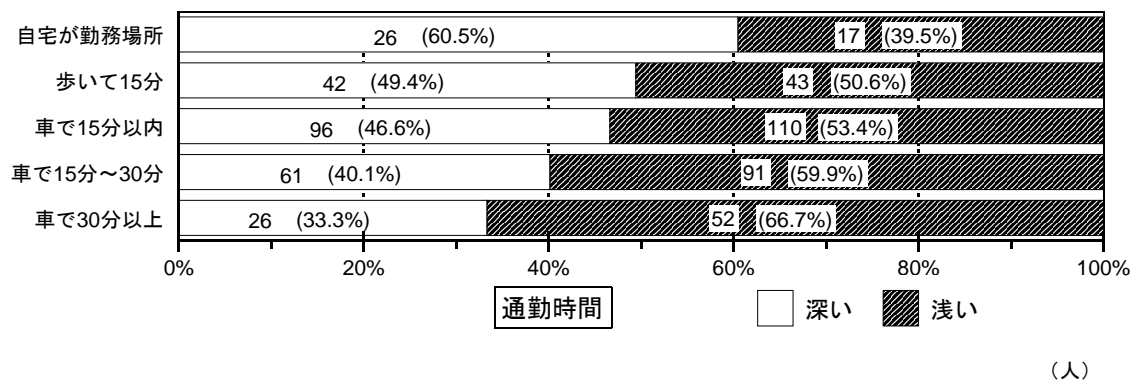
(人)



(人)



(人)



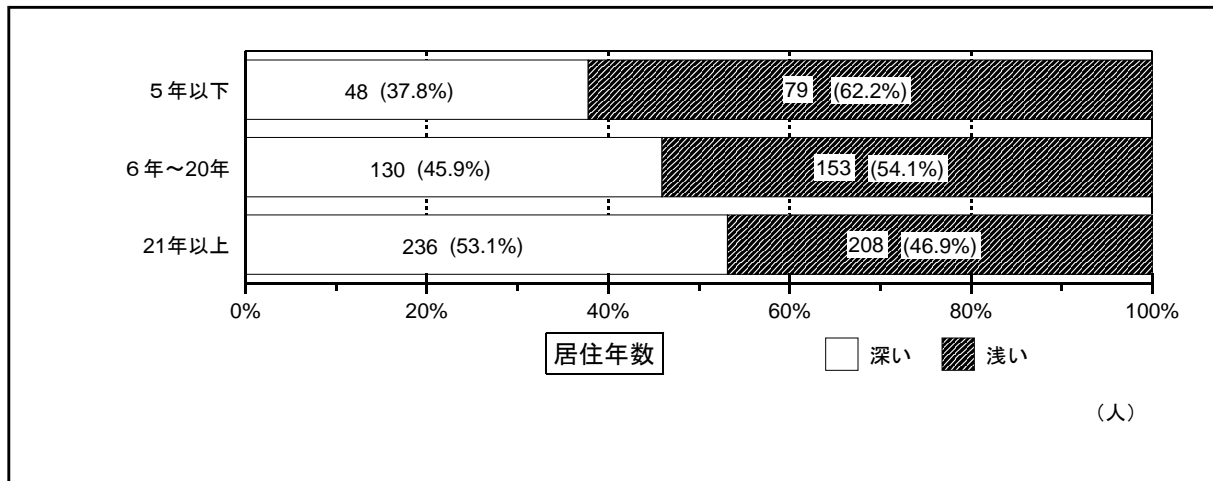


表 2-2 近所づきあいの深さの規定要因 (ロジスティック回帰分析)

	回帰係数	p 値	オッズ比
年齢 (強制投入)		0.061	
20歳～29歳 (base category)			1.000
30歳～39歳	0.170	0.646	1.185
40歳～49歳	-0.103	0.782	0.902
50歳～59歳	0.172	0.653	1.188
60歳以上	-0.789	0.078	0.454
結婚の有無		0.012	
未婚 (base category)			1.000
既婚	0.380	0.254	1.462
配偶者離死別	1.246	0.005	3.477
居住開始		0.002	
自分の代 (base category)			1.000
親の代	-0.341	0.183	0.711
祖父母の代	-0.280	0.332	0.756
曾祖父母の代	-0.824	0.013	0.439
曾祖父母の代以前	0.422	0.099	1.525
職業		0.000	
自営業 (base category)			1.000
給与所得者	-1.375	0.000	0.253
専業主婦	-0.167	0.647	0.847
アルバイト・その他	-0.350	0.315	0.705
なし	-0.624	0.172	0.536
地域活動の参加経験			
少ない (base category)			1.000
多い	0.868	0.000	2.382
地域社会への態度		0.000	
低低 (base category)			1.000
低	0.134	0.607	1.144
高	0.287	0.285	1.332
高高	1.113	0.000	3.044

-2 Log likelihood=730.622 $\chi^2=135.541$ df=18 p<0.001

Nagelkerke R²=0.260

3. 「地域活動の経験（Q19）」と基本的属性の関連

Q19は自分の住む地域のためにどのような活動を行ったことがあるかを、10項目について尋ねたものである。

表3は地域活動の経験と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図3はそれらをクロス集計したグラフである。

ここではQ19の各項目に「はい」と回答した合計数に基づき、「多い」群と「少ない」群にカテゴリー化して各属性との関連をみていく。以下の括弧内の数値は「多い」群の割合である。

χ^2 検定の結果、「年齢」「居住年数」「結婚の有無」「住居形態」「7～15歳の子どもの有無」が0.1%、「居住開始世代」「6歳以下の子どもの有無」が1%、「世帯合計年収」「職業」「周辺環境」が5%の水準で独立性は棄却され、それぞれ地域活動の経験と関連のある可能性が示された。

残差分析によると、「年齢」では「50歳～59歳(52.0%)」「40歳～49歳(51.5%)」の地域活動の経験が多く、「20歳～29歳(16.8%)」「30歳～39歳(37.1%)」は少ない。「60歳以上」は有意差がなかった。「居住年数」では「21年以上(51.6%)」の地域活動の経験が多く、「5年以下(20.9%)」は少ない。「6年～20年」は有意差がなかった。「結婚の有無」では「既婚者(50.0%)」の地域活動の経験が多く、「未婚者(22.2%)」は少ない。「配偶者離死別」は有意差がなかった。「住居形態」では「個人所有(47.8%)」「一戸建て(48.5%)」の地域活動の経験が多く、「賃貸(27.0%)」「集合住宅(12.5%)」が少なかった。「居住開始世代」では「曾祖父母の代以前(57.1%)」の地域活動の経験が多く、「親の代(38.0%)」が少ない。「曾祖父母の代」「祖父母の代」「自分の代」は有意差がなかった。「7～15歳の子どもの有無」では「いる(56.7%)」の地域活動の経験が多く、「いない(41.3%)」は少なかった。「世帯合計年収」では「400万円～600万円(54.5%)」の地域活動の経験が多く、「400万円未満(40.9%)」は少ない。「600万円～800万円」「800万円以上」は有意差がなかった。「職業」では「自営業(56.2%)」の地域活動の経験が多く、「給与所得者(41.2%)」の地域活動の経験が少ない。「専業主婦」「アルバイト・その他」「なし」は有意差がなかった。「6歳以下の子どもの有無」では「いない(47.3%)」の地域活動の経験が多く、「いる(34.0%)」は少なかった。「周辺環境」では「農業・山間地域(53.9%)」の地域活動の経験が多く、「住宅地域(40.9%)」は少ない。「商業地域」「工業・その他地域」は有意差がなかった。

以上の結果から、地域活動には6歳以下の子どものいない人で、居住年数が長く農業・山間地域で農業等の自営業をしている人が多く参加していると考えられる。

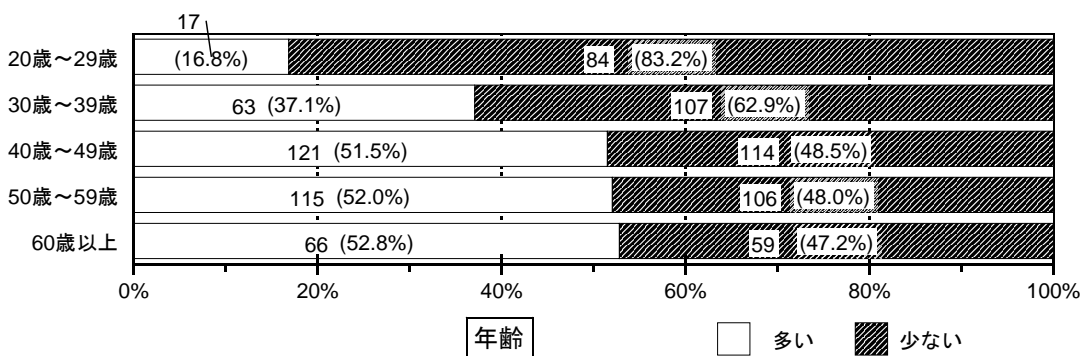
また、近隣交際量（Q17）及び近所づきあいの深さ（Q18）とのCramerのV係数は0.347、0.267であり、近所づきあいが多い人は地域活動の経験も多いといえる。

表3 地域活動の経験と属性の関連

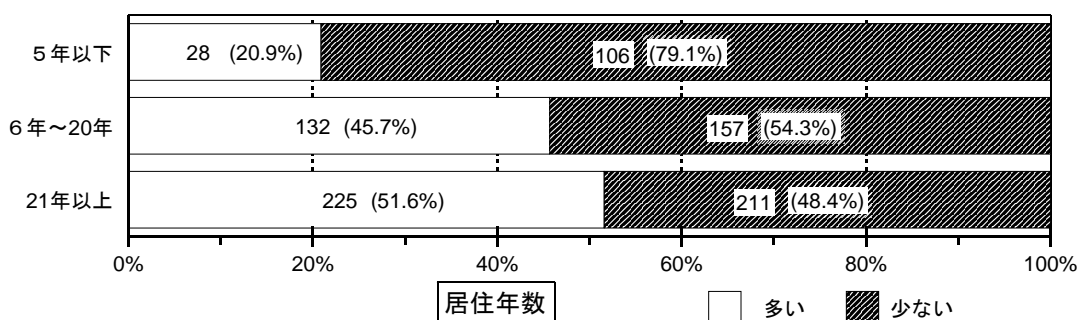
属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					多い	少ない	
年齢	48.226	4	***	0.238	20歳～29歳	-6.0	6.0
					30歳～39歳	-2.3	2.3
					40歳～49歳	2.4	-2.4
					50歳～59歳	2.5	-2.5
					60歳以上	1.9	-1.9
居住年数	39.215	2	***	0.214	5年以下	-6.1	6.1
					6年～20年	0.4	-0.4
					21年以上	4.1	-4.1
結婚の有無	34.844	2	***	0.202	未婚	-5.8	5.8
					既婚	5.1	-5.1
					配偶者離死別	-0.2	0.2
住居形態（一戸建て・集合住宅）	18.517	1	***	0.148	一戸建て	4.3	-4.3
					集合住宅	-4.3	4.3
居住開始世代	16.642	4	**	0.147	自分の代	-1.4	1.4
					親の代	-2.5	2.5
					祖父母の代	-0.3	0.3
					曾祖父母の代	1.6	-1.6
					曾祖父母の代以前	3.2	-3.2
住居形態（個人所有・賃貸）	17.502	1	***	0.143	個人所有	4.2	-4.2
					賃貸	-4.2	4.2
7～15歳の子ども有無	15.146	1	***	0.133	いる	3.9	-3.9
					いない	-3.9	3.9
世帯合計年収	9.629	3	*	0.116	400万円未満	-2.7	2.7
					400万円～600万円	2.3	-2.3
					600万円～800万円	-0.2	0.2
					800万円以上	1.2	-1.2
職業	10.942	4	*	0.113	自営業	2.7	-2.7
					給与所得者	-2.1	2.1
					専業主婦	0.4	-0.4
					アルバイト・その他	0.9	-0.9
					なし	-1.3	1.3
6歳以下の子ども有無	8.730	1	**	0.101	いる	-3.0	3.0
					いない	3.0	-3.0
周辺環境	8.631	3	*	0.101	住宅地域	-3.0	3.0
					商業地域	-0.1	0.1
					農業・山間地域	3.3	-3.3
					工業・その他地域	-0.1	0.1

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

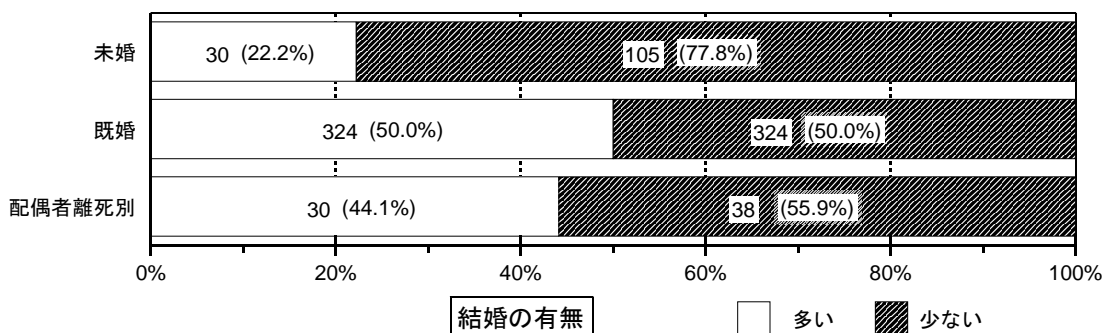
図3 地域活動の経験と属性



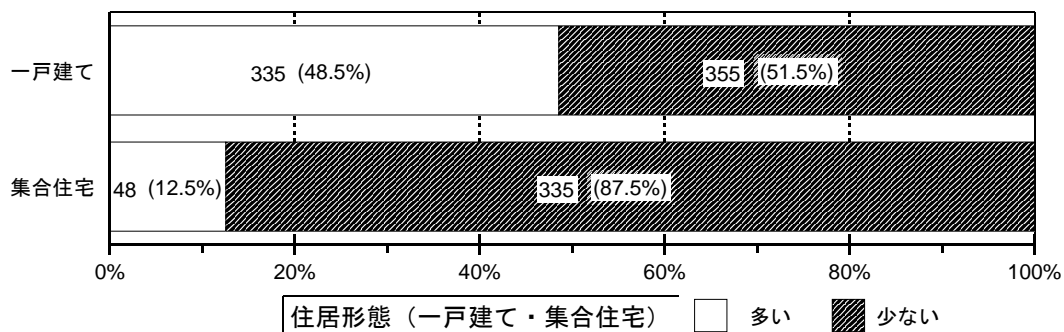
(人)



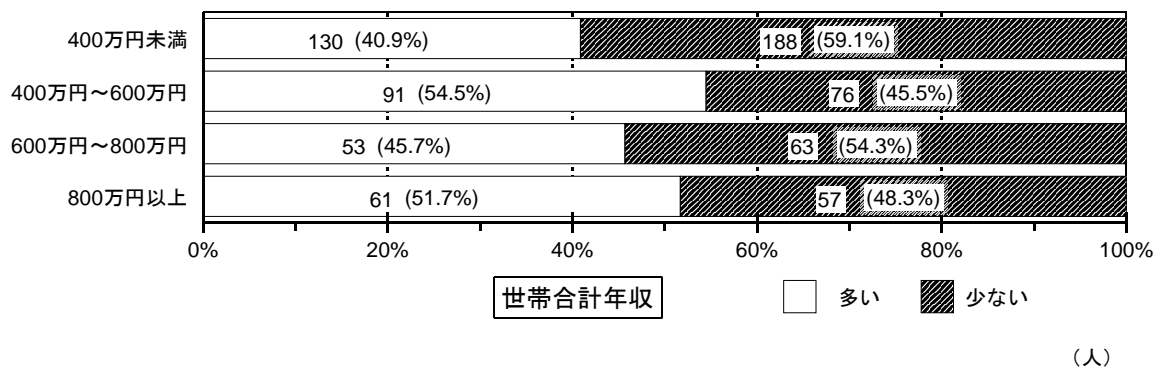
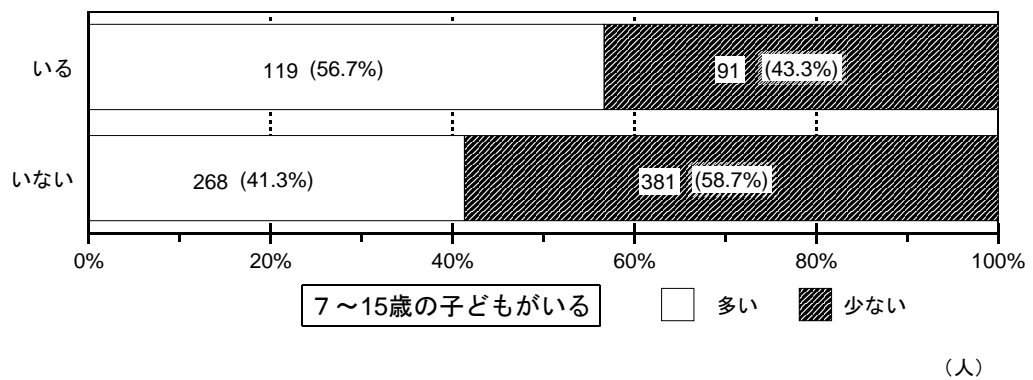
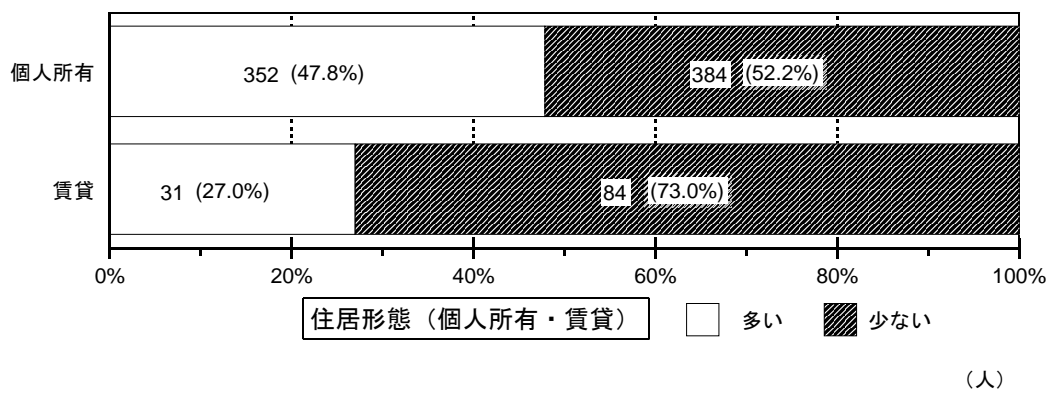
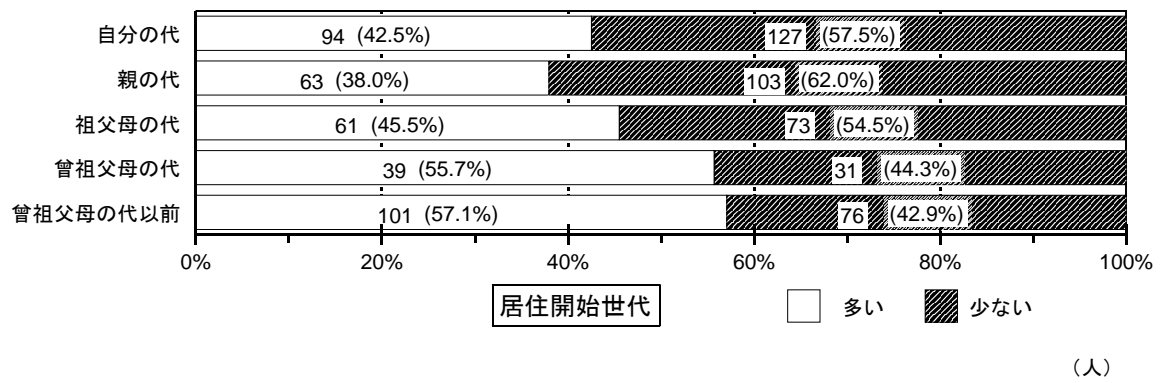
(人)

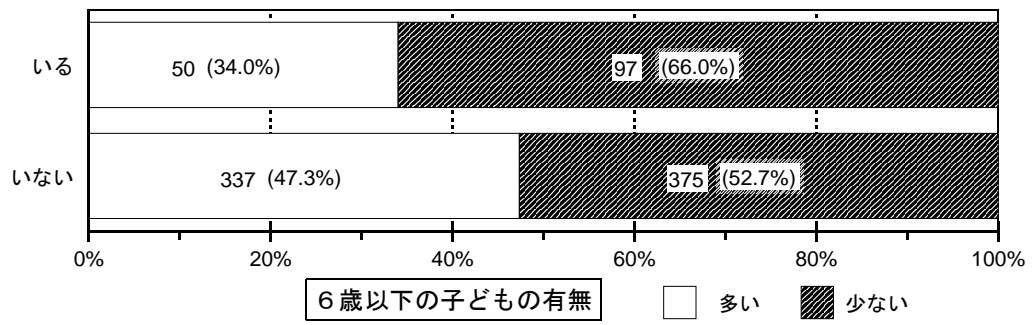


(人)

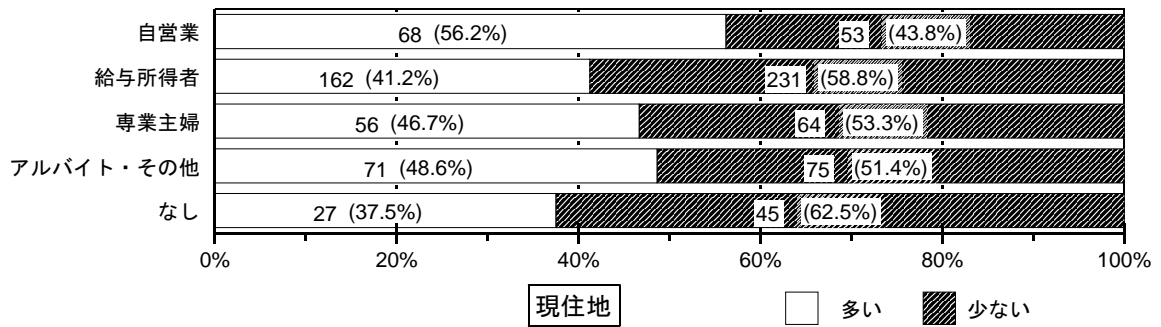


(人)

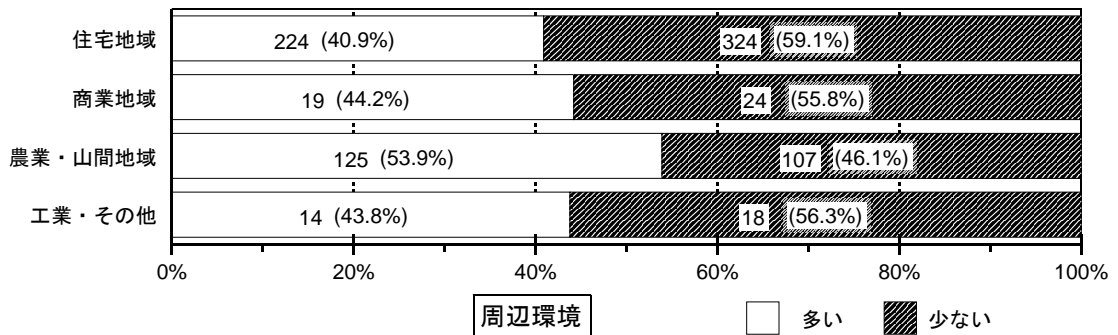




(人)



(人)



(人)

4. 「住民同士のつながり（Q20）」と基本的属性の関連

Q20は住民同士のつながりの変化をどのように感じているかについて尋ねたものである。なお、住民同士のつながりについては「強くなった」の回答がほとんどなかったため、除外した。また、居住年数が少ない場合、「わからない」と回答することが多かったため5年以下は除外した。

全体では、図4のように約半数の人が住民同士のつながりが「弱くなった」と感じていることがわかる。

表4-1は住民同士のつながりの変化の感じ方と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したものである。

χ^2 検定の結果、「居住開始世代」「住居形態」「性別」「親戚居住地」が0.1%、「年齢」「職業」が5%の水準で独立性は棄却され、それぞれ住民同士のつながりの変化の感じ方と関連のある可能性が示された。

残差分析によると、曾祖父母の代以前から居住する自営業の男性がそのように感じている人が多いといえる。また「変わらない」と感じるのは若い世代が多く、「わからない」と回答したのは、自分の代から居住した人や女性、また親戚が県外に居住している人が多かった。

次に住民同士のつながりの変化の感じ方と、近隣交際指数、近所づきあいの深さ、地域活動の経験、地域活動への参加意欲、地域社会への態度との関連をみた。そのうち関連があったのは地域活動への参加意欲のみだった。残差分析によると、表4-2のように住民同士のつながりが弱くなったと感じている人は地域活動への参加意欲が高く、住民同士のつながりを取り戻したいという意識が強いと考えられる。

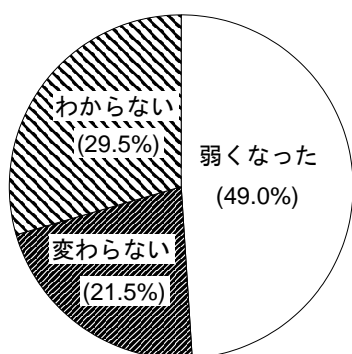


図4 住民同士のつながりと属性
(居住年数6年以上のみ)

表4-1 住民同士のつながりと属性の関連（居住年数6年以上のみ）

属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V		調整済み残差		
						弱くな った	変わら ない	わから ない
居住開始世代	42.798	8	***	0.173	自分の代	-3.1	-2.7	5.9
					親の代	1.0	-0.1	-0.9
					祖父母の代	-1.1	2.4	-0.9
					曾祖父母の代	0.6	1.1	-1.7
					曾祖父母の代以前	2.8	0.0	-3.0
住居形態（一戸建て・集合住宅）	19.468	2	***	0.158	一戸建て	2.0	2.3	-4.3
					集合住宅	-2.0	-2.3	4.3
性別	18.494	2	***	0.154	男性	3.2	0.8	-4.2
					女性	-3.2	-0.8	4.2
住居形態（個人所有・賃貸）	14.829	2	***	0.138	個人所有	1.0	2.7	-3.5
					賃貸	-1.0	-2.7	3.5
親戚居住地	19.992	4	***	0.113	同じ市町村内にいる	1.1	2.0	-3.0
					県内にいる	0.4	-1.9	1.3
					県外・その他にいる	-3.0	-0.6	3.8
年齢	18.570	8	*	0.110	20歳～29歳	-1.2	2.9	-1.3
					30歳～39歳	-0.2	2.1	-1.7
					40歳～49歳	0.2	-1.4	1.0
					50歳～59歳	1.3	-1.0	-0.6
					60歳以上	-0.8	-1.2	1.9
職業	17.379	8	*	0.106	自営業	3.2	-1.2	-2.4
					給与所得者	0.2	1.2	-1.3
					専業主婦	-1.2	-0.4	1.7
					アルバイト・その他	-0.9	-0.2	1.2
					なし	-1.9	0.2	1.9

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

表4-2 住民同士のつながりと地域活動への参加意欲の関連（居住年数6年以上のみ）

地域活動への参加意欲	住民同士のつながり				合計
	弱くな った	変わら ない	わから ない		
低い	度数	111	59	72	242
	構成割合	44.6%	60.2%	55.8%	50.8%
	調整済み残差	-2.9	2.1	1.3	
高い	度数	138	39	57	234
	構成割合	55.4%	39.8%	44.2%	49.2%
	調整済み残差	2.9	-2.1	-1.3	
合計	249	98	129	476	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

($\chi^2=8.622$ df=2 p<0.05 Cramer's V=0.135)

5. 「参加してみたい地域活動（Q22）」と基本的属性の関連

Q22は地域活動を8項目に分類した上で、それぞれへの参加希望の有無や程度について尋ねたものである。

表5-1は参加してみたい地域活動と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図5-1はそれらをクロス集計したグラフである。

ここではQ22の8項目の「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」「あまり参加したくない」「参加したくない」にそれぞれ4～1点を与えて32点満点とし、その合計点に基づき「高い」群と「低い」群にカテゴリー化して各属性との関連をみていく。

χ^2 検定の結果、「年齢」「6歳の子どもの有無」が1%の水準で独立性は棄却され、それぞれ地域活動への参加意欲と関連のある可能性が示された。

残差分析によると、「年齢」では「40歳～49歳(56.8%)」の地域活動への参加意欲が高く、「20歳～29歳(32.9%)」「30歳～39歳(38.5%)」は低い。「50歳～59歳」「60歳以上」は有意差がなかった。「6歳の子どもの有無」では「いない(52.0%)」の地域活動への参加意欲が高く、「いる(36.3%)」は低かった。以上の結果から、地域活動に参加する意欲が高いのは40歳代で6歳以下の子どものいない人であるといえる。更に単純集計で最も参加希望が多かった環境保護をみると、表5-2のように40歳以上の既婚者で、6歳以下の子どものいない人の意欲が高く、職業では自宅と勤め先が近い自営業が高かった。

表5-1 地域活動への参加意欲と属性の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					高い	低い	
年齢	19.027	4	**	0.180	20歳～29歳	-2.9	2.9
					30歳～39歳	-2.5	2.5
					40歳～49歳	2.4	-2.4
					50歳～59歳	1.6	-1.6
					60歳以上	0.6	-0.6
6歳以下の子どもの有無	8.295	1	**	0.119	いる	-2.9	2.9
					いない	2.9	-2.9

**： p<0.01

表5-2 環境保護（清掃活動、リサイクル、地域緑化、自然動植物保護など）

属性	χ ² 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					参加した い	参加した くない	
年齢	61.565	4	***	0.272	20歳～29歳	-6.3	6.3
					30歳～39歳	-3.4	3.4
					40歳～49歳	2.3	-2.3
					50歳～59歳	3.4	-3.4
					60歳以上	2.4	-2.4
結婚の有無	18.698	2	***	0.150	未婚	-4.3	4.3
					既婚	3.1	-3.1
					配偶者離死別	0.9	-0.9
通勤時間	10.670	4	*	0.138	自宅が勤務場所	1.4	-1.4
					歩いて15分	2.1	-2.1
					車で15分以内	-2.7	2.7
					車で15分～30分程度	-0.2	0.2
6歳以下の子どもの有無	13.702	1	***	0.128	いる	-3.7	3.7
					いない	3.7	-3.7
					職業	9.938	4
給与所得者	-1.0	1.0					
専業主婦	0.0	-0.0					
アルバイト・その他	-1.9	1.9					
なし	1.1	-1.1					

***: p<0.001, *: p<0.05

図5-1 地域活動への参加意欲と属性

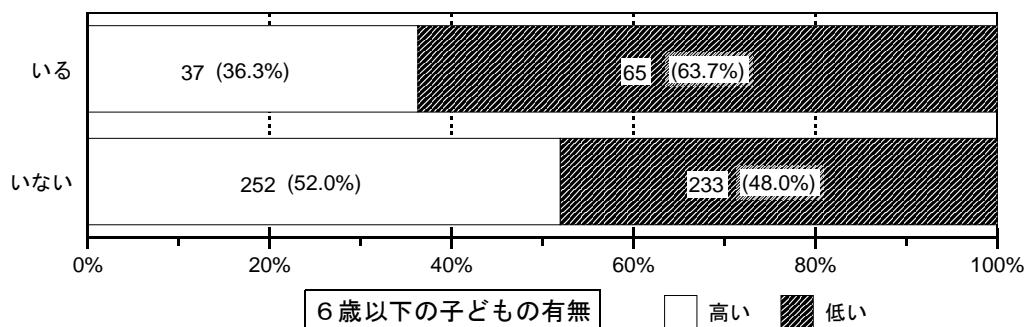
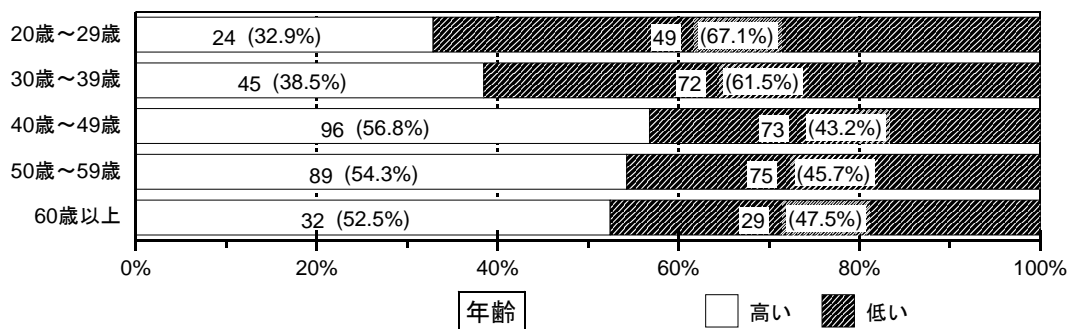
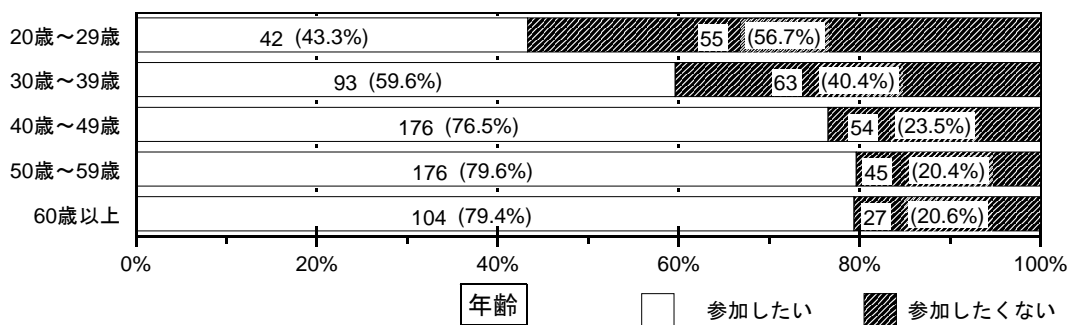
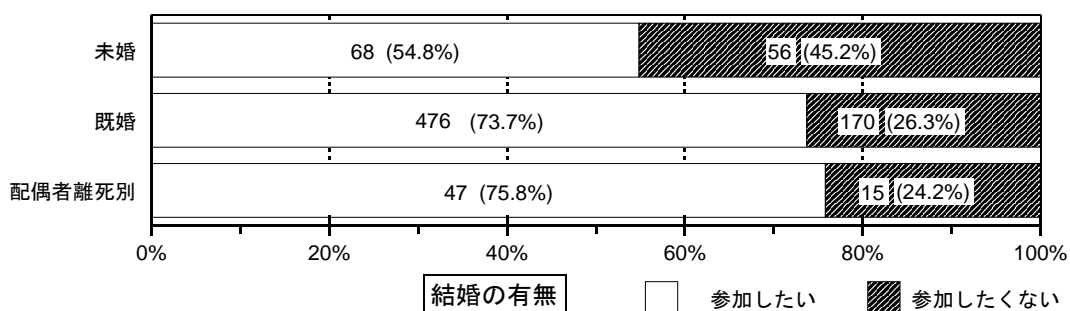


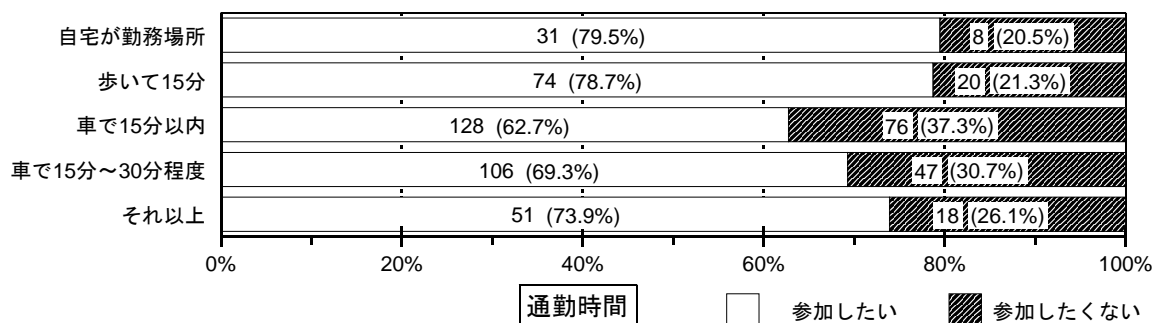
図 5 - 2 環境保護への参加意欲



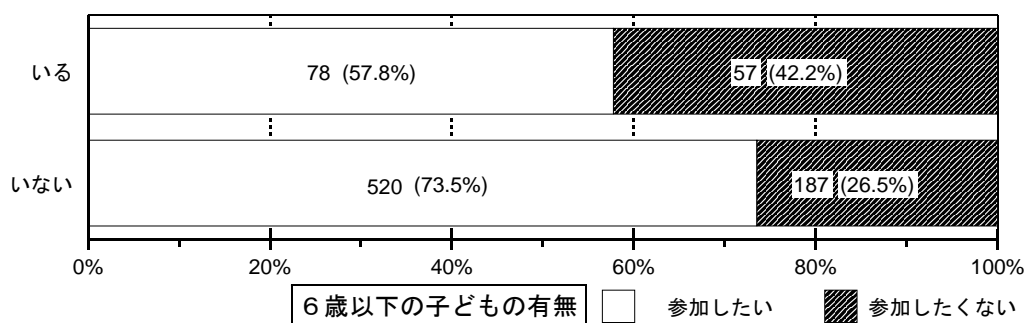
(人)



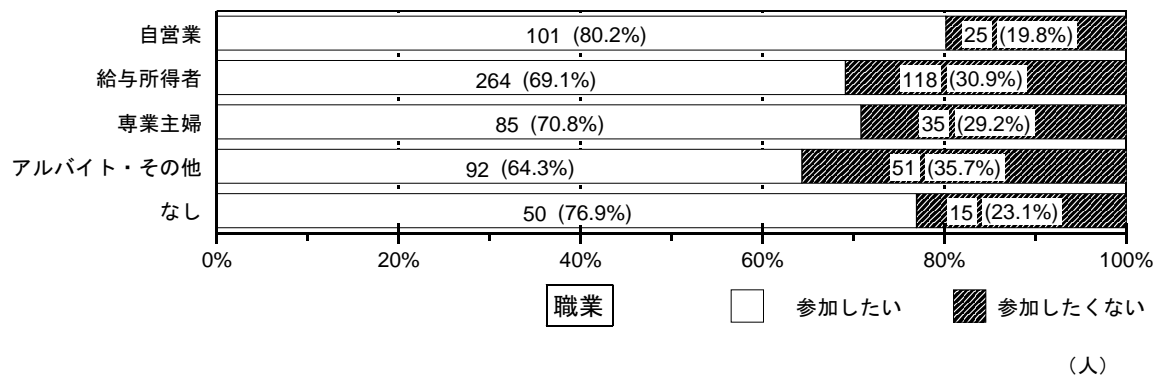
(人)



(人)



(人)



6. 「地域社会への態度 (Q23)」と基本的属性の関連

本尺度は、田中國夫ら(1978)によって開発された、住民の地域社会への態度を測定するものである⁽⁴⁾。この地域社会への態度尺度は、住民の「コミュニティ意識」を捉えることを目的としている。「コミュニティ意識」とは、生活の場で、住民がヨコのつながり、すなわち信頼感や連帯感に基づく人間関係を基本として、地域の問題に取り組み、その地方の住民自治を築いていこうとする意識や態度のことである。

本尺度の下位尺度は「積極性－消極性尺度」と「協同志向－個別志向尺度」を見いだしている。「積極性－消極性尺度」は、地域社会におこる諸問題に対して、その成員として積極的に取り組み行動し参加する姿勢を持つかどうかを測定するものであり、「協同志向－個別志向尺度」は地域社会の成員としての自覚に基づき、地域社会という全体的な集合の場を重視するか否かを測定するものである。

そこで本調査Q23の地域社会への態度に対する回答をもとに、各質問項目に以下のように5～1点を与え、それを合計することにより得点を算出した。

積極性－消極性尺度は、「そうは思わない」に5点、「どちらかといえばそうは思わない」に4点、「どちらともいえない」に3点、「どちらかといえばそう思う」に2点、「そう思う」に1点を与え、その項目の得点とした。協同志向－個別志向尺度は、反対に「そう思う」に5点、「どちらかといえばそう思う」に4点、「どちらともいえない」に3点、「どちらかといえばそうは思わない」に2点、そうは思わない」に1点を与え、その項目の得点とし、両尺度ともその合計を尺度の得点とすることにより、得点が高いほどそれぞれ積極性と協同志向を意味している。

調査の結果、平均値と標準偏差は「積極性－消極性尺度」が16.38(4.06)、「協同志向－個別志向尺度」が16.15(3.90)である。田中らがこの尺度の開発のため、1976年に名古屋市及びその近郊都市、大阪、神戸、西宮で行った当時の調査結果によると、平均値と標準偏差は「積極性－消極性尺度」が17.29(4.30)、「協同志向－個別志向尺度」が16.99(3.70)だった。都会と地方という違いがある上、平均値と標準偏差のみからでは厳密な比較はできないが、27年前の調査と本調査の結果には極端な差はみられなかった。

次に、基本属性とコミュニティ意識の関連を検討するため、地域社会への態度尺度の合計点を4段階にカテゴリー化して χ^2 検定を行った。表6-1は地域社会への態度と基本属性の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図6はそれらをクロス集計したグラフである。

χ^2 検定の結果、「居住年数」「年齢」「6歳以下の子どもの有無」が0.1%の水準で独立性は棄却され、それぞれ関連のある可能性が示された。

残差分析によると、居住年数が21年以上になると意識が高くなっている。また「年齢」が上がるほど意識が高くなる傾向が看取された。「6歳以下の子どもの有無」では、いない方が意識が高かった。

以上の結果からコミュニティ意識の違いは、居住年数の長さや年齢の上昇、また子どもの養育の終了といった時間的経過による要因が大きく、それによって地域への愛着が深まったり、一方では問題がみえてくると考えられる。つまり、近隣交際量や近所づきあいの深さで関連のあった地域差や職業、結婚の有無等の要因はコミュニティ意識にはあまり関連がない。換言すれば、近所づきあいが少なかった給与所得者や都市部に居住する人や未婚者が、地域社会に関心がないとはいえないということである。また、1976年に行われた先行研究の調査結果とも極端な違いがみられなかったことから、時間的経過によって全体の意識が大きく低下するわけではないといえる。

ただし、表6-2～5の残差分析の結果をみると、「地域社会への態度」の合計が上位4分の1のかなりコミュニティ意識が高い群は、近所づきあいも多く、地域活動の経験や参加意欲もあり、これらの関連が深いことは明らかである。

また、表6-6は「地域社会への態度」の合計が上位4分の1のコミュニティ意識の高い群における属性と地域活動への参加経験の関連である。これをみると、年齢が20代の未婚者で四年制大学を卒業しており、都市部の賃貸・集合住宅に住む、居住年数5年以下の人が、コミュニティ意識は高いが地域活動への参加が少ないことがわかる。

更にこれらの関連がみられた属性に、 χ^2 検定でわずかに有意とならなかった「周辺環境」を加えたものを独立変数に、「地域活動への参加経験」を従属変数として、尤度比による変数減少法でロジスティック回帰分析を行い、再度その影響力の度合いを確認したところ、「最終学歴」「年齢」「周辺環境」の3つの要因を用いた予測モデルが得られた。表6-7のオッズ比をみると、年齢が20代で四年制大学を卒業しており、住宅地域に居住する人がコミュニティ意識は高いが地域活動への参加経験が少ないタイプであることが示唆された。

近年、「都市化や核家族化の進展などにより、市民の連帯感や地域社会への関心は希薄化する傾向」にあるとされ、地域住民の連帯感とコミュニティ意識を一括して取り上げ、それを深めていくことが国や地方自治体において行政課題として掲げられている。本研究の調査においても、三市や住宅地域の「住民同士のつながり」が低下したと回答した割合が少なくないことから、本県においても連帯感が希薄化してきたのは間違いないだろう。

しかし管見の限りでは、コミュニティ意識の変化を調査した研究は見あたらず、その低下については地域活動への参加数や参加希望が少ないといった視認の容易な「行動」のみを捉えた一時的な調査を根拠に推察しているに過ぎない。

つまり、潜在している地域社会への関心まで把捉しているとはいえず、コミュニティ意識は高いが地域活動への参加が少ない層への対応が的確なものになっているとはいえない。本調査研究では、前述のようにコミュニティ意識は高いが地域活動への参加が少ない層が存在していることを指摘した。更に、このような属性に相当する人の地域活動への参加意欲も高くなかったことから、まずは参加に結びつく「きっかけ」を重視し、参加への

敷居を下げる方策を考えることが肝要である。例えば町内会の場合、有志によってホームページを開設し、電子掲示板に自由な意見を書き込めるようにするなど、形にこだわらず地域に関わりを持たせることにより、潜在している地域社会への関心を行動化に向ける工夫が必要と考える。その中で町内会活動へのニーズを捉え、活動内容の見直しを図ることが望まれる。

岡山市では、平成14年3月にインターネットを活用した地域コミュニティの活性化を目指し、ホームページによる町内会活動や地域情報の発信、「電子会議室」などによる町内会員同士の情報交換ができる「電子町内会」を発足させた⁽⁵⁾。ID・パスワードを持った町内会員だけが利用できる回覧板・掲示板機能や電子会議室機能を市が付加することにより、町内会内外に広くその活動をPRするとともに、コミュニティの活性化や市民の情報化をねらうものであり、平成15年11月現在28町内会が参画している。ネットコミュニティは、居住歴の浅い住民でも地域情報を手に入れやすく、時間にとらわれずインターネットを通じて会議などに参加できるなど、地域とのつながりを持つきっかけになっている。町内会やテーマコミュニティのグループがネットで情報交換、親睦を深める例もあり、ネットコミュニティは、他の2つのコミュニティでも新たなつながりをつくる手段となっているのである。この岡山市の場合、自治体レベルで行われている例であるが、Web上を検索すれば個人による町内会のホームページ開設も少なくない。しかし本県においては1件のみであり、東北地方でも6件とまだまだ町内会のホームページ開設は少ない状況である⁽⁶⁾。

本調査研究では町内会の活動が認知されていないことや、現状の町内会活動に疑問を感じている層が活動への参加態度を保留していることを指摘している。また単純集計においても「他に優先したいことがある」や「魅力が感じられない」という理由で活動に参加したくないと回答した人も少なくないため、町内会のホームページを開設して情報を公開することによってそれらの問題を是正していくことが、活動への参加を促すことにつながると考える。

前述の岡山市のような先進的事例を他の自治体がすぐに真似できるものではないだろう。しかし、県民の情報リテラシーを高めるために今後IT講習をどう展開し、その成果をどう活かしていくのかという観点から考えれば、必ずしも大規模な事業として展開するだけがコミュニティの活性化を可能にするものではなく、既存の事業の見直しによって、単なる「技能講習」としてではなく、地域活動・社会教育と結びつけたものにしていくことは可能である。地域情報化に対応した生涯学習支援を行う上で地域情報の収集・発信という活動が果たす役割は、今後も一層重要になるであろう。

表 6 - 1 地域社会への態度と属性の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	地域社会への態度 調整済み残差				
					37~50	33~36	29~32	12~28	
居住年数	40.761	6	***	0.153	5年以下	-4.1	-0.3	2.3	2.1
					6年~20年	-0.6	-1.5	-1.4	3.6
					21年以上	3.6	1.7	-0.3	-5.0
年齢	56.439	12	***	0.148	20歳~29歳	-3.4	-1.4	-0.4	5.2
					30歳~39歳	-2.5	-0.2	1.0	1.7
					40歳~49歳	-0.8	0.5	1.5	-1.3
					50歳~59歳	2.8	0.6	-1.1	-2.2
					60歳~	3.5	0.1	-1.4	-2.3
6歳以下の子どもがいる	18.440	3	***	0.146	いる	-3.5	-1.1	1.7	2.9
					いない	3.5	1.1	-1.7	-2.9

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

表 6-2 地域社会への態度と近隣交際指数の関連

近隣交際指数		地域社会への態度				合計
		37~50	33~36	29~32	12~28	
高い	度数	155	108	105	64	432
	構成割合	73.5%	52.4%	47.1%	30.9%	51.0%
	調整済み残差	7.5	0.5	-1.4	-6.7	
低い	度数	56	98	118	143	415
	構成割合	26.5%	47.6%	52.9%	69.1%	49.0%
	調整済み残差	-7.5	-0.5	1.4	6.7	
合計		211	206	223	207	847
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

($\chi^2=77.533$ df=3 p<0.001 Cramer's V=0.303)

表 6-3 地域社会への態度と親しくしている人とのつきあいの深さの関連

つきあいの深さ		地域社会への態度				合計
		37~50	33~36	29~32	12~28	
深い	度数	138	84	86	73	381
	構成割合	65.7%	44.4%	42.4%	37.8%	47.9%
	調整済み残差	6.0	1.1	-1.8	-3.2	
浅い	度数	72	105	117	120	414
	構成割合	34.3%	55.6%	57.6%	62.2%	52.1%
	調整済み残差	-6.0	-1.1	1.8	3.2	
合計		210	189	203	193	795
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

($\chi^2=37.951$ df=3 p<0.001 Cramer's V=0.218)

表 6-4 地域社会への態度と行ったことのある地域活動の関連

行ったことのある地域活動		地域社会への態度				合計
		37~50	33~36	29~32	12~28	
多い	度数	136	90	80	57	363
	構成割合	68.3%	46.9%	37.7%	29.2%	45.5%
	調整済み残差	7.5	0.4	-2.6	-5.2	
少ない	度数	63	102	132	138	236
	構成割合	31.7%	53.1%	62.3%	70.8%	54.5%
	調整済み残差	-7.5	-0.4	2.6	5.2	
合計		199	192	212	195	798
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

($\chi^2=67.987$ df=3 p<0.001 Cramer's V=0.292)

表 6-5 地域社会への態度と地域活動への参加意欲の関連

参加意欲		地域社会への態度				合計
		37~50	33~36	29~32	12~28	
高い	度数	111	78	64	30	283
	構成割合	73.5%	62.9%	40.8%	21.7%	49.6%
	調整済み残差	6.8	3.3	-2.6	-7.5	
低い	度数	40	46	93	108	287
	構成割合	26.5%	37.1%	59.2%	78.3%	50.4%
	調整済み残差	-6.8	-3.3	2.6	7.5	
合計		151	124	157	138	570
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

($\chi^2=91.062$ df=3 p<0.001 Cramer's V=0.400)

図6 地域社会への態度と属性

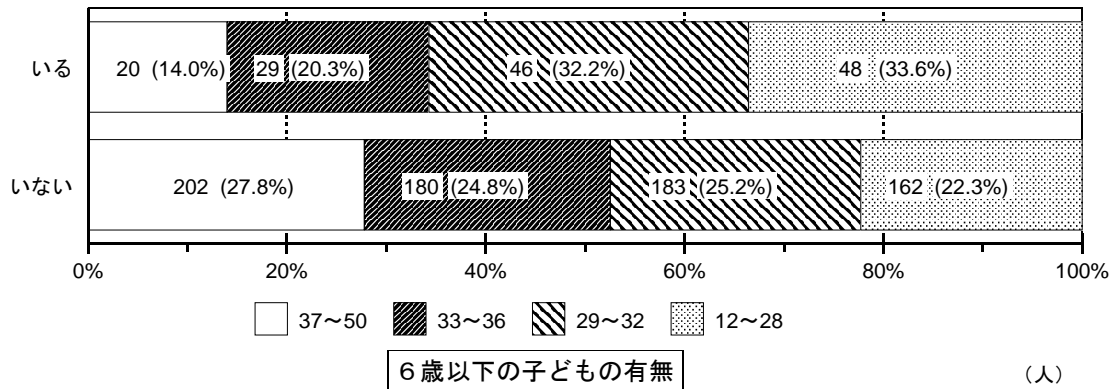
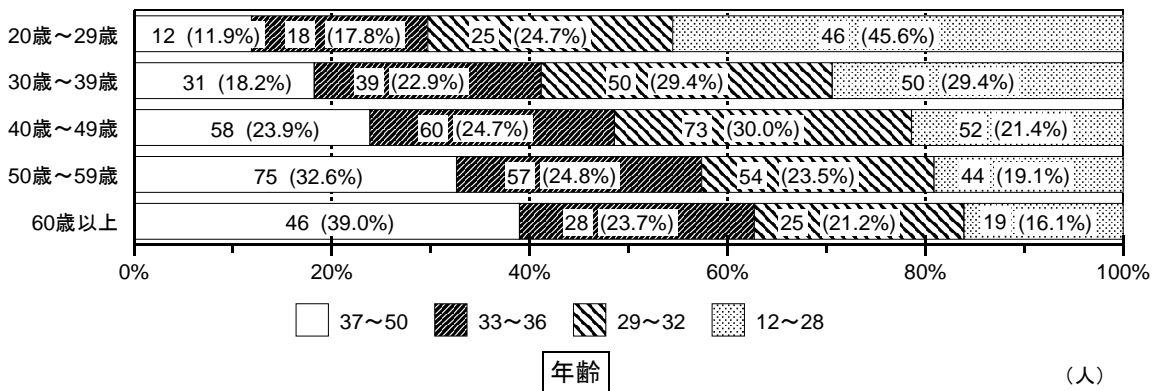
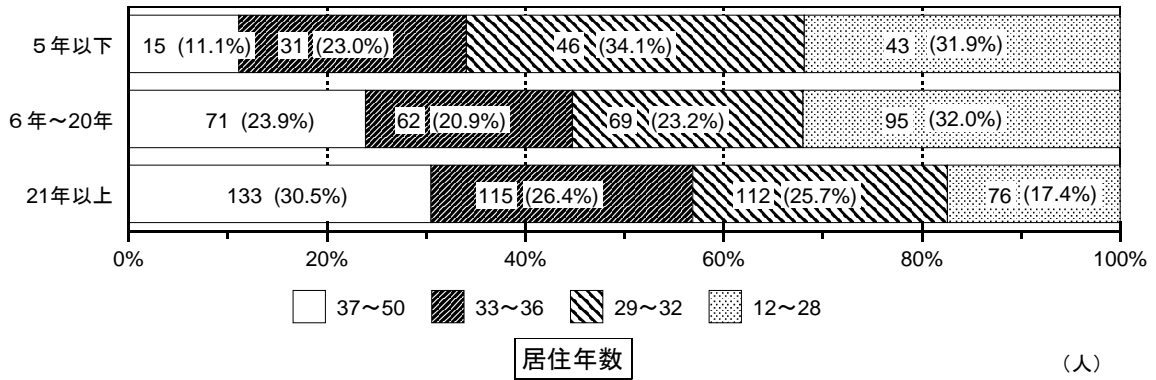


表6-6 コミュニティ意識が高い群における属性と地域活動の経験の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	地域活動の経験		
					調整済み残差 多い	少ない	
年齢	18.696	4	***	0.308	20歳～29歳	-3.6	3.6
					30歳～39歳	0.5	-0.5
					40歳～49歳	1.7	-1.7
					50歳～59歳	-1.6	1.6
					60歳以上	1.6	-1.6
最終学歴	14.495	3	**	0.271	小中学校	-0.1	0.1
					高等学校	2.1	-2.1
					短大各種学校	-0.7	-0.7
					四年制大学	-3.7	3.7
結婚の有無	11.508	2	**	0.242	未婚	-2.5	2.5
					既婚	3.4	-3.4
					配偶者離死別	-2.0	2.0
家族構成	8.822	3	*	0.218	ひとり暮らし	-2.9	2.9
					夫婦のみ	0.7	-0.7
					2世代	1.0	-1.0
居住年数	6.382	2	*	0.181	5年以下	-2.4	2.4
					6年～20年	-0.4	0.4
					21年以上	1.7	-1.7
住居形態（個人所有・賃貸）	4.917	1	*	0.160	個人所有	2.2	-2.2
					賃貸	-2.2	2.2
住居形態（一戸建て・集合住宅）	4.702	1	*	0.156	一戸建て	2.2	-2.2
					集合住宅	-2.2	2.2

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

表6-7 コミュニティ意識が高い群における地域活動経験（少ない）の規定要因（ロジスティック回帰分析）

	回帰係数	p値	オッズ比
最終学歴		0.010	
小中学校（base category）			1.000
高等学校	-1.107	0.051	0.331
短大各種学校	-0.735	0.310	0.479
四年制大学	0.732	0.328	2.080
年齢		0.012	
20歳～29歳（base category）			1.000
30歳～39歳	-2.588	0.032	0.075
40歳～49歳	-3.292	0.005	0.037
50歳～59歳	-2.095	0.068	0.123
60歳以上	-3.207	0.008	0.040
周辺環境		0.034	
住宅地域（base category）			1.000
商業地域	-1.534	0.099	0.216
農業・山間地域	-0.920	0.044	0.398
工業・その他地域	-2.775	0.058	0.062

-2 Log likelihood=172.412 $\chi^2=37.798$ df=9 p<0.001

Nagelkerke R²=0.283

7. 「加入・参加している団体（Q24）」と基本的属性の関連

Q24は現在加入・参加している団体の有無や活動の程度について尋ねたものである。

クロス集計による分析は、加入・参加者が最も多かった町内会・自治会のみについて行う。表7は町内会・自治会への加入・参加の程度と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図7はそれらをクロス集計したグラフである。

ここでは「いつも参加・時々・たまにしか参加しない」を「参加あり」群とし、「加入していない・参加したことはない」を「加入・参加なし」群として各属性との関連をみていく。以下の括弧内の数値は「多い」群の割合である。

χ^2 検定の結果、「住居形態（一戸建て・集合住宅）」「居住年数」「年齢」「現住地」「出生地」「居住開始世代」が0.1%、「世帯収入」「家族構成」が1%、「結婚の有無」「住居形態（個人所有・賃貸）」が5%の水準で独立性は棄却され、それぞれ団体への加入・参加と関連のある可能性が示された。

残差分析によると、「結婚の有無」では「既婚者(76.5%)」の参加が多く、「未婚者(7.9%)」は少ない。「配偶者離死別」は有意差がなかった。「住居形態」では「一戸建て(52.3%)」「個人所有(51.3%)」の参加が多く、「集合住宅(26.8%)」「賃貸(21.9%)」は少なかった。「居住年数」では「21年以上(53.5%)」の参加が多く、「5年以下(26.3%)」は少ない。「6年～20年」は有意差がなかった。「年齢」では「50歳以上(59.0%)」の参加が多く、「20歳～49歳(40.6%)」は少なかった。「現住地」では「町村部(56.2%)」の参加が多く、「三市(40.5%)」は少ない。「五市」は有意差がなかった。出生地」では「町村部(54.2%)」の人に参加経験が多く「三市(38.2%)」が少ない。「五市」「県外」は有意差がなかった。「世帯合計年収」では「800万円以上(64.3%)」の参加が多い。「400万円未満」「400万円～600万円」「600万円～800万円」は有意差がなかった。「家族構成」では「ひとり暮らし(26.1%)」の参加が少ない。「夫婦のみ」「2世代」「3世代」は有意差がなかった。「居住開始世代」では「曾祖父母の代以前(56.0%)」の参加が多く、「親の代(41.2%)」が少ない。

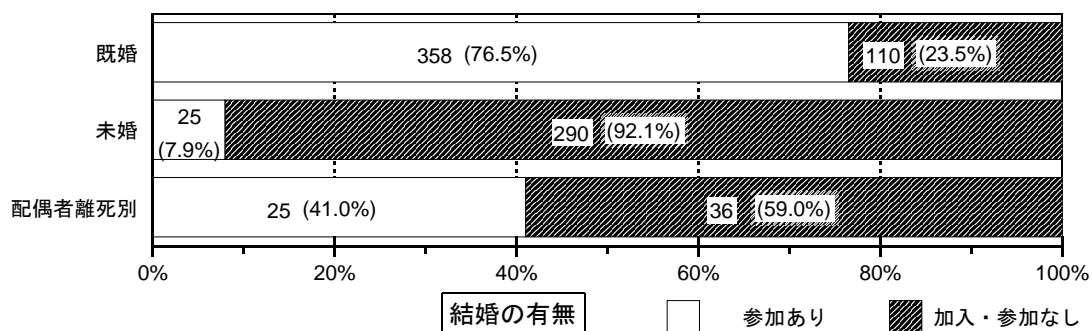
以上の結果から、個人所有の一戸建てに家族で住み、居住年数が長く年代の高い人が参加しているといえる。都市部ほど賃貸住宅が多いため、加入や活動への参加は少なくなる。また、賃貸マンション・アパートは居住年数が短く、単身の若年層の居住が多いため、町内会・自治会の必要性をあまり感じないだろう。居住開始世代については、ここでも「近所づきあいの深さ(Q18)」でみられたように「曾祖父母の代以前」から「親の代」へと、住み始めた世代が新しくなるにつれて参加が少なくなる傾向にあるが、「自分の代」から住み始めた人にはそれが当てはまらなかったため、Q18と同じ要因によるものと考えられる。

表7 町内会・自治会への加入及び活動への参加と属性の関連

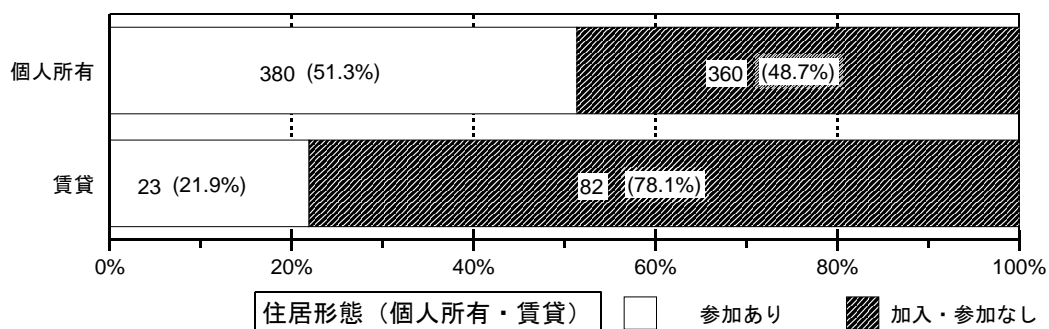
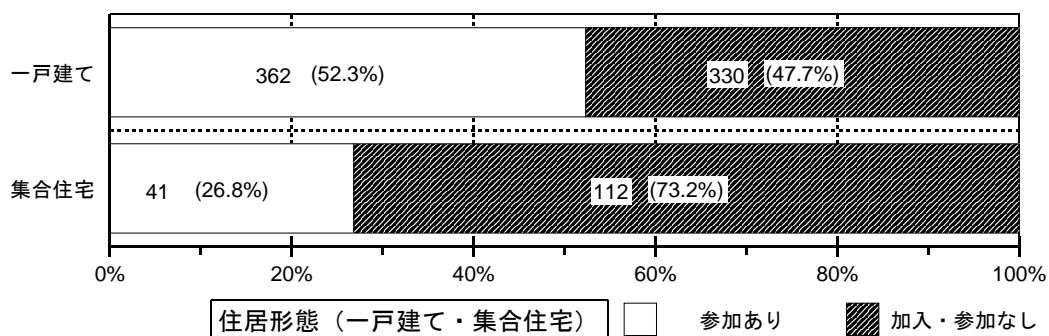
属性	χ^2 値	自由度	検定結果	Cramer's V	調整済み残差		
					参加あり	加入・参加なし	
結婚の有無	61.777	2	*	0.271	既婚	7.3	-7.3
					未婚	-7.6	7.6
					配偶者離死別	-1.2	1.2
住居形態（一戸建て・集合住宅）	32.697	1	***	0.197	一戸建て	5.7	-5.7
					集合住宅	-5.7	5.7
住居形態（個人所有・賃貸）	31.961	1	*	0.194	個人所有	5.7	-5.7
					賃貸	-5.7	5.7
居住年数	30.440	2	***	0.189	5年以下	-5.4	5.4
					6年～20年	0.6	-0.6
					21年以上	3.3	-3.3
年齢	27.523	1	***	0.181	20歳～49歳	-5.2	5.2
					50歳以上	5.2	-5.2
現住地	19.123	2	***	0.150	三市	-4.3	4.3
					五市	1.6	-1.6
					町村部	3.4	-3.4
出生地	18.601	3	***	0.148	三市	-3.8	3.8
					五市	1.3	-1.3
					町村部	3.4	-3.4
					県外	-1.0	1.0
世帯合計年収	13.507	3	**	0.138	400万円未満	-1.8	1.8
					400万円～600万円	0.5	-0.5
					600万円～800万円	-1.5	1.5
					800万円以上	3.4	-3.4
家族構成	11.607	3	**	0.121	ひとり暮らし	-3.1	3.1
					夫婦のみ	0.4	-0.4
					2世代	-0.2	0.2
					3世代	1.7	-1.7
居住開始世代	9.583	4	***	0.112	自分の代	0.2	-0.2
					親の代	-2.2	2.2
					祖父母の代	-1.1	1.1
					曾祖父母の代	1.0	-1.0
					曾祖父母の代以前	2.2	-2.2

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$

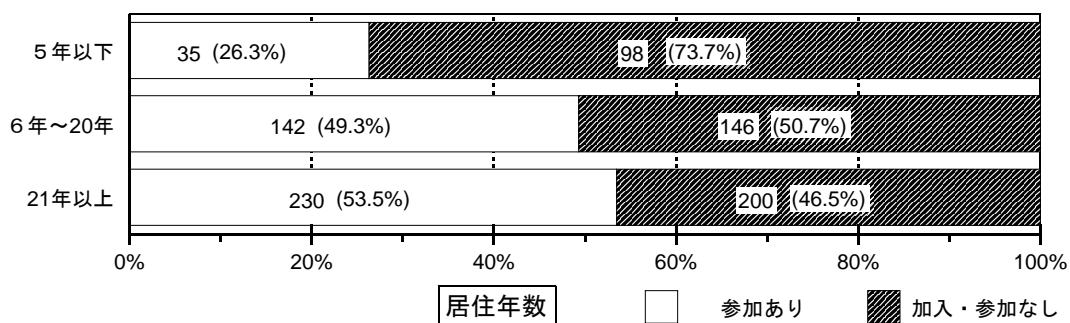
図7 町内会・自治会への加入及び活動への参加と属性



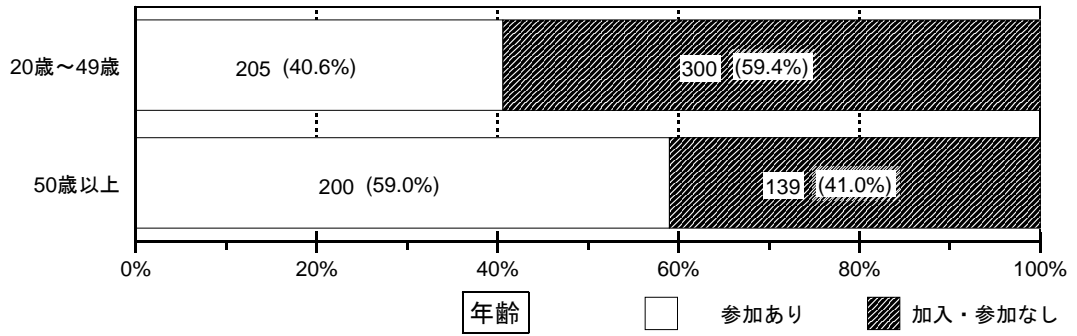
(人)



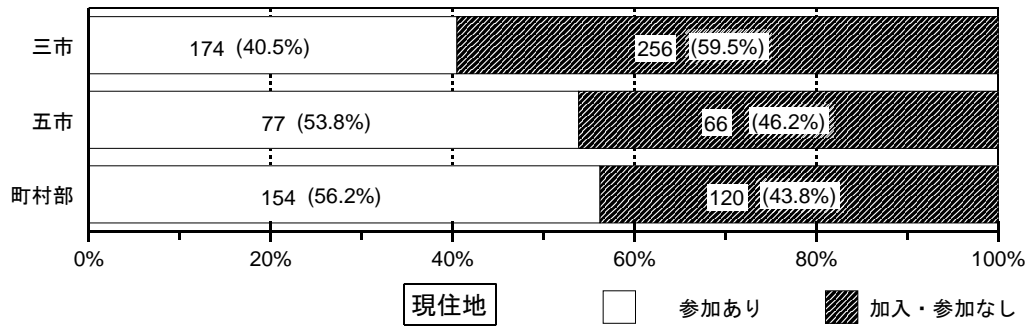
(人)



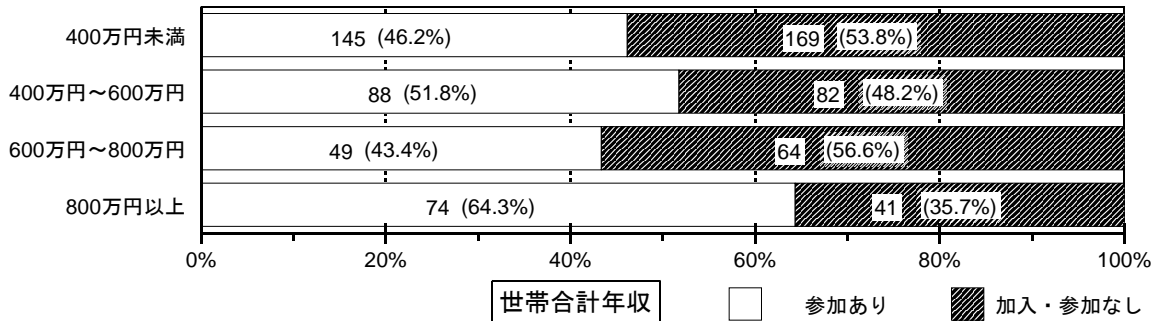
(人)



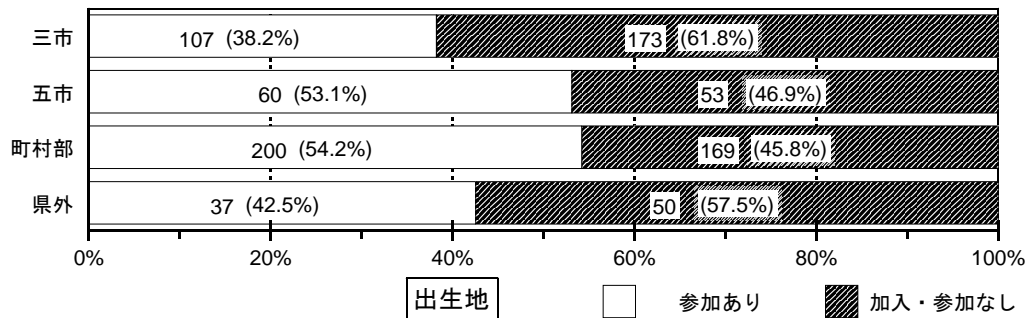
(人)



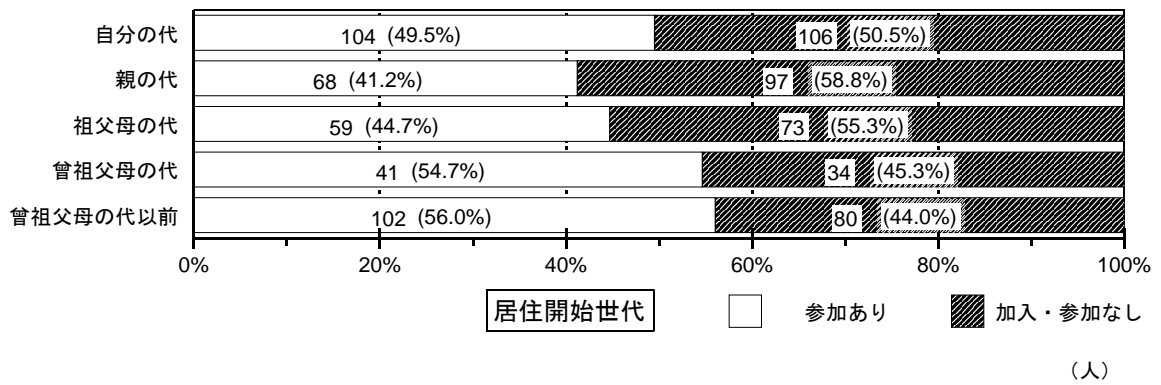
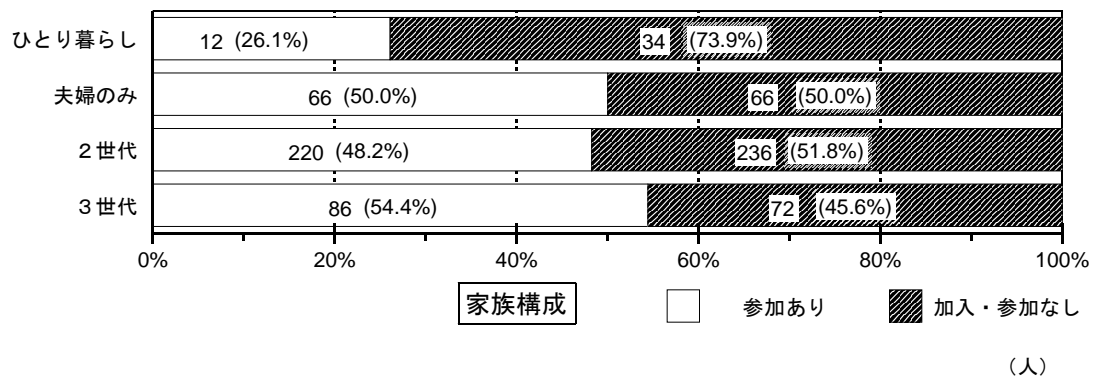
(人)



(人)



(人)



8. 「今後の町内会活動への参加意欲（Q26）」と基本的属性の関連

表8-1は今後の町内会活動への参加意欲と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図8-1はそれらをクロス集計したグラフである。

χ^2 検定の結果、「年齢」「結婚の有無」「住居形態」「居住年数」「居住開始世代」が0.1%、「世帯合計年収」が1%の水準で独立性は棄却され、それぞれ町内会活動への参加意欲と関連のある可能性が示された。以下の括弧内の数値は「参加したい」群の割合である。

残差分析によると、「年齢」では「60歳以上(68.5%)」「50歳～59歳(61.6%)」「40歳～49歳(58.8%)」の参加意欲が高く、「20歳～29歳(24.0%)」「30歳～39歳(37.5%)」は低かった。「結婚の有無」では「既婚者(59.5%)」の参加意欲が多く、「未婚者(21.7%)」は低かった。「配偶者離死別」は有意差がなかった。「住居形態」では「一戸建て(55.4%)」「個人所有(55.0%)」の参加意欲が高く、「集合住宅(41.1%)」「賃貸(37.6%)」は低かった。「居住開始世代」では「曾祖父母の代以前(67.5%)」の参加意欲が高く、「親の代(47.3%)」は低い。「祖父母の代」は「わからない」に対して有意だった。「自分の代」「曾祖父母の代」は有意差がなかった。「世帯合計年収」では「400万円未満(51.4%)」の参加意欲が低い。「400万円～600万円」は「参加したくない」、「800万円以上」では「わからない」に対して負に有意だった。「600万円～800万円」は有意差がなかった。「居住年数」では「21年以上(57.1%)」の参加意欲が高く、「5年以下(40.9%)」は低い。「6年～20年」は有意差がなかった。

以上の結果から、今後の町内会活動への参加意欲は、周辺環境や居住地域の違いに関わらず、年齢や居住年数等の時間的経過によって高くなっていくものと考えられる。

表8-2は現在町内会費を納入している人の町内会への参加状況と、今後の町内会活動への参加意欲をクロス集計したもので、図8-2はそのグラフである。これをみると、現在町内会の活動に参加している人の多くは、今後も参加したいと希望していることがわかる。また残差分析の結果だけをみると、現在町内会に加入・参加していない人との差が大きいものの、加入・参加していない人の4割近くが参加したいという希望を持っている。しかし町内会費を納入している人のうち約3割が町内会に「加入していない」と回答していることから、世帯としては加入しているものの、個人としては加入しているという意識がないか、会費を納入していても町内会に加入しているという意識まで至っていないものと考えられる。つまりゴミステーションの管理等のために、第2の税金として会費を納入しているものの、町内会と関わりがほとんどない人が少なくないということである。

表8-3は町内会費納入の有無と属性の関連である。これをみると、町内会費を納入していないのは年齢が20～30代の未婚者で、短期大学や四年制大学を卒業しており、賃貸・集合住宅に住む、居住年数5年以下の人が多いいえる。単純集計においても、「マンションの管理人まかせ」「町内会の存在を知らない」が町内会費を払っていない理由としてあがっており、「その他」については、アパートのような賃貸・集合住宅の場合、町内会費

の徴収を行わず、市町村の広報等も回覧していないケースも少なくないと考えられ、このような層が町内会との関係が薄いことが明らかになった。

一方、今後の町内会活動への参加意向について「わからない」と回答した人も3割近く存在し、年齢が「30歳～39歳」、結婚の有無では「未婚者」、居住開始世代では「祖父母の代」という層だった。これは町内会がどのような活動を行っているかを認知していないため、活動への参加が判断できないことや、現状の町内会活動に疑問を感じ、町内会活動への参加態度を保留しているために「わからない」と回答していると推察される。つまり町内会の在り方次第で、このような層の参加を促すことができる可能性があるといえる。

次に残差分析によって確認された町内会活動への参加意欲に関連がみられた属性⁽⁷⁾に、「近所づきあいの深さ」「地域活動の経験」「地域社会への態度」「町内会・自治会への加入・参加状況」を加えたものを独立変数に、「今後の町内会活動への参加意欲」を従属変数として、尤度比による変数減少法でロジスティック回帰分析を行い、再度その影響力の度合いを確認した。

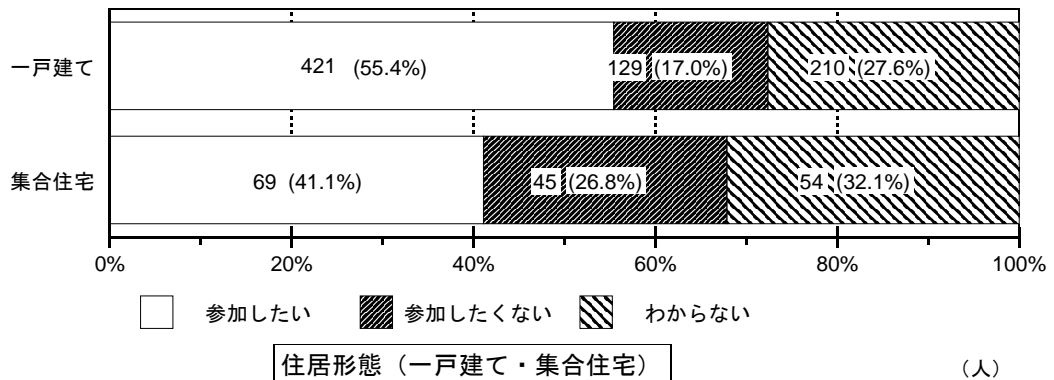
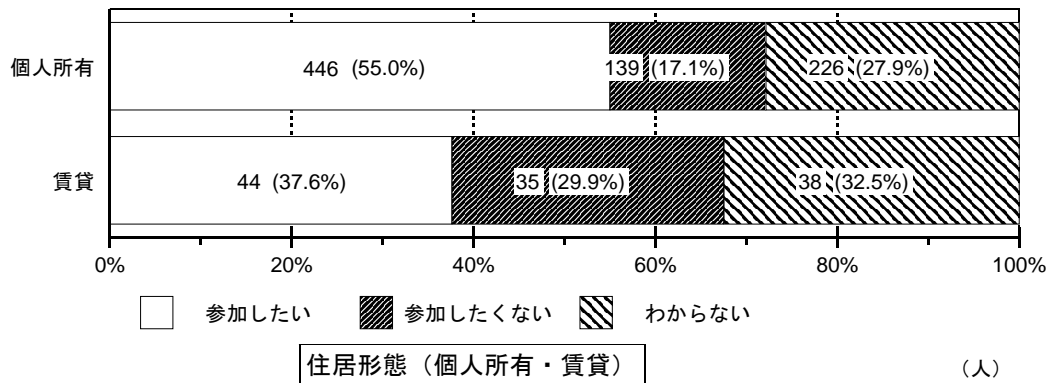
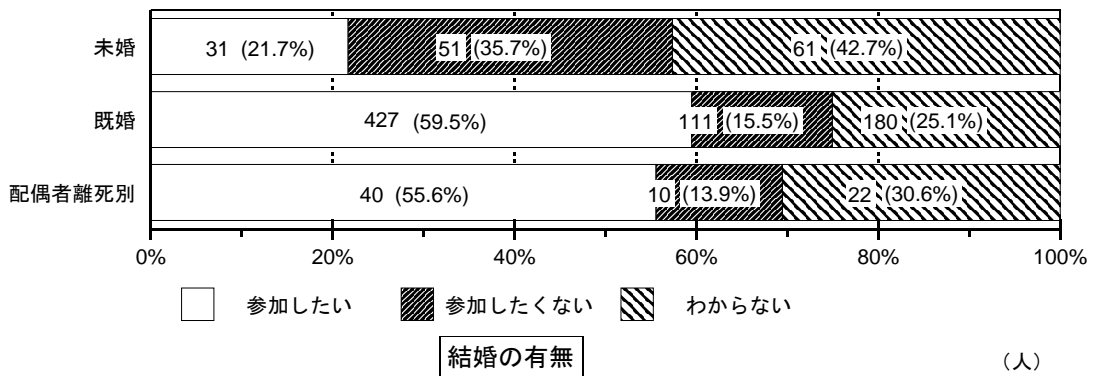
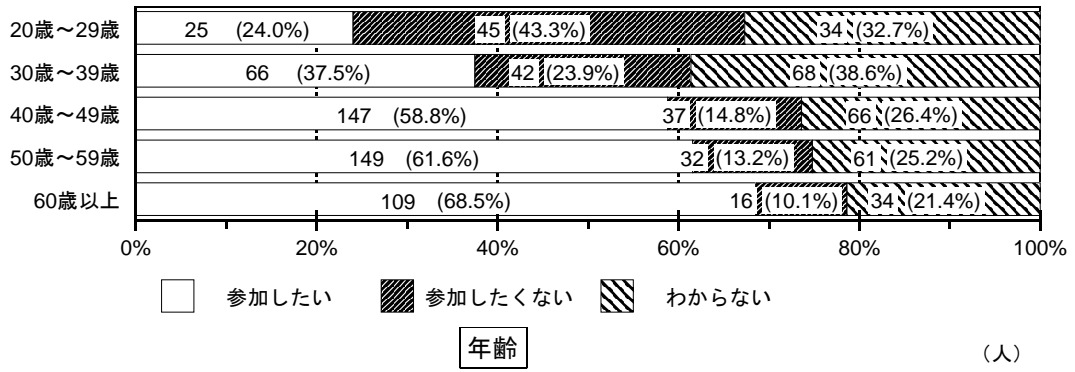
その結果、「結婚の有無」「居住開始世代」「地域社会への態度」「町内会・自治会への加入・参加状況」の4つの要因を用いた予測モデルが得られた。表8-4のオッズ比をみると、個人的属性については残差分析で有意とならなかった「配偶者離死別」が町内会活動への参加意欲が高く、居住開始世代では残差分析と同様の傾向を示した。「地域社会への態度」についてはコミュニティ意識が高いほど参加意欲も高かった。また、現在の「町内会・自治会への加入・参加状況」が今後の町内会活動への参加に対して大きな要因となることが明らかになった。オッズ比では、町内会に「加入していない」「参加したことがない」に対して「たまにしか参加しない」が約4倍、「時々活動に参加」が約14倍、「いつも活動に参加」が約16倍の参加意欲となっており、何らかの形で町内会活動へ参加することが、その後の参加意欲にもつながる可能性があるといえる。

表 8 - 1 今後の町内会活動への参加意欲と属性の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定 結果	Cramer's V	調整済み残差			
					参加した い	参加した くない	わから ない	
年齢	96.532	8	***	0.228	20歳～29歳	-6.3	6.9	1.1
					30歳～39歳	-4.7	2.0	3.4
					40歳～49歳	2.0	-1.8	-0.8
					50歳～59歳	3.0	-2.4	-1.2
					60歳以上	4.2	-3.0	-2.1
結婚の有無	72.501	4	***	0.197	未婚	-8.3	5.8	4.2
					既婚	6.8	-4.3	-3.9
					配偶者離死別	0.4	-1.0	0.5
住居形態（一戸 建て・集合住宅）	13.395	2	***	0.137	一戸建て	3.4	-2.9	-1.2
					集合住宅	-3.4	2.9	1.2
住居形態（個人 所有・賃貸）	15.519	2	***	0.129	個人所有	3.5	-3.3	-1.0
					賃貸	-3.5	3.3	1.0
居住開始世代	26.278	8	***	0.125	自分の代	-0.6	1.0	-0.2
					親の代	-2.5	2.3	0.8
					祖父母の代	-1.7	-1.1	2.8
					曾祖父母の代	1.0	-0.1	-1.0
					曾祖父母の代以前	3.9	-2.3	-2.4
世帯合計年収	16.904	6	**	0.104	400万円未満	-2.8	1.8	1.5
					400万円～600万円	1.7	-2.4	0.2
					600万円～800万円	0.0	-0.6	0.6
					800万円以上	1.9	1.0	-3.0
居住年数	19.306	4	***	0.102	5年以下	-3.0	3.2	0.6
					6年～20年	-0.7	1.5	-0.5
					21年以上	2.8	-3.7	0.6

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

図 8 - 1 今後の町内会活動への参加意欲と属性



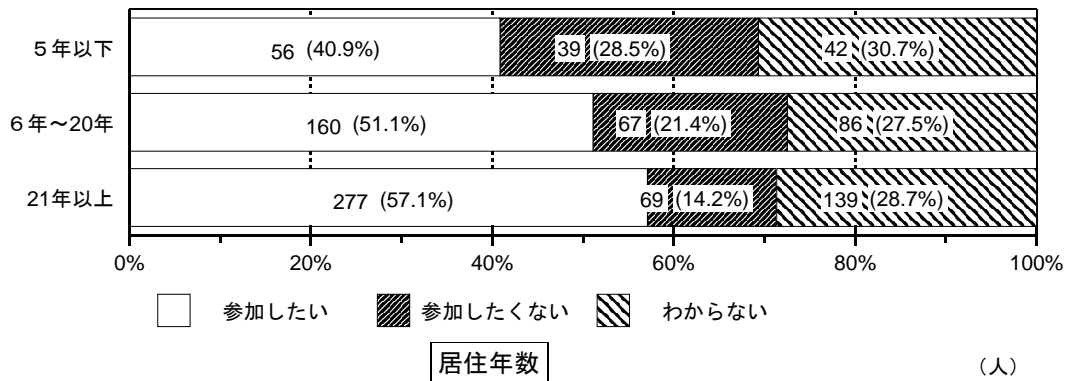
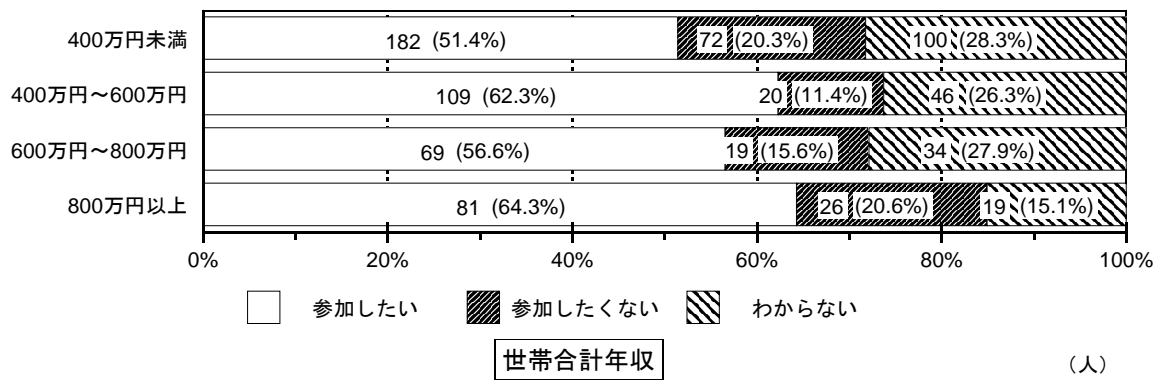
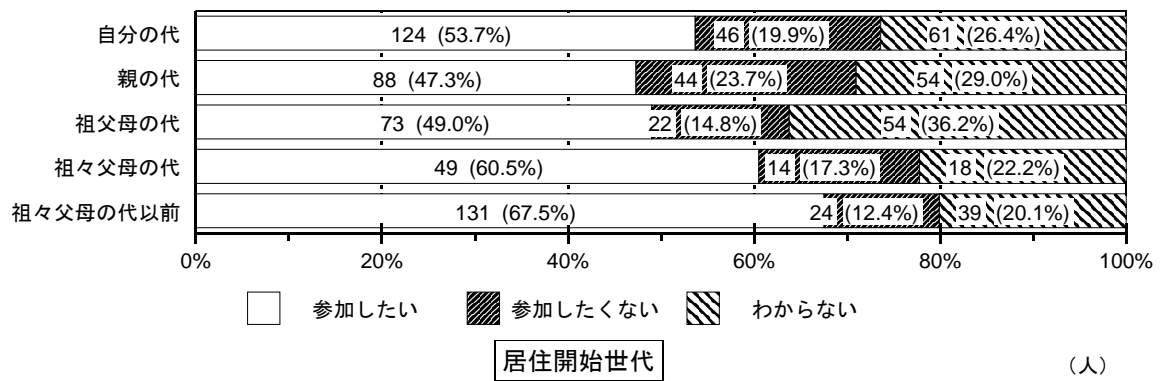


表 8 - 2 今後の町内会活動への参加意欲と現在の町内会への参加の状況

今後の参加希望		現在の状況					合計
		いつも参加	時々参加	たまに参加	参加してない	加入してない	
参加したい	度数	82	121	101	45	76	425
	構成割合	91.1%	82.9%	63.9%	38.5%	35.2%	58.5%
	調整済み残差	6.7	6.7	1.6	-4.8	-8.3	
参加したくない	度数	4	4	16	32	61	117
	構成割合	4.4%	2.7%	10.1%	27.4%	28.2%	16.1%
	調整済み残差	-3.2	-4.9	-2.3	3.6	5.8	
わからない	度数	4	21	41	40	79	185
	構成割合	4.4%	14.4%	25.9%	34.2%	36.6%	25.4%
	調整済み残差	-4.9	-3.4	0.2	2.4	4.5	
合計		90	146	158	117	216	727
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

($\chi^2=153.069$ df=8 $p<0.001$ Cramer's V=0.324)

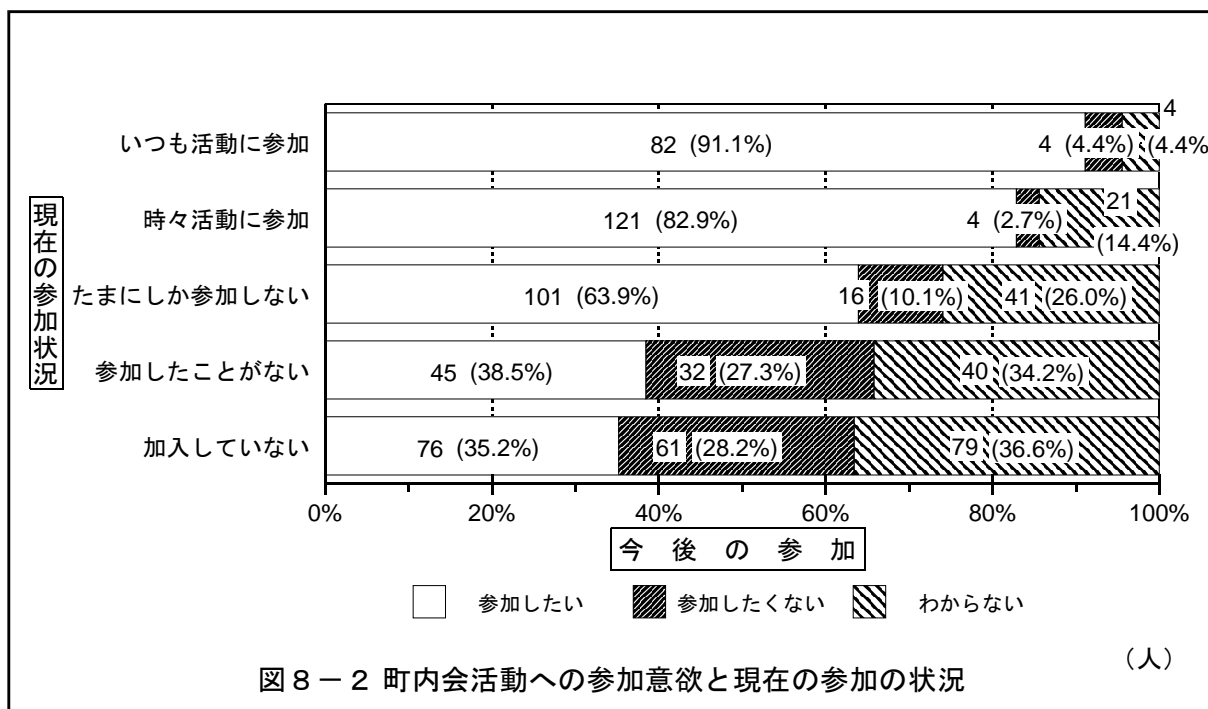


図 8 - 2 町内会活動への参加意欲と現在の参加の状況

(人)

表 8 - 3 町内会費納入の有無と属性の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定 結果	Cramer's V	調整済み残差		
					払っている	払っていない	
年齢	93.245	4	***	0.317	20歳～29歳	-8.4	8.4
					30歳～39歳	-3.0	3.0
					40歳～49歳	1.8	-1.8
					50歳～59歳	4.2	-4.2
					60歳以上	3.0	-3.0
住居形態（個人 所有・賃貸）	91.961	1	***	0.315	個人所有	9.6	-9.6
					賃貸	-9.6	9.6
住居形態（一戸 建て・集合住宅）	84.988	1	***	0.303	一戸建て	9.2	-9.2
					集合住宅	-9.2	9.2
居住年数	75.075	2	***	0.283	5年以下	-8.6	8.6
					6年～20年	1.2	-1.2
					21年以上	4.9	-4.9
結婚の有無	54.479	2	***	0.242	未婚	-7.4	7.4
					既婚	6.0	-6.0
					配偶者離死別	0.3	-0.3
家族構成	30.112	3	***	0.186	ひとり暮らし	-5.5	5.5
					夫婦のみ	0.6	-0.6
					2世代	1.1	-1.1
					3世代	1.2	-1.2
最終学歴	19.932	3	***	0.147	小中学校	3.1	-3.1
					高等学校	1.4	-1.4
					短大各種学校	-2.8	2.8
					四年制大学	-2.3	2.3
居住開始世代	12.347	4	*	0.121	自分の代	-1.9	1.9
					親の代	-1.3	1.3
					祖父母の代	-0.5	0.5
					曾祖父母の代	2.2	-2.2
					曾祖父母の代以前	2.2	-2.2
6歳以下の子ども の有無	13.673	1	***	0.121	いる	-3.7	3.7
					いない	3.7	-3.7

***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

表 8 - 4 今後の町内会活動への参加意欲の規定要因
(ロジスティック回帰分析)

		回帰係数	p 値	オッズ比
結婚の有無	未婚 (base category)		0.004	1.000
	既婚	1.258	0.001	3.520
	配偶者離死別	1.536	0.011	4.645
居住開始	自分の代 (base category)		0.037	1.000
	親の代	-0.171	0.646	0.843
	祖父母の代	0.851	0.061	2.343
	曾祖父母の代	0.805	0.168	2.237
	曾祖父母の代以前	0.794	0.038	2.212
地域社会への態度	低低 (base category)		0.000	1.000
	低	0.776	0.029	2.172
	高	1.634	0.000	5.125
	高高	1.755	0.000	5.784
町内会・自治会への加入・参加状況	加入していない (base category)		0.000	1.000
	参加したことがない	0.074	0.836	1.077
	たまにしか参加しない	1.428	0.000	4.171
	時々活動に参加	2.677	0.000	14.537
	いつも活動に参加	2.792	0.000	16.306

-2 Log likelihood=333.289 $\chi^2=149.18$ df=10 p<0.001

Nagelkerke R²=0.432

9. 「町内会の必要性（Q27）」と基本的属性の関連

表9は町内会の必要性の有無と基本的属性間の χ^2 検定とCramerのV係数の結果を示したもので、図9はそれらをクロス集計したグラフである。

χ^2 検定の結果、「年齢」「居住形態」「結婚の有無」「居住年数」「6歳以下の子どもの有無」が0.1%の水準で独立性は棄却され、それぞれ町内会の必要性の有無と関連のある可能性が示された。以下の括弧内の数値は「必要である」の割合である。

残差分析によると、「年齢」では「60歳以上(90.1%)」「50歳～59歳(87.8%)」「40歳～49歳(86.8%)」の町内会の必要性が高く、「20歳～29歳(59.6%)」「30歳～39歳(68.9%)」はわからないという回答が多かった。「住居形態」では「一戸建て(84.1%)」「個人所有(83.4%)」の町内会の必要性が高く、「集合住宅(66.3%)」「賃貸(63.6%)」はわからないという回答が多かった。「結婚の有無」では「既婚者(84.3%)」の町内会の必要性が高く、「未婚者(62.2%)」はわからないという回答が多かった。「配偶者離死別」は有意差がなかった。「居住年数」では「21年以上(87.6%)」の町内会の必要性が高く、「6年～20年(76.8%)」は必要性が低く、「5年以下(66.4%)」はわからないという回答が多かった。「6歳以下の子どもの有無」では「いない(83.5%)」の町内会の必要性が高く、「いる(69.4%)」は必要ないまたはわからないという回答が多かった。

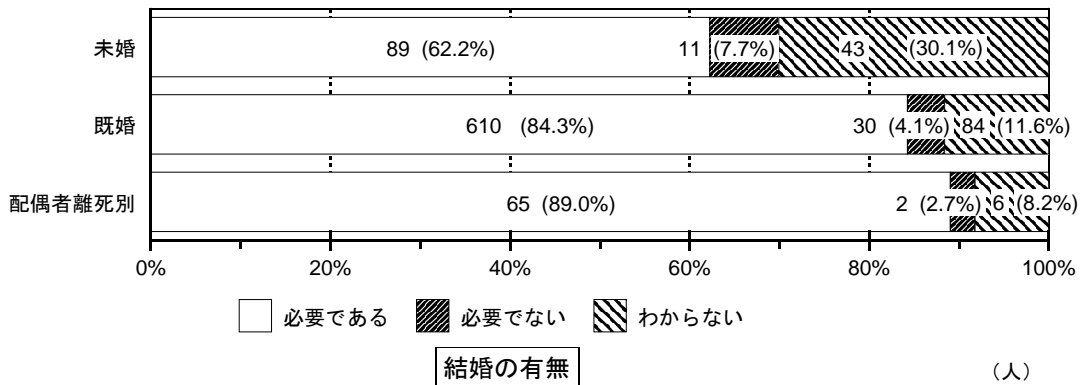
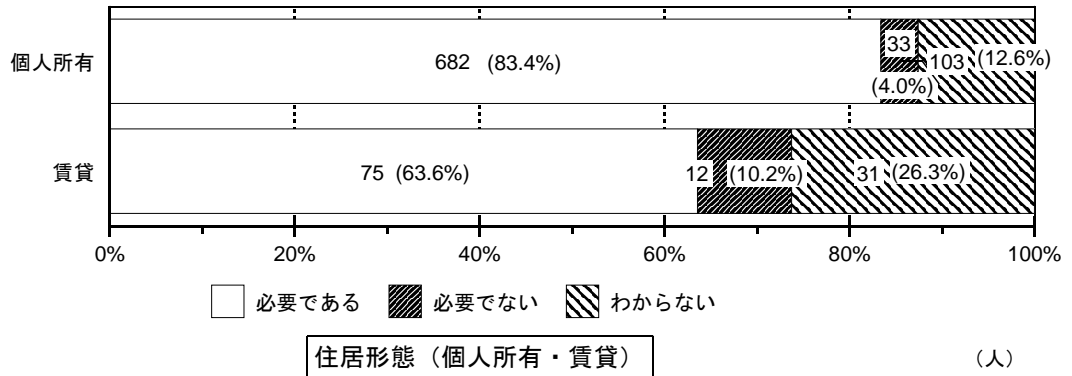
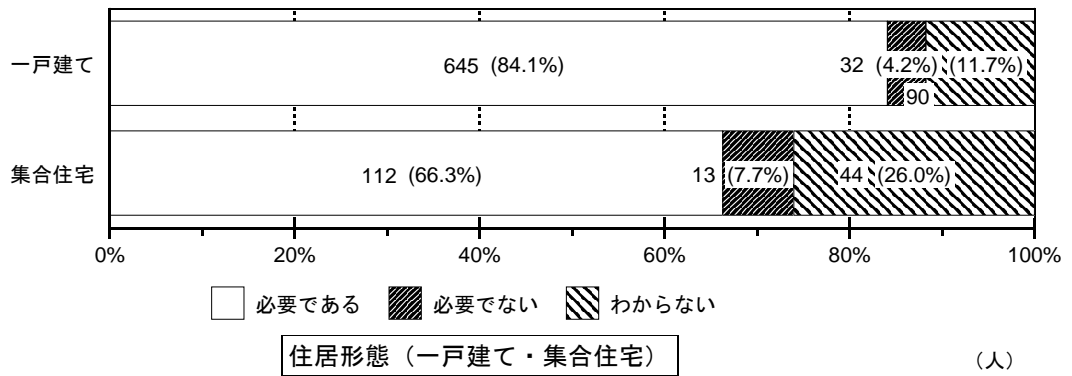
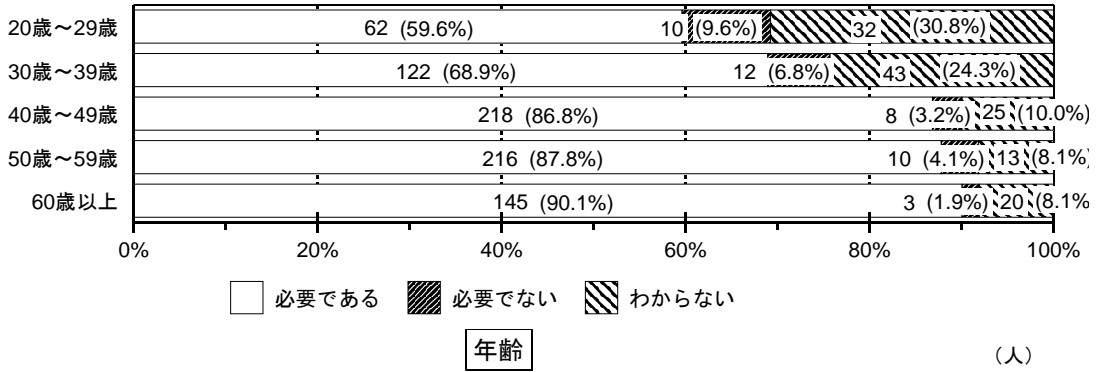
以上のように、残差分析では、年齢が40歳以上で個人所有の一戸建てに21年以上住む人が、町内会の必要性を認める割合が多かった。年齢が39歳以下で賃貸・集合住宅に住む居住年数が5年以下の人は、町内会の必要性についてわからないと回答する人が多かった。これは「今後の町内会活動への参加意欲」で指摘したように、町内会との関連が薄いことから必要性を判断できないものと考えられる。しかしそれぞれの属性内で差異はみられたものの、単純集計では8割程度の割合で町内会の必要性を認めており、町内会が有する機能や役割が重要であることは明らかであるといえよう。

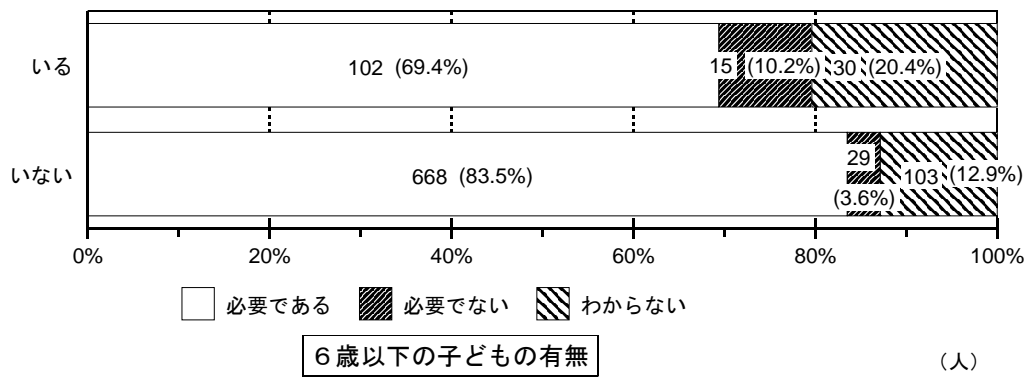
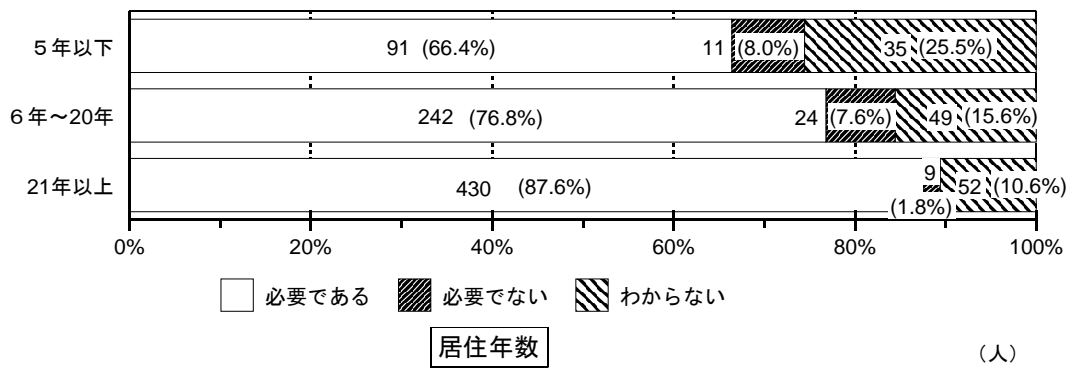
表9 町内会の必要性と属性の関連

属性	χ^2 値	自由度	検定 結果	Cramer's V	調整済み残差			
					必要である	必要ない	わからない	
年齢	71.275	8	***	0.195	20歳～29歳	-6.0	2.6	5.2
					30歳～39歳	-4.7	1.6	4.3
					40歳～49歳	2.7	-1.2	-2.2
					50歳～59歳	3.1	-0.4	-3.2
					60歳以上	3.1	-1.8	-2.4
住居形態（一戸 建て・集合住宅）	28.793	2	***	0.175	一戸建て	5.3	-1.9	-4.8
					集合住宅	-5.3	1.9	4.8
住居形態（個人 所有・賃貸）	26.560	2	***	0.168	個人所有	5.1	-2.9	-4.0
					賃貸	-5.1	2.9	4.0
結婚の有無	42.330	4	***	0.150	未婚	-6.3	1.9	5.9
					既婚	4.3	-1.2	-4.1
					配偶者離死別	1.8	-0.8	-1.5
居住年数	41.590	4	***	0.148	5年以下	-4.7	2.0	4.0
					6年～20年	-2.3	3.0	0.7
					21年以上	5.4	-4.3	-3.5
6歳以下の子ども の有無	19.628	2	***	0.144	いる	-4.0	3.5	2.4
					いない	4.0	-3.5	-2.4

***: p<0.001

図9 町内会の必要性和属性





註

- (1) 複数の変数からなるデータを、変数相互の関連を考慮しながら、目的に応じて分析する統計手法の総称を多変量解析といい、ロジスティック回帰分析はその一つである。ロジスティック回帰分析は、注目する結果が、比率や2値データ(0 or 1、YES or NO)の形で得られるような状況において、その結果を複数の要因から推定することが可能であり、各要因の影響の程度はオッズ比として得られる。
- (2) 交際量の平均値(人数)の逆数を用いて算出し、それを各項目の人数に掛けたものを合計することで、それぞれの対象者の近隣交際指数としている。本調査で参考にした小田(2003)の研究は神戸市に住む65歳以上の高齢者を対象にして近隣交際量の調査を行ったものである。調査は1999年に行われ、最終的な回収率は2732票(回収率54.6%)となっている。本調査の高齢者のデータと各項目ごとに比較すると、平均値には極端な違いはみられなかったものの、本県の高齢者の非交際率(0人の割合)が特に「あいさつ…本県(15.8%)、神戸(0.7%)」や「立ち話…本県(23.2%)、神戸(6.3%)」で高いことが看取された。ただし本調査の65歳以上の高齢者の有効サンプルは95票である上、平均値等の限られたデータからの比較であり、また1995年の阪神・淡路大震災を経て神戸の住民のコミュニティに対する意識に変化があったことを勘案すると厳密なものとはいえない。
- (3) 「通勤時間」は職業を持つ人に限られるため除外している。多変量解析は使用するすべての変数間の相互関連を分析する統計的手法のため、欠損値が多い変数や特定の人しか回答できない変数を除外した。
- (4) 本調査では一部ワーディングを修正して実施した。
- (5) 岡山市市民情報化サイト, available from [〈html http://townweb.litcity.ne.jp/〉](http://townweb.litcity.ne.jp/), (accessed 2004-02)
- (6) 忠生忠霊地区自治会ホームページ(東京都町田市), available from [〈http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/4027/〉](http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/4027/), (accessed 2004-02)
- (7) 独立変数相互に高い相関がある場合には、推定精度が低下するため従属変数との相関が低いほうを落とす必要がある。「住居形態」の2形態は相関が高いため一戸建て・集合住宅のみとした。また「世帯合計年収」はサンプル数がやや少ないため除外した。

参考・引用文献

- ・大谷信介(2001)「都市ほど近隣関係は希薄なのか?」金子勇・森岡清志 編『都市化とコミュニティの社会学』ミネルヴァ書房, pp. 170-191.
- ・大槻知史(2002)「京都市西陣地域におけるインフォーマル交流の分析」『政策科学』10, pp. 21-31.
- ・小田利勝(2003)「都市高齢者の近隣交際量の分析」『人間科学研究』10-2, pp. 1-20.
- ・岐阜県地方自治大学校(1994)『地域コミュニティの再生を目指す一策としての里親制度』available from [〈http://www.pref.gifu.jp/s21401/kenkyu/1/1_24.htm〉](http://www.pref.gifu.jp/s21401/kenkyu/1/1_24.htm), (accessed 2003-07)
- ・札幌市総務局(1997)『第3回市政モニター調査』available from [〈http://www.city.sapporo.jp/somu/monita/s_mokuji.htm〉](http://www.city.sapporo.jp/somu/monita/s_mokuji.htm), (accessed 2003-07)
- ・田中國夫・藤本忠明・植村勝彦(1978)「地域社会への態度の類型化について」『心理学研究』49-1, pp. 36-43.
- ・内閣府(旧総理府)(1988)『家庭と地域の教育力に関する世論調査』available from [〈http://www8.cao.go.jp/survey/s63/S63-07-63-09.html〉](http://www8.cao.go.jp/survey/s63/S63-07-63-09.html), (accessed 2003-07)
- ・堀洋道・山本真理子・松井豊 編(1994)『心理尺度ファイル』垣内出版.
- ・ライフデザイン研究所(2001)「今後の生活に関するアンケート」『ライフデザイン白書』available from [〈http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/chosa-hyo/0324c.html〉](http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/chosa-hyo/0324c.html), (accessed 2003-07)

平成15年度

人と地域のつながりに関する調査

調査用紙

青森県教育委員会
青森県総合社会教育センター

●この調査の対象者について

この調査の対象者は、公職選挙法第29条（通報及び閲覧等）に基づき、皆様がお住まいの市町村の許可を得て、選挙人名簿から無作為に選ばせていただきました。

●記入上のお願い

- 1 必ず宛名のご本人が回答してください。
- 2 回答は、この調査用紙に直接ご記入ください。

●返送についてのお願い

「調査用紙」を三つ折りにし同封の返信用封筒に入れ（切手は不要です）、締切期日までに郵便ポストに入れてくださいますようお願いいたします。

9月30日（火）までに投函してください。

なお、差出人は無記名でかまいません。

- この調査に対する質問や不明な点がありましたら下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

〒030-0111 青森県青森市荒川藤戸119-7

青森県総合社会教育センター 研究開発課

電話 017-739-1251

Q 1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号を○で囲んでください)

- 1 男性
- 2 女性

Q 2 あなたの年齢をお知らせください。

満_____歳

Q 3 あなたの職業は、大きく分けて、次のどれにあたりますか。

- 1 自営業
- 2 家族従事者
- 3 給与所得者
- 4 専業主婦(夫)
- 5 パートタイマー・アルバイト・嘱託など
- 6 学生
- 7 その他(具体的に: _____)
- 8 仕事をしていない → Q 4 へ

Q 3-1 通勤・通学をしている方にお聞きします。あなたのご自宅から職場や学校まで、どれくらいの時間がかかりますか。

- 1 歩いて15分以内
- 2 車・バス・電車で15分以内
- 3 車・バス・電車で15分～30分程度
- 4 車・バス・電車で30分～1時間程度
- 5 それ以上
- 6 自宅が勤務場所である

Q 3-2 仕事をしている方にお聞きします。あなたはご自身の仕事のつごうで、引っ越したことがありますか。

- 1 引っ越したことがある
- 2 引っ越したことがない

Q 4 あなたは結婚けっこんしていますか。

1 未婚みこん

2 既婚きこん・配偶者はいぐうしやあり（現在夫または妻がいる）

3 既婚きこん・配偶者はいぐうしや離死別りしべつ（夫または妻と離別りべつ・死別しべつして現在独身）

Q 5 あなたの家族構成（同居している人）を教えてください。

1 ひとり暮らし

2 夫婦のみ

3 2世代（親と子）

4 3世代（親と子と孫）

5 その他

Q 6 あなたにはお子さんがいますか。

1 はい

2 いいえ → **Q 8**へ

Q 7 お子さんの年齢ねんれいは何歳ですか。

第一子・・・・・・・・（ ）才

第二子・・・・・・・・（ ）才

第三子・・・・・・・・（ ）才

第四子・・・・・・・・（ ）才

第五子・・・・・・・・（ ）才

6人以上いらっしゃる場合、お子さんは全員で何人ですか。

（ ）人

Q 8 あなたの^{しゅっしょうち}出生地（生まれた場所）はどちらですか。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1 青森市 | 9 東津軽郡 |
| 2 弘前市 | 10 西津軽郡 |
| 3 八戸市 | 11 中津軽郡 |
| 4 五所川原市 | 12 南津軽郡 |
| 5 黒石市 | 13 北津軽郡 |
| 6 十和田市 | 14 上北郡 |
| 7 三沢市 | 15 下北郡 |
| 8 むつ市 | 16 三戸郡 |
| | 17 県外：都道府県名_____ |
| | 18 海外：地 名_____ |

Q 9 あなたは^{げんざい}現在どちらにお住まいですか。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 青森市 | 9 東津軽郡 |
| 2 弘前市 | 10 西津軽郡 |
| 3 八戸市 | 11 中津軽郡 |
| 4 五所川原市 | 12 南津軽郡 |
| 5 黒石市 | 13 北津軽郡 |
| 6 十和田市 | 14 上北郡 |
| 7 三沢市 | 15 下北郡 |
| 8 むつ市 | 16 三戸郡 |

Q10 あなたのご自宅の^{まわ}周りを見回してください。あなたのご自宅の^{しゅうへん}周辺は、どのような^{かんきょう}環境ですか。

- 1** 住宅地域
- 2** 商業地域
- 3** 工業地域
- 4** 農業地域
- 5** 漁業地域
- 6** 山間地域
- 7** その他（ _____ ）

Q11 県外に住んでいたことがある方におうかがいします。通算で何年くらい県外に住んでいましたか。

_____年

Q12 あなたのご親戚しんせきの方（同居していない親兄弟を含む）で、一番近くに住んでいる方はどちらにお住まいですか。

- 1 同じ市町村内にいる
- 2 県内にいる
- 3 県外にいる
- 4 その他（ _____ ）

Q13 あなたのお住まいについて教えてください。

- 1 一戸建て（個人所有）
- 2 分譲ぶんじょうマンション（個人所有）
- 3 一戸建て（借家）
- 4 賃貸ちんたいマンション・アパート（公営住宅・官舎を含む）
- 5 その他（ _____ ）

Q14 あなたが現在お住まいの市町村に、家族や先祖きよじゅうが居住を開始したのは、どの世代からですか。

- 1 自分の代
- 2 親の代
- 3 祖父母の代
- 4 祖々父母の代
- 5 祖々父母の代よりも以前
- 6 知らない

Q15 あなたは現在地げんざいちにお住まいになって通算つうさん何年になりますか。

- | | | | |
|---|--------|----|--------|
| 1 | 1年未満 | 6 | 21～30年 |
| 2 | 1～5年 | 7 | 31～40年 |
| 3 | 6～10年 | 8 | 41～50年 |
| 4 | 11～15年 | 9 | 51～60年 |
| 5 | 16～20年 | 10 | 61年以上 |

Q16 あなたが、今後人間関係にんげんかんけいやつきあいを深めていきたいと思うのは次のどなたですか。(〇はいくつでも)

- 1 家族
- 2 家族以外の親族
- 3 地域や近所の人
- 4 職場や仕事関係の人
- 5 学校・学生時代の友人
- 6 趣味しゅみや習いごとのサークルを通じての友人
- 7 子どもを通じての友人
- 8 配偶者を通じての友人
- 9 その他の個人的友人
- 10 インターネットや携帯電話（メール）を通じての友人
- 11 NPOなどの市民活動を通じての友人
- 12 つきあいを深めていきたいという人はいない
- 13 その他（ ）

Q17 あなたのご近所つきあいについてお聞きします。次にあげる質問にあてはまるご近所の方の人数をお答えください。なお「ご近所」とは日頃あなたがご近所だと感じている範囲でお考えください。

1	気軽に家に行ったり来たりする	人
2	日頃、おすそ分けをしたり、もらったりする	人
3	顔を合わせれば、あいさつをする	人
4	会えば立ち話をする	人
5	お祝い事をしたり、されたりする	人
6	一緒 <small>いっしょ</small> に買い物・食事・レジャー・スポーツ等をする	人
7	ちょっとした物の貸し借りができる	人
8	困ったときに相談したり助け合ったりする	人
9	金銭の貸し借りをする	人

Q18 あなたのご近所とのおつきあいについてお聞きします。あなたがもっとも親しくしている人を一人決めてください。その人とのおつきあいの状況についてお聞きします。

		はい	いいえ
1	その人の ^{かぞくこうせい} 家族構成を知っていますか	1	2
2	その人の ^{しゅっしんち} 出身地を知っていますか	1	2
3	その人のお宅の ^{せたいぬし} 世帯主の ^{しよくぎょう} 職業を知っていますか	1	2
4	その人の ^{さいしゅうがくれき} 最終学歴を知っていますか	1	2
5	その人の結婚のいきさつ（未婚の場合は恋人の有無）を知っていますか	1	2
6	その人の現在の ^{なや} 悩みを知っていますか	1	2
7	その人と最近一ヶ月の間に一緒に出かけたり、買い物・食事等に行ったことがありますか	1	2
8	その人におすそわけ（お土産 ^{みやげ} を含む）をしたりもらったりしたことがありますか	1	2
9	その人の家に遊びに行ったり（来たり）したことがありますか	1	2
10	その人に自分の悩み事を話したことがありますか	1	2
11	その人とは家族ぐるみのつきあいをしていますか	1	2
12	その人に立ち入った ^{たのみごと} 頼み事（留守中 ^{るすちゅう} のことなど）をしたことがありますか	1	2

Q19 あなたは、自分の住む地域のために次のような活動を行ったことがありますか。

		あ る	な い
1	お年寄りや体の不自由な方々へのボランティア	1	2
2	地震などの災害 <small>さいがい</small> に備えて、避難訓練 <small>ひなんくんれん</small> や避難場所 <small>かくにん</small> の確認	1	2
3	ゴミ拾いなど、共同で地域の清掃 <small>びかかつどう</small> や美化活動	1	2
4	駐車違反 <small>ちゆうしゃいはん</small> や迷惑駐車 <small>めいわく</small> をしない呼びかけなど、運転者の交通マナーを高めるための活動	1	2
5	古紙、空きびんの収集などの資源回収 <small>しげんかいしゅう</small>	1	2
6	地域の公共スペース <small>じよせつさぎょう</small> の除雪作業	1	2
7	防火や防犯のための見回り	1	2
8	バザー、フリーマーケットなど、資源再利用 <small>しげんさいりよう</small> の催し物 <small>もよお もの</small>	1	2
9	登下校する児童への、交通安全 <small>がいとう</small> の街頭指導 <small>きけんかしょ</small> や、危険箇所見回りなどの地域の子どもの安全管理	1	2
10	一時的な子守 <small>こもり</small> を引き受けるなど、子育て中の家庭に対する育児の手伝い	1	2

Q20 あなたがお住まいの地域は、あなたが子どもの頃と比べて、住民同士のつながりはどうなったと思いますか。

- 1 つながりは弱くなったと感じる
 2 変わらない
 3 つながりは強くなったと感じる → **Q20-2**へ
 4 わからない（子どもの頃には住んでいなかった）
 5 その他（ ）

Q20-1 「**Q20**」でつながりは弱くなったと感じている方へ。次にあげる項目は、地域の人と人のつながりが弱くなった原因だと思いますか。

		そう思う	そう思わない
1	共同で作業する必要がなくなった	1	2
2	仕事場が居住地から遠くなった	1	2
3	近所づきあいをする場所がない	1	2
4	近所に子どもが少ない	1	2
5	居住地に対する人々の愛着がなくなった	1	2
6	個人の意見や利益を優先させるような考え方が広がった	1	2
7	様々な情報が充実し地域とかかわらずとも生活できる	1	2
8	近所のまとめ役（リーダー）がいなくなった	1	2
9	転勤等による引っ越しが多くなった	1	2
10	居住地域以外に職場の人々とのつきあいが多くなった	1	2
11	居住地域以外の友人とのつきあいが多くなった	1	2
12	居住地域以外の人と趣味や習いごとのサークルでのつきあいが多くなった	1	2
13	家庭や地域へ父親の参加が不足している	1	2
14	その他（他に気がついたことがありましたらお書きください）		

Q20-2 「Q20」でつながりは強くなったと感じている理由はなんですか。
 (〇はいくつでも)

- 1 地域の人が集まって話し合える場所が増えた
- 2 地域のまとめ役がしっかりしている
- 3 地域活動への参加者が多くなった
- 4 地域活動の回数が多くなった
- 5 わからない
- 6 その他 ()

Q21 あなたのお住まいの地域では、住民同士のつながりを強めるために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。それぞれの項目について、あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を〇で囲んでください。

		とても必要	少しは必要	あまり必要ではない	必要ではない	わからない
1	地域の人々同士があいさつをよくする	1	2	3	4	5
2	地域の人々が親しくなれる行事(イベント)の活性化 <small>かっせい</small>	1	2	3	4	5
3	地域の人々が日常的に集まり、話し合える場所の充実	1	2	3	4	5
4	地域の人々が参加する団体の活性化	1	2	3	4	5
5	<small>ちてきかんしん</small> 知的関心、趣味を共有する人々のグループの活性化	1	2	3	4	5
6	地域の人々が気軽に相談できる人がいること	1	2	3	4	5
7	子ども達のがのびのび遊べる空間の整備	1	2	3	4	5
8	地域の人々のニーズに応じた学習の機会の充実	1	2	3	4	5
9	学校の活動への地域の人々の参加	1	2	3	4	5
10	<small>しせつ</small> 学校の施設・機能の地域への開放	1	2	3	4	5
11	<small>しょうか</small> 青少年を取り巻く社会環境の浄化	1	2	3	4	5
12	子ども達が生活の知識や技術を習得する機会	1	2	3	4	5
13	その他(他に気がついたことがありましたらお書きください)					

Q22 次にあげるものについて参加してみたいと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

		ぜひ参加したい	できれば参加したい	あまり参加したくない	参加したくない	わからない
1	かんきょうほご 環境保護（清掃活動、リサイクル、地域緑化、自然動植物保護など）	1	2	3	4	5
2	ふくしかつどう 福祉活動（高齢者家庭の訪問、しょうがいしゃ ボランティアなど）	1	2	3	4	5
3	じんけん 人権（人権啓発、女性の地位向上活動など）	1	2	3	4	5
4	せいしょうねんいくせい 青少年育成（子育て支援、PTA活動、学 童保育活動など）	1	2	3	4	5
5	げいじゆつ 芸術や文化の振興（伝統芸能の継承、美 術館ボランティアなど）	1	2	3	4	5
6	スポーツ振興（地域スポーツ活動、少年野 球の指導など）	1	2	3	4	5
7	ぶんかざいほご 文化財保護（郷土の歴史的遺産の保存活動 など）	1	2	3	4	5
8	こくさいこうりゆう 国際交流（留学生との交流、通訳ボラン ティア、ホームステイ受け入れなど）	1	2	3	4	5
9	その他（他に気がついたことがありましたらお書きください）					

Q23 あなたは次にあげる意見についてどう思われますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそうは思わない	そうは思わない
1	町内会での発言は、あとでいろいろ言われやすいの なるべく発言したくない	1	2	3	4	5
2	この町をよくするための活動は、地元の熱心な人た ちに任せておけばよい	1	2	3	4	5
3	学校の整備や遊び場の確保などについては、行政のほ うでうまくやってくれる	1	2	3	4	5
4	自分の住んでいる地域で、環境破壊反対運動がおきて もそれにかかわりたくはない	1	2	3	4	5
5	近所の顔見知りの人とは親しくしたいが、知らない人 とはそれほど親しくなりたいとは思わない	1	2	3	4	5
6	町内会の世話をしてくれと頼まれたら、引き受けても よいと思う	1	2	3	4	5
7	地域の生活環境をよくするための公共施設の建設計画 がある場合、自分の所有地や建物の提供にはできるだ け協力したい	1	2	3	4	5
8	自分の近所に一人暮らしの老人がいたら、その老人の ために日常生活の世話をしてあげたい	1	2	3	4	5
9	地域の人たちと何かをすることで、自分の生活の豊か さを求めたい	1	2	3	4	5
10	今住んでいる地域に、誇りとか愛着のようなものを 感じている	1	2	3	4	5

Q26 あなたは今後、お住まいの地域の町内会の活動に参加したいと思いますか。

- 1 参加したい（現在参加している人も含む）
- 2 参加したくない → **Q26-1**へ
- 3 わからない

Q26-1 町内会の活動に参加したくない理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを○で囲んでください。

- 1 年齢差^{ねんれいさ}があり、とけこめない
- 2 他に優先^{ゆうぜん}したいことがある
- 3 参加に対する満足感^{まんぞくかん}が得られない
- 4 参加の意義^{いぎ}が感じられない
- 5 町内会の活動に魅力^{みりょく}が感じられない
- 6 自分がやらずとも、他の人がやってくれるから
- 7 その他（)

Q27 お住まいの地域に町内会は必要^{ひつよう}だと思いませんか。

- 1 必要である → **Q27-1**へ
- 2 必要でない → **Q27-2**へ
- 3 わからない

Q27-1 町内会は必要だと思ふ理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを○で囲んでください。

- 1 町内の課題^{かだい}を解決^{かいけつ}する場が必要
- 2 自分の町を住みやすくするため
- 3 お互いに助け合うことが必要でありそのためにコミュニケーションが必要
- 4 災害時^{さいがいにじ}の助け合いに必要
- 5 その他（)

Q27-2 町内会は必要でないと思ふ理由は何ですか。次の中から当てはまるものすべてを○で囲んでください。

- 1 利益^{りえき}がない
- 2 活動の多くが必要性が低いと感じる
- 3 町内会の業務^{ぎょうむ}の多くは、行政が負担^{ふたん}もしくは行うべきである
- 4 その他（)

Q28 あなたがお住まいの地域の町内会などの団体にとって、これから特に取り組むべき活動はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに一番近いものを一つ選んで数字を○で囲んでください。

		とても必要	少しは必要	あまり必要でない	必要ない	よくわからない
1	町内会だよりの発行	1	2	3	4	5
2	地区内の各種団体との連絡調整	1	2	3	4	5
3	レクリエーション	1	2	3	4	5
4	文化祭	1	2	3	4	5
5	祭り	1	2	3	4	5
6	慶弔 <small>けいちよう</small> の手助け	1	2	3	4	5
7	防災・防火	1	2	3	4	5
8	防犯	1	2	3	4	5
9	交通安全運動	1	2	3	4	5
10	集会施設の管理	1	2	3	4	5
11	地区の清掃	1	2	3	4	5
12	募金	1	2	3	4	5
13	要望の取り次ぎ	1	2	3	4	5
14	その他					

Q29 あなたの最終学歴さいしゅうがくれき（最後に出た学校）は、次のうちどれにあたりますか。（学生の方は、現在通っている学校についてお答えください。）

- 1 小・中学校（尋常じんじょう小学校、高等ふく小学校を含む）
- 2 高等学校（旧制中学校、女学校、実業学校を含む）
- 3 短期大学・専修学校・高等専門学校・各種学校等
- 4 四年制大学以上（旧制高校、旧制高等専門学校、師範学校、大学校を含む）
- 5 その他（ ）

Q30 結婚している方にうかがいます。あなた方ご夫婦は共^{ともばたら}働きですか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q31 差し支えなければお答えください。あなたの世帯の一年間の収入の合計額（^{ぜいこみ}税込み）はどれくらいですか。次の中から選んでください。（^{しさんばいきやく}資産売却による収入は^{のぞ}除きます）。

- 1 200万円未満
- 2 200万円～400万円
- 3 400万円～600万円
- 4 600万円～800万円
- 5 800万円～1000万円
- 6 1000万円～1500万円
- 7 1500万円以上
- 8 わからない

調査はこれで終了です。お手数をおかけいたしますが、記入の終わった調査用紙は、同封の封筒に三つ折りにして入れて返送してください。（切手は不要です）

ご協力、誠にありがとうございました。

※なお、この調査の結果については報告書にまとめ、来年の6月までにお近くの公民館などに配布しますので、ご自由にご覧いただけます。また当センターのホームページ（<http://alis.net.pref.aomori.jp/>）でもご覧いただけます。

現代的課題の調査研究委員会の委員等名簿及び委員会の日程

【委員】

	氏名	所 属	職 名
座 長	福 士 隆 三	青森地域社会研究所	専務理事
副座長	井 上 秀 美	県女性相談所	非常勤嘱託
	池 邊 俊 彰	青森観光コンベンション協会	副会長
	小山内世喜子	青森市男女共同参画社会 づくりをすすめる会	副会長
	横 山 恵 子	浪岡町中央公民館	主任主査
	吉 村 治 正	青森大学社会学部	講師

【関係職員】

氏 名	所 属	職 名
豊 澤 武 輝	総合社会教育センター	所長
木 村 謹 文	〃	副所長
藤 田 博 巳	〃	開発課長
工 藤 睦 美	〃	指導主事
野 崎 信 司	〃	社会教育主事
小 田 桐 世 長	〃	指導主事
成 田 信 己	〃	社会教育主事
渡 部 靖 之	生涯学習課	社会教育主事

【委員会開催日程】

	開催年月日	内 容
第 1 回	平成15年 5月27日	委員委嘱、調査実施計画案
第 2 回	平成15年 7月 8日	調査票の検討
第 3 回	平成15年10月29日	単純集計の分析
第 4 回	平成16年 1月29日	クロス集計の分析
第 5 回	平成16年 2月19日	報告書案の検討